

2 0 2 5

大学院シラバス（博士前期課程）

Syllabus for Master's Students

大学院シラバス（博士後期課程）

Syllabus for Doctor's Students



Nagano College of Nursing

目 次

I 博士前期課程

授業科目一覽	3
必修科目授業内容	6
領域別分野専門科目授業内容 . .	14
選択必修科目授業内容	169
共通選択科目授業内容	172

II 博士後期課程

授業科目一覽	206
必修科目授業内容	208
領域別分野専門科目授業内容 . .	211
共通選択科目授業内容	235

I

博士前期課程

授業科目一覽

博士前期課程授業科目一覽

(1)論文コース

授業科目		科目番号	単位数	学年別時間数				計
				1年		2年		
				前学期	後学期	前学期	後学期	
必修科目		○看護倫理	3201	2		30(一部集中講義)		30
		○看護理論	3101	2		30(一部集中講義)		30
		○看護研究法	3102	2	30			30
*領域別分野専門科目(10単位)	看護基礎領域	○病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30			30
		○病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30			30
		○病態機能学演習	3403	6	180			180
	基礎看護学	○病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30			30
		○病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30			30
		○病態治療学演習	3406	6	180			180
	看護管理学	○基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30			30
		○基礎看護学特論Ⅱ	3412	2		30		30
		○基礎看護学演習Ⅰ	3413	6	180			180
	発達看護学領域	○看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30			30
○看護管理学・看護教育学特論Ⅱ		3415	2		30		30	
○看護管理学・看護教育学演習Ⅰ		3416	6	180			180	
母性・助産看護学分野		○母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30			30
		○母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30		30
		○母性看護学演習Ⅰ	3251	6	180			180
小児看護学分野		○小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30			30
		○小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30		30
		○小児病態・治療特論	3254	2	30			30
		○小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	60			60
		○小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2		60		60
		○小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2		60		60
		○小児看護学実習Ⅰ	3255	2		90		90
成人看護学分野		○成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30			30
	○成人看護学特論Ⅱ	3223	2		30		30	
	○成人看護学演習Ⅰ	3235	6	180			180	
	○がん看護学特論Ⅰ	3451	2	30			30	
	○がん看護学特論Ⅱ	3452	2	30			30	
	○がん看護学特論Ⅲ	3453	2	30			30	
	○がん医学特論	3454	2	30			30	
	○がん看護学演習Ⅰ	3455	2	60			60	
	○がん看護学演習Ⅱ	3456	2		60		60	
	○がん看護学演習Ⅲ	3457	2		60		60	
	○がん看護学実習Ⅰ	3458	1		45		45	
老年看護学分野	○老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30			30	
	○老年看護学特論Ⅱ	3226	2	30			30	
	○老年看護学特論Ⅲ	3234	2	30			30	
	○老年医学特論	3236	2	30			30	
	○老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2		60		60	
	○老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2		60		60	
	○老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2		60		60	
	○老年看護学実習Ⅰ	3237	4		180		180	
	○老年看護学実習Ⅱ	3238	4			180	180	
	○老年看護学実習Ⅲ	3239	2			90	90	
精神看護学分野	○精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30			30	
	○精神看護学特論Ⅱ	3229	2	30			30	
	○精神看護学特論Ⅲ	3421	2		30		30	
	○精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2		60		60	
	○精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2		60		60	
	○精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2		60	60	60	
	○精神看護学実習Ⅰ	3425	1		45		45	
	○精神看護学実習Ⅱ	3426	2		90		90	
	○精神看護学実習Ⅲ	3427	4			180	180	
	○精神看護学実習Ⅳ	3428	2			90	90	
地域・在宅看護学分野	○地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30			30	
	○地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432	2	30			30	
	○地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433	3	90			90	
	○地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434	3	90			90	
里山・遠隔看護学分野	○里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30			30	
	△里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30			30	
	△里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30		30	
	○里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6	180			180	
共通選	○看護学課題研究	3103	6			90	90	180
	●●看護実践課題研究(CNSコース)	3104	2			30	30	60
	看護学原論	3501	1	15				15
	フィジカルアセスメント	3502	2		30(集中講義)			30
	家族看護論	3503	1		15(一部集中講義)			30
	精神科治療学特論	3510	2		30			30
	看護心理学	3511	2	30				30
	質的研究方法論	3505	1	15				15
	環境疫学特論	3304	1		15			15
	言語文化特論Ⅰ	3506	2		30			30
	健康支援と社会保障特論Ⅰ	3307	2	30				30
	量的研究方法論	3507	1		15			15
	コミュニティ・イノベーション論特論	3311	2		30(集中講義)			30
	語法特殊講義	3314	2	30				30
	看護海外研修	3315	1		15			15
	看護臨床薬理学	3508	2	30				30
	臨床病態学	3509	2	30				30
	コンサルテーション論	3273	2		30			30
	看護管理学	3262	2	30				30
	看護教育・援助論	3261	2		30			30
	女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30			30
	遠隔看護論	3281	2		30			30
	国際看護論	3202	1	15				15

(注1) 共通選択科目のうち、修士論文コースの者は「看護学課題研究」を、CNSコースの者は「看護実践課題研究」を選択

(注2) 領域別分野専門科目は、専攻した分野の10単位(○印)を履修する。ただし里山・遠隔看護学分野については、△印の2科目

から1科目を選択し、10単位を履修する。

(注3) 領域別分野専門科目の実習科目及びがん看護学科目は、CNSコースで履修する。

(2) CNSコース

	老年看護分野				小児看護分野			
	授業科目	科目番号	単位数		授業科目	科目番号	単位数	
必修科目	看護倫理	3201	2	◎	看護倫理	3201	2	◎
	看護理論	3101	2	◎	看護理論	3101	2	◎
	看護研究法	3102	2	◎	看護研究法	3102	2	◎
	看護実践課題研究	3104	2	◎	看護実践課題研究	3104	2	◎
	必修科目計		8単位		必修科目計		8単位	
分野別必修科目	老年看護学特論Ⅰ	3225	2	◎	小児看護学特論Ⅰ	3252	2	◎
	老年看護学特論Ⅱ	3226	2	◎	小児看護学特論Ⅱ	3253	2	◎
	老年看護学特論Ⅲ	3234	2	◎	小児病態・治療特論	3254	2	◎
	老年医学特論	3236	2	◎	小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	◎
	老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2	◎	小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	◎
	老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2	◎	小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2	◎
	老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2	◎	小児看護学実習Ⅰ	3255	2	◎
	老年看護学実習Ⅰ	3237	4	◎	小児看護学実習Ⅱ	3256	1	◎
	老年看護学実習Ⅱ	3238	4	◎	小児看護学実習Ⅲ	3257	7	◎
	老年看護学実習Ⅲ	3239	2	◎				
	分野別必修科目計		24単位		分野別必修科目計		22単位	
共通選択科目 (◎は必ず選択)	看護学原論	3501	1		看護学原論	3501	1	
	フィジカルアセスメント	3502	2	◎	フィジカルアセスメント	3502	2	◎
	家族看護論	3503	1		家族看護論	3503	1	◎
	精神科治療学特論	3510	2		精神科治療学特論	3510	2	
	看護心理学	3511	2		看護心理学	3511	2	
	質的研究方法論	3505	1		質的研究方法論	3505	1	
	環境疫学特講	3304	1		環境疫学特講	3304	1	
	言語文化特講Ⅰ	3506	2		言語文化特講Ⅰ	3506	2	
	健康支援と社会保障特講Ⅰ	3307	2	*	健康支援と社会保障特講Ⅰ	3307	2	*
	量的研究方法論	3507	1		量的研究方法論	3507	1	
	語法特殊講義	3314	2		語法特殊講義	3314	2	
	看護海外研修	3315	1		看護海外研修	3315	1	
	看護臨床薬理学	3508	2	◎	看護臨床薬理学	3508	2	◎
	臨床病態学	3509	2	◎	臨床病態学	3509	2	◎
	国際看護論	3202	1		国際看護論	3202	1	
	女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		女性と子どもの健康問題と看護	3241	2	◎
	看護教育・援助論	3261	2	◎	看護教育・援助論	3261	2	◎
コンサルテーション論	3273	2	◎	コンサルテーション論	3273	2	◎	
看護管理学	3262	2	*	看護管理学	3262	2	*	
	共通選択科目計		10単位以上		共通選択科目計		13単位以上	
合計	42単位以上				43単位以上			
	精神看護分野				成人看護分野			
	授業科目	科目番号	単位数		授業科目	科目番号	単位数	
必修科目	看護倫理	3201	2	◎	看護倫理	3201	2	◎
	看護理論	3101	2	◎	看護理論	3101	2	◎
	看護研究法	3102	2	◎	看護研究法	3102	2	◎
	看護実践課題研究	3104	2	◎	看護実践課題研究	3104	2	◎
	必修科目計		8単位		必修科目計		8単位	
分野別必修科目	精神看護学特論Ⅰ	3228	2	◎	がん看護学特論Ⅰ	3451	2	◎
	精神看護学特論Ⅱ	3229	2	◎	がん看護学特論Ⅱ	3452	2	◎
	精神看護学特論Ⅲ	3421	2	◎	がん看護学特論Ⅲ	3453	2	◎
	精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2	◎	がん医学特論	3454	2	◎
	精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2	◎	がん看護学演習Ⅰ	3455	2	◎
	精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2	◎	がん看護学演習Ⅱ	3456	2	◎
	精神看護学実習Ⅰ	3425	1	◎	がん看護学演習Ⅲ	3457	2	◎
	精神看護学実習Ⅱ	3426	2	◎	がん看護学実習Ⅰ	3458	1	◎
	精神看護学実習Ⅲ	3427	4	◎	がん看護学実習Ⅱ	3459	4	◎
精神看護学実習Ⅳ	3428	2	◎	がん看護学実習Ⅲ	3460	3	◎	
精神看護学実習Ⅴ	3429	1	◎	がん看護学実習Ⅳ	3461	2	◎	
	分野別必修科目計		22単位		分野別必修科目計		24単位	
共通選択科目 (◎は必ず選択)	看護学原論	3501	1		看護学原論	3501	1	◎
	フィジカルアセスメント	3502	2	◎	フィジカルアセスメント	3502	2	◎
	家族看護論	3503	1		家族看護論	3503	1	◎
	精神科治療学特論	3510	2	◎	精神科治療学特論	3510	2	
	看護心理学	3511	2		看護心理学	3511	2	
	質的研究方法論	3505	1		質的研究方法論	3505	1	*
	環境疫学特講	3304	1		環境疫学特講	3304	1	
	言語文化特講Ⅰ	3506	2		言語文化特講Ⅰ	3506	2	
	健康支援と社会保障特講Ⅰ	3307	2	*	健康支援と社会保障特講Ⅰ	3307	2	*
	量的研究方法論	3507	1		量的研究方法論	3507	1	
	語法特殊講義	3314	2		語法特殊講義	3314	2	
	看護海外研修	3315	1		看護海外研修	3315	1	
	看護臨床薬理学	3508	2	◎	看護臨床薬理学	3508	2	◎
	臨床病態学	3509	2	◎	臨床病態学	3509	2	◎
	国際看護論	3202	1		国際看護論	3202	1	
	女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		女性と子どもの健康問題と看護	3241	2	
	看護教育・援助論	3261	2	◎	看護教育・援助論	3261	2	*
コンサルテーション論	3273	2	◎	コンサルテーション論	3273	2	◎	
看護管理学	3262	2	*	看護管理学	3262	2	*	
	共通選択科目計		12単位以上		共通選択科目計		10単位以上	
合計	42単位以上				42単位以上			

◎ CNSコース必修科目 * CNS認定審査受験に向けて選択することを推奨する科目

必修科目

科目名	看護倫理	科目番号	3201	単位	2	時間	30
教員名	◎小西恵美子・渡辺みどり・屋良朝彦・上條こずえ	科目種別	必修	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	看護事象の倫理的課題の解決に必要な基礎的知識と臨床看護で直面する医療課題についての倫理的思考を養う。さらに臨床看護場面において他職種・組織・社会との関係から生じる対立・葛藤に対する高度実践看護師としての調整方法を修得する。加えて、臨床における看護研究の倫理の理解を深める。						
ディプロマポリシー(DP)との関連※	◎M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力 ◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ◎C3 倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力 ◎C4 看護実践の課題探求に取り組む能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の歴史、看護倫理の重要性を理解する。 2. 看護事象の倫理的課題の解決に向けて必要な倫理的知識と主要な概念・原則を学ぶ。 3. 看護事象の倫理的課題の解決に必要な分析的思考および対応の検討方法を理解する。 4. 臨床看護で直面する医療課題に対する倫理的な考え方を学ぶ。 5. 看護実践において他職種・組織・社会との関係から生じる様々な葛藤や摩擦の調整方法、医療事故等から生じる紛争を解決する方法を学ぶ。 6. 看護研究倫理に必要な基礎理論および研究倫理を理解する。 						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	看護倫理と倫理原則： 倫理学、生命倫理学、医療倫理学との関係から看護倫理の必要性と徳の倫理と倫理原則などを講義する。				渡辺みどり 上條こずえ	
	2	看護倫理の歴史的変遷： 看護倫理の発展過程と主要概念について、看護理論との関係から講義する。				小西恵美子	
	3	看護における倫理的課題の分析 1 看護における倫理的課題の特徴を講義する。看護倫理課題の分析・アプローチ方法を講義・討議する。				小西恵美子	
	4	看護における倫理的課題の分析 2 看護倫理課題の分析・アプローチ方法について提示された事例の場面について討議する。				小西恵美子	

	5	看護における倫理的課題への対応 1 看護における倫理的な問題・葛藤が生じた看護実践事例(学生の事例)について、「4 ステップモデル」を用いて倫理的課題における価値の対立を抽出する。	小西恵美子
	6	看護における倫理的課題への対応 2 看護における倫理的な問題・葛藤が生じた看護実践事例(学生の事例)について、「4 ステップモデル」を用いて、第 5 回で抽出した価値の対立に対する対応方法を討議する。	小西恵美子
	7	臨床看護倫理 1 臨床看護場面で問題となる医療課題（希少な医療資源の公正配分，摂食嚥下の倫理，療養生活援助とケア対象者の尊厳）について取り上げ、事例を提示し倫理的な考え方を討議する。	上條こずえ
	8	臨床看護倫理 2 臨床看護場面で問題となる医療課題（終末期医療の倫理、DNAR の倫理）について取り上げ、事例を提示し倫理的な考え方を討議する。	上條こずえ
	9	臨床看護倫理 3 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス」について基本的な考え方を講義する。	渡辺みどり
	10	臨床看護倫理 4 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス」の考え方を理解し、ACP の役割、適切な意思決定プロセスについて小児期・成人期・老年期の事例を用いて討議する。	渡辺みどり
	11	医療メデイエーションの理論と実践： 理論編：看護実践において他職種・組織・社会との関係から生じる様々な葛藤や摩擦の調整方法、医療事故等から生じる紛争を解決する方法としてメデイエーションを学ぶ。また、この方法論は困難な意思決定の支援にも応用できることを示す。	屋良朝彦
	12	実践編①：メデイエーションの様々な技法を講義・討議する（コンフリクト分析・解決技法、対話技法など）	屋良朝彦
	13	実践編②：医療事故などの医療紛争解決に関するメデイエーション実践の動画を用い、メデイエーションの実際と様々な技法の活用方法を討議する。	屋良朝彦

	14	実践編③：医療紛争や意思決定支援に関する具体的な事例について実際にロールプレイを行い、その体験をとおして討議する。	屋良朝彦
	15	看護研究における倫理： 人を対象とした医学系研究倫理の基礎理論、および最新の個人情報保護法に対応した研究倫理の在り方について講義する。	屋良朝彦
評価方法	授業への参加度、事前課題・必修課題への取り組み(40%)、小レポート(60%)		
テキスト、参考書	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小西恵美子編：看護倫理－よい看護・よい看護師への道しるべー，南江堂，2007 ・Anne J Davis 他編，小西恵美子監訳：看護倫理を教える・学ぶ，日本看護協会出版会，2008 ・日本臨床倫理学会編/箕岡真子著：臨床倫理入門，へるす出版，2017. ・和田仁孝・中西淑美：医療メデイエーションーコンフリクト・マネジメントへのナラティブ・アプローチ，シーニュ，2011年、3980円（屋良担当） <p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サラ T フライ他著，片田範子他訳：看護実践の倫理第2版 日本看護協会出版会，2005. ・箕岡真子，藤島一郎・稲葉一人著：摂食嚥下障害の倫理，ワールドプランニング，2017. ・箕岡真子：エンド・オブ・ライフケアの臨床倫理，日総研，2020. ・吉武久美子：医療倫理と合意形成 治療・ケアの現場での意思決定，東信堂，2007年、2800円（屋良担当） 		
履修上の注意点	この講義は、看護研究を行うための倫理講習と位置づけられるので、倫理審査を受けるために必修となります。		

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

科目名	看護理論	科目番号	3101	単位	2	時間	30	
教員名	◎安田貴恵子 渡辺みどり 田中広美	科目種別	必修	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	看護研究ならびに高度看護実践の哲学的基盤、理論的基盤として不可欠な看護理論について、開発された社会背景、理論の変遷とともに理解を深める。高度看護実践に必要とされる中範囲理論 (mid-range theory) および実践理論、概念について、成り立ちと適用範囲を理解する。看護実践の改善や発展と看護理論の関係について、看護実践の具体的な事象と関連づけて学修する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連*	◎M4 高い倫理観をもって看護学研究に取り組む能力 ○M3 研究課題に対応した研究プロセスの遂行に必要な能力 ◎C3 看護の対象者へのケアに関わる倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力 ○C4 研究のプロセスを踏んで看護実践の課題探究に取り組む能力							
目標	1. 高度看護実践の基盤となる看護理論の諸理論の特徴を学ぶ。 2. 看護理論の看護場面および看護事例への適用方法を理解する。 3. 看護理論を適用して臨床場面・事例を分析的に思考する能力を修得する。 4. 主要な理論、概念等の分析を行い、研究テーマへの適合性を議論する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	コースオリエンテーション 看護理論とは (1) 看護、看護実践、概念化、看護学における中心概念を理解して、看護理論の基礎的知識を学ぶ。					安田貴恵子	
	2	看護理論とは (2) 理論を構成する要素、理論のクリテイク、看護における理論の活用について学び、看護実践の改善・発展と看護理論の発展の関連を考察する。					安田貴恵子	
	3~4	看護実践の明示化と看護教育の発展に関わる看護理論 パトリシア・ベナー看護論の前提、解釈的理論の特質、理論の特徴と変遷について講義し、討議を行う。看護実践能力や看護学教育との関連について討議する。					安田貴恵子	
	5~6	看護の機能に関する看護理論 ①ヴァージニア・ヘンダーソンのニード論の主要な概念と定義、理論上の主張、看護独自の機能について講義・討議する。 ②ヒルデガード・ペプローの人間関係の看護論の主要な概念と定義、理論上の主張、相互作用について講義・討議する。 これらの理論を適用した事例の分析を行う。					田中広美	

	7～8	行動変容、行動強化に関する中範囲理論 健康教育・ヘルスプロモーション活動に有用な健康行動理論を個人レベル、個人間レベル、集団レベルの体系分類を踏まえ、保健信念モデル、自己効力感、健康生成論について講義し討議を行う。これらの概念を用いたアセスメント・看護計画を検討する。	安田貴恵子
	9	「セルフケア」に着目した看護理論 ドロセア・オレムのセルフケア不足看護理論の主要な概念と定義、理論上の主張について講義・討議する。セルフケア不足看護理論を適用して事例のアセスメント・看護計画を検討する。	渡辺みどり
	10	対象者の苦痛と緩和に関する看護理論 キャサリン・コルカバのコンフォート理論のコンフォートの分類的構造および理論上の主張について講義・討議する。コンフォート理論を適用してモデル事例の分析を行う。	渡辺みどり
	11	看護実践における思考過程の明示化に関する理論 クリスティーヌ・A. タナーの臨床判断モデルの定義、開発過程、臨床判断モデルの内容、臨床判断の特徴について講義し、臨床判断能力の育成方法について討議する。	安田貴恵子
	12	看護実践の改善・改革と看護研究、理論の活用に関する発表と討議（1）	安田貴恵子
	13	看護実践の改善・改革と看護研究、理論の活用に関する発表と討議（2）	安田貴恵子
	14	看護実践の改善・改革と看護研究、理論の活用に関する発表と討議（3）	安田貴恵子
	15	看護実践の改善・改革と看護研究、理論の活用に関する発表と討議（4）	安田貴恵子
評価方法	議論への参加態度（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）		
テキスト、参考書	<p>テキスト：筒井真優美編集：看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院、2020.</p> <p>参考書：野川道子 編著：看護実践に活かす中範囲理論、メジカルフレンド、2010.</p> <p>正木治恵/酒井郁子編著：看護理論の活用 看護実践の問題解決のために、医歯薬出版、2014.</p> <p>その他、随時紹介する</p>		
履修上の注意	1～11回は、オムニバス形式で行い、12～15回は学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行う。プレゼンテーションの目的は「学生個々の専門領域あるいは研究テーマに関連する看護理論、中範囲理論について、文献を調べて学生自身が理解を深めたことを報告する。そして看護実践の改善にむけてどのように活用できるか、また、自身の研究テーマとの適合性を検討し、論述する。」です。		

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

科目名	看護研究法	科目番号	3102	単位	2	時間	30	
教員名	伊藤祐紀子	科目種別	必修	開講年次	第1学年			
				開講学期	前学期			
科目概要	看護実践の向上に寄与する研究の意義と役割を理解する。看護研究における概念の明確化、概念枠組みの構成、基本的研究法、倫理的問題について学修する。量的・質的研究方法の特徴と研究プロセスを理解し、自ら収集した文献のクリティークを通して研究計画を立案する能力を養う。							
ディプロマポリシー(DP)との関連*	○M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ◎M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力 ◎C4 看護実践の課題探究に取り組む能力							
目 標	1) 検討する主題に関連した文献検索を行い、レビューすることができる。 2) 看護研究の視点から論文のクリティークができる。 3) 研究課題の明確化および絞り込みについて理解できる。 4) 量的・質的研究の特徴とプロセスが理解できる。 5) 研究課題や研究質問に応じた研究方法を考えることができる。 6) 研究を実施するために必要な倫理的配慮が理解できる。 7) 研究計画書の作成方法が理解できる。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員		
	1	オリエンテーション／看護研究の意義と役割、研究プロセス（講義） 研究とは、看護研究とは何か、看護研究が必要な理由、研究プロセスの各段階について理解する。				伊藤祐紀子		
	2	研究課題の明確化と文献検討の重要性（講義） 個人的・疑問関心の意識化、キーワードの設定、文献検討・文献レビュー、文献クリティークの重要性、文献クリティークから研究課題を明確化していくことを理解する。				伊藤祐紀子		
	3	文献クリティークの方法と実際（講義） 文献の基本的アウトラインの検討と項目別詳細検討の方法を理解する。				田中広美		
	4	量的研究法の特徴とデザイン（講義）				秋山剛		
	5	量的研究法が用いられる研究課題（講義）				秋山剛		
	6	質的研究法の特徴とデザイン（講義）				伊藤祐紀子		
	7	質的研究方法が用いられる研究課題（講義）				伊藤祐紀子		
	8	看護研究と倫理、研究倫理審査に関して（講義）				屋良朝彦		
9	研究のプロセスにおける倫理的配慮（講義）				屋良朝彦			

	10	文献検索と文献クリティーク (1) (演習) キーワード検索から導き出した文献のクリティークを行う。(発表、グループディスカッション)	田中広美
	11	文献検索と文献クリティーク (2) (演習) キーワード検索から導き出した文献のクリティークを行う。(発表、グループディスカッション)	田中広美
	12	研究計画書の重要性と作成にあたって (講義)	田中広美
	13	簡易版研究計画書の作成・発表 (1) (演習) 事前配付の簡易版研究計画書の枠組みを活用して立案し、グループ発表、ディスカッションを行う。	伊藤祐紀子 田中広美
	14	簡易版研究計画書の作成・発表 (2) (演習) 事前配付の簡易版研究計画書の枠組みを活用して立案し、グループ発表、ディスカッションを行う。	伊藤祐紀子 田中広美
	15	まとめ	伊藤祐紀子
評価方法	講義の参加状況 (30%)、プレゼンテーションおよびディスカッション (30%)、レポート (40%)		
テキスト、参考書	<p>テキスト：必要に応じてプリントを配付する。</p> <p>参考書：D. F. ポーリット、C. T. ベック、近藤潤子監訳：看護研究－原理と方法－第2版，医学書院。</p> <p>Susan k. Grove Nancy Burns Jennifer R. Gray 黒田裕子他監訳：バーンズ&グループ看護研究入門原著第7版，エルゼビア・ジャパン。</p> <p>山川みやえ 牧本清子編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会。</p> <p>その他、随時紹介する</p>		
履修上の注意	<p>講義はオンライン参加可能だが、演習は対面で参加することを推奨する。</p> <p>プレゼンテーション課題に関する資料は、期日までに準備して臨むこと。演習では、ディスカッションに積極的に参加し、質疑応答、意見を交わすこと。</p>		

病態機能学分野

博士前期課程

科目名	病態機能学特論 I	科目番号	3401	単位	2	時間	30	
教員名	太田 克矢 三浦 大志	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	総論的に人体の調節機能および疾患の基礎的理解と治療に必要な生化学的な知識について学び、看護の病態機能学に関する知識を獲得する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連*	◎ M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力							
目標	人体の構造と機能について、全体像を理解・探求する。 病気の成り立ちと回復の促進について、病態生理、生化学の全体像を理解・探求する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	基本病態1：循環障害 ① 循環障害に関する総論					三浦 大志	
	2	基本病態1：循環障害 ② 局所循環障害					三浦 大志	
	3	基本病態1：循環障害 ③ 全身循環障害					三浦 大志	
	4	基本病態2：炎症 ① 炎症に関する総論					(上條 明生) 三浦 大志	
	5	基本病態2：炎症 ② 急性炎の特徴					(上條 明生) 三浦 大志	
	6	基本病態2：炎症 ③ 慢性炎の特徴					(上條 明生) 三浦 大志	
	7	基本病態3：腫瘍 ① 腫瘍に関する総論					三浦 大志 (上條 明生)	
	8	基本病態3：腫瘍 ② 良性腫瘍の特徴					三浦 大志 (上條 明生)	
	9	基本病態3：腫瘍 ③ 悪性腫瘍の特徴					三浦 大志 (上條 明生)	
	10	基本病態4：創傷治癒 ① 創傷治癒の総論、特に褥瘡の予防と治療 難治性創傷の原因、発病機序など					(上條 明生) 三浦 大志	
	11	基本病態4：創傷治癒 ② 褥瘡の予防と治療、難治性創傷の原因と発病機序					(上條 明生) 三浦 大志	
12	基本病態5：遺伝子異常と先天性疾患 ① 総論					太田 克矢 三浦 大志		

博士前期課程

	13	基本病態5：遺伝子異常と先天性疾患 ② 染色体異常	太田 克矢 三浦 大志
	14	基本病態5：遺伝子異常と先天性疾患 ③ 遺伝子異常	太田 克矢 三浦 大志
	15	プレゼンテーション及び討論 課題についてプレゼンテーションと討論を行う	太田 克矢 三浦 大志
評価方法	レポート（40%）・受講態度など（60%）		
テキスト、参考書	テキスト：随時文献・図書を紹介する 参 考 書：随時指定		
履修上の注意点	受講者の状況に応じて授業内容を微調整することがある		

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

博士前期課程

科目名	病態機能学特論Ⅱ	科目番号	3402	単位	2	時間	30
教員名	太田 克矢 三浦 大志	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	各主要疾患の基礎的な知識について学び、エビデンスのある看護実践を目指す。						
ディプロマポリシー(DP)との関連*	◎ M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力						
目標	実際の疾患を通じて、循環障害、炎症、腫瘍や創傷治癒、多因子遺伝病などの病態をより深く理解・探求し、更にはそれらを活用するための実践的な能力の育成を目指す。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	循環障害 ① 動脈硬化				三浦 大志	
	2	循環障害 ② 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）				三浦 大志	
	3	循環障害 ③ 糖尿病性合併症など				三浦 大志	
	4	炎症 ① 肺炎				(上條 明生) 三浦 大志	
	5	炎症 ② 肝炎				(上條 明生) 三浦 大志	
	6	炎症 ③ その他の臓器の炎症				(上條 明生) 三浦 大志	
	7	腫瘍 ① 肺癌				三浦 大志	
	8	腫瘍 ② 肝癌				三浦 大志	
	9	腫瘍 ③ 子宮筋腫、子宮癌、その他の臓器の腫瘍				三浦 大志	
	10	創傷治癒 ① 褥瘡の予防と治療				(上條 明生) 三浦 大志	
	11	創傷治癒 ② 難治性創傷の原因、発病機序など				(上條 明生) 三浦 大志	
	12	遺伝子異常と先天性疾患 ① 単因子遺伝病				太田 克矢 三浦 大志	
13	遺伝子異常と先天性疾患 ② 生活習慣病などの多因子遺伝病				太田 克矢 三浦 大志		

博士前期課程

	14	遺伝子異常と先天性疾患 ③ 顕性（優性）遺伝病、潜性（劣性）遺伝病	太田 克矢 三浦 大志
	15	プレゼンテーション及び討論 いくつかの課題についてプレゼンテーションを行う。	太田 克矢 三浦 大志
評価方法	レポート（40％）・受講態度など（60％）		
テキスト、参考書	テキスト：随時文献・図書を紹介する 参 考 書：随時指定		
履修上の注意点	受講者の状況に応じて授業内容を微調整することがある		

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

科目名	病態機能学演習	科目番号	3403	単位	6	時間	180
教員名	太田 克矢 三浦 大志	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	前期の看護病態機能論で学んだ知識を活用し、看護病態機能論に関する文献的および実践的手法を取り込んだ演習を行う。						
ディプロマポリシー(DP)との関連※	◎ M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 M3 研究プロセスの遂行に必要な能力						
目標	看護の視野から病態についての理解を深めるための実践的な知識を理解し、教育・研究に応用し得る能力を育成する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1～12	正常の心筋、血管の解剖と組織標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、正常の心・血管系の生理機能を理解する。 動脈硬化と心筋梗塞の病理解剖標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、循環器疾患の病態生理を理解する。				三浦 大志	
	13～24	正常の気管支と肺の解剖と組織標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、正常の呼吸器の生理機能を理解する。 気管支肺炎の病理解剖標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、呼吸器疾患の病態生理を理解する。				三浦 大志	
	25～34	正常の肝臓の解剖と組織標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、正常の肝臓の生理機能を理解する。 慢性肝炎、肝硬変、肝癌の病理解剖標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、肝疾患の病態生理を理解する。				三浦 大志	
	35～44	正常の胃の解剖と組織標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、正常の胃の生理機能を理解する。 慢性胃炎、胃癌の病理解剖標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、胃疾患の病態生理を理解する。				三浦 大志	
	45～54	正常の膵臓の解剖と組織標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、正常の膵の生理機能を理解する。 膵萎縮（糖尿病膵）の病理解剖標本を肉眼および顕微鏡で観察をおこない、糖尿病膵とその病態生理を理解する。				三浦 大志	

博士前期課程

	55～ 64	皮膚の難治性創傷（動物モデル）を作成し、肉眼的に創変化を観察する。	三浦 大志 （上條 明生）
	65～ 78	正常の皮膚の組織標本を顕微鏡で観察し、皮膚の生理機能を理解する。 創傷治癒の標本を顕微鏡で観察し、難治性創傷とその病態生理を理解する。	三浦 大志 （上條 明生）
	79～ 90	ヒトおよび大腸菌の DNA を抽出し、各種 DNase や電気泳動法を用いた核酸の分析方法を理解する。また、薬剤耐性遺伝子の発現を観察することで遺伝子が形質に及ぼす仕組みについて理解を深める。	太田 克矢
評価方法	レポート（40%）・受講態度など（60%）		
テキスト、参考書	随時文献・図書を紹介する		
履修上の注意点	受講者の状況に応じて授業内容を微調整することがある		

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

病態治療学分野

科目名	病態治療学特論 I	科目番号	3404	単位	2	時間	30	
教員名	坂田憲昭	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>感染症はどの診療分野においても避けて通ることのできない疾患である。これを理解しそれに対処する方策を自ら考え確立するためには、生体に関与する病原微生物の病原因子とその発現機構、宿主生体側の防御機構、更には双方の相互作用である感染のメカニズムを知る必要がある。この科目では、こうした宿主と病原因子の相互関係である感染現象の包括的な理解のため、その基礎について、講義と課題セミナーおよびプレゼンテーションを通して学んでいく。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力</p>							
目標	<p>1. 病原微生物について生物学的に理解する。 2. 病原性・ビルレンスに関する因子とそれらの遺伝子群の構造及び発現機構について理解する。 3. 感染における生体防御機構としての免疫システムについて理解する。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-2	1. 病原微生物の生物学 1) 細菌学総論					坂田憲昭 中畑千夏子	
	3-4	2) 細菌学各論					坂田憲昭 中畑千夏子	
	5	3) ウイルス学総論					坂田憲昭	
	6	4) ウイルス学各論					坂田憲昭	
	7-8	2. 課題セミナー及びプレゼンテーション					坂田憲昭 中畑千夏子	
	9	3. 病原因子とその発現機構 1) 病原性及びビルレンスに関する遺伝子とその構造					坂田憲昭	
	10	2) 病原遺伝子の発現機構					坂田憲昭	
	11-12	3. 課題セミナー及びプレゼンテーション					坂田憲昭 中畑千夏子	
	13-14	4. 感染と生体防御機構 1) 免疫システム					坂田憲昭	
	15	5. 課題セミナー及びプレゼンテーション					坂田憲昭	

評価方法	出席 (40%)・プレゼンテーション (30%)・レポート (30%)
テキスト、参考書	随時文献・図書を紹介する
履修上の注意点	基礎的な知識の理解・修得と共に、それを臨床および自らの研究活動へ有効に活かしていく必要がある。このことを達成するため、最新論文の評釈やプレゼンテーション並びに活発な討論を通して、科学的かつ論理的な思考の構築を目指す。

科目名	病態治療学特論Ⅱ	科目番号	3405	単位	2	時間	30	
教員名	坂田憲昭	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>病態治療学特論Ⅰで学んだ知識を基礎として、宿主と病原因子の相互関係である感染現象の包括的な理解とその対策についての理解を目指す。具体的には、感染経路等も含めた感染症発生のメカニズム、感染症の検査・診断および治療法、さらには感染の予防と対策等のための医療現場におけるより具体的な知識についても学ぶ。この科目においても、講義だけではなく文献等の課題セミナーおよびプレゼンテーションを通して、より積極的な思考の構築を行う。</p>							
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p>							
目標	<p>1. 病原微生物について生物学的に理解する。 2. 病原性・ビルレンスに関する因子とそれらの遺伝子群の構造及び発現機構について理解する。 3. 感染における生体防御機構としての免疫システムについて理解する。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	1. 感染症の基礎 1) 感染症総論 (感染経路)					坂田憲昭	
	2	2) 感染症総論 (感染のメカニズム)					坂田憲昭	
	3-4	3) 感染症各論					坂田憲昭 中畑千夏子	
	5-6	2. 課題セミナー及びプレゼンテーション					坂田憲昭 中畑千夏子	
	7-8	3. 感染症の検査・診断					坂田憲昭	
	9-10	4. 課題セミナー及びプレゼンテーション					坂田憲昭 中畑千夏子	
	11	5. 感染症の治療 1) 化学療法の基本					坂田憲昭	
	12	2) 化学療法薬各論					坂田憲昭	
	13	6. 課題セミナー及びプレゼンテーション					坂田憲昭	
	14-15	7. 感染症の予防とコントロール 1) 感染症対策の基本 2) 感染経路対策および滅菌と消毒					坂田憲昭 中畑千夏子	

評価方法	出席 (40%)・プレゼンテーション (30%)・レポート (30%)
テキスト、参考書	随時文献・図書を紹介する
履修上の注意点	基礎的な知識の理解・修得と共に、それを臨床および自らの研究活動へ有効に活かしていく必要がある。これを達成するため、最新論文の評釈やプレゼンテーション並びに活発な討論を通して、科学的かつ論理的な思考の構築を目指す。

科目名	病態治療学演習	科目番号	3406	単位	6	時間	180
教員名	坂田憲昭	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	病態治療学特論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を活用し、感染症の診断や化学療法による治療のための実践的な理論と方法について、実験およびその結果のプレゼンテーションや討論等を通して、応用可能な知識としての理解と習得を目指す。また、研究テーマに関連する事項についても、それらの基礎となるよう自らの創造力や自立性を向上させることを目的として、総論的な知識の獲得を行う。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ○M5 学術的な場において研究成果を公表する能力						
目標	演習・プレゼンテーション・討論を通して病原微生物検査ならびに研究の実際を知り、感染症の診断や治療および予防に関する知識の獲得と、それらを臨床・研究現場で応用することのできる能力の育成を目指す。具体的には以下の事項について理解する。 1. 病原性微生物の取り扱い 2. 感染症の診断に用いられる方法とその原理 3. 病原微生物の検出・同定法とその原理 4. 薬剤耐性化機序と感受性試験 5. 感染症防止対策とその基本 6. 研究テーマに関連する実験手法						
授業計画・内容	以下の計画・内容に沿って実施する。また、講義・演習を通して学んだ知識を、論文の読解やプレゼンテーションに活用できるようにする。 1-9. 滅菌と消毒法 10-18. 培地および試薬の作製法 19-27. 無菌操作法とコロニーの性状観察・染色・塗抹検鏡検査 28-36. 細菌の分離と培養および生化学的試験による同定 37-45. 細菌の薬剤感受性（薬剤感受性試験法とMICの測定等） 46-54. 遺伝学的検査法（DNA増幅法・ゲル電気泳動法・DNAシーケンシング等） 55-63. 免疫学的検査法（酵素免疫測定法・凝集法・免疫クロマト法等） 64-72. 研究テーマに関連する論文の読解とその評価 73-81. 研究テーマに関連する実験手法 82-90. 研究課題に関するセミナーとプレゼンテーション						
評価方法	出席（40%）・プレゼンテーション（30%）・レポート（30%）						
テキスト、参考書	随時文献・図書を紹介する						
履修上の注意点	基礎的な知識の理解・修得と共に、それを臨床および自らの研究活動へ有効に活かしていく必要がある。これを達成するため、最新論文の評釈やプレゼンテーション並びに活発な討論を通して、科学的かつ論理的な思考の構築を目指す。						

基礎看護学分野

科目名	基礎看護学特論 I		科目番号	3411	単位	2	時間	30	
教員名	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	科目種別	専門	開講年次		第1学年			
				開講学期		前学期			
科目概要	基礎看護または国際看護・災害看護に関する諸理論や概念について学修する。理論や概念の探究にあたり、その発展の背景や系譜、定義や内容、適応される条件などを含め明確にする。それぞれの専門領域において、これらの理論や概念がどのように理解され適用されているか、また今後どのような活用が可能か検討する。								
ディプロマポリシー(DP)との関連※	○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力								
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護または国際看護・災害看護に関する理論や概念について理解する。 2. それぞれの理論や概念が発展した背景や系譜を理解する。 3. それぞれの理論や概念の定義や内容、適応される条件などを理解する。 4. これらの理論や概念が基礎看護学または国際看護学・災害看護学において、どのように理解され適用されているか、研究の動向を捉える。 5. これらの理論や概念は、今後どのような活用が可能かを検討する。 								
授業計画・内容	1	基礎看護学とは／国際看護学・災害看護学とは					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美		
	2	主要な理論、概念の理解 基礎看護：「人間」「健康・ウェルネス」「環境・生活」「ケア・ケアリング」「人間関係論・援助関係論」「疾病・病気」「ストレス・コーピング理論」「自己効力理論」「セルフケア理論」「QOL」「レジリエンス」「看護技術」「看護過程」など 国際看護・災害看護：「国際協力」「健康格差」「異文化理論」「民族看護学」「サンライズモデル」「文化的ケア理論」「パーネル理論」「PCM手法」「多文化共生」「災害支援」「災害サイクル」「災害基本法」「災害救助法」「災害関連死」「1次・2次トリアージ」 3～14回目の授業では、上記理論・概念別に検討する					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美		
	3	理論・概念の探究① 発展した背景、系譜内容、適応される条件					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美		
	4	探究した理論・概念①の研究動向、今後の活用可能性					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美		
	5	理論・概念の探究② 発展した背景、系譜内容、適応される条件					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美		

	6	探究した理論・概念②の研究動向、今後の活用可能性	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	7	理論・概念の探究③ 発展した背景、系譜内容、適応される条件	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	8	探究した理論・概念③の研究動向、今後の活用可能性	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	9	理論・概念の探究④ 発展した背景、系譜内容、適応される条件	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	10	探究した理論・概念④の研究動向、今後の活用可能性	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	11	理論・概念の探究⑤ 発展した背景、系譜内容、適応される条件	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	12	探究した理論・概念⑤の研究動向、今後の活用可能性	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	13	理論・概念の探究⑥ 発展した背景、系譜内容、適応される条件	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	14	探究した理論・概念⑥の研究動向、今後の活用可能性	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	15	まとめ 理論や概念の探究、研究の動向より捉えた基礎看護学 または国際看護学・災害看護学	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
評価方法	プレゼンテーション(50%)、ディスカッション (50%)		
テキスト、参考書	特に指定なし。課題に関する専門的な文献は適宜提示します。		
履修上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業で時間割および発表課題を調整します。 ・講義での学びと各自の研究課題の関連を考えながら、課題の資料作成、発表準備に取り組んでください。 ・受講者のプレゼンテーションを主体に授業を進めます。 		

科目名	基礎看護学特論Ⅱ	科目番号	3412	単位	2	時間	30	
教員名	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	基礎看護または国際看護・災害看護の対象となる人々の理解と看護実践のあり方、それらに伴う医療倫理的な側面の現状を把握し、課題を明らかにする。課題を検討するための方法論を検討し、研究的な取り組みが可能か探究する。							
ディプロマポリシー(DP)との関連※	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力							
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の看護事例・事象をもとに対象理解、看護実践のあり方、それらに伴う倫理的な側面を振り返り、課題を明確にすることができる。 2. 課題を検討するための方法論を見出すことができる。 3. 方法論を用いて、自己の課題を分析的に捉えることができる。 4. 研究的な取り組みが可能か検討することができる。 							
授業計画・内容	1	事例検討・事例研究の基本的方法について					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	2	事例、事象に対する分析的思考方法					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	3	事例研究論文のクリティーク①					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	4	事例研究論文のクリティーク②					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	5	各自の看護事例・事象を振り返る①					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	6	各自の看護事例・事象を振り返る②					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	7	各自の看護事例・事象の検討から課題を明確にする					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	8	課題に対する文献検討①					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	
	9	課題に対する文献検討②					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	

	10	課題に対する文献検討③	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	11	課題を検討するための研究方法を見出す	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	12	課題を検討するための研究方法を見出す	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	13	各自の課題について研究的に取り組み検討する①	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	14	各自の課題について研究的に取り組み検討する②	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
	15	各自の課題について研究的に取り組み検討する③	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美
評価方法	プレゼンテーション(50%)、ディスカッション (50%)		
テキスト・参考書	特に指定なし。課題に関する専門的な文献は適宜提示する。		
履修上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初回の授業で時間割および発表課題を調整します。 ・ 日程調整に必要な情報は提示してください。 ・ 受講者のプレゼンテーションを中心に授業を進めます。 		

科目名	基礎看護学演習 I		科目番号	3413	単位	6	時間	180	
教員名	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美 上條こずえ 那須淳子	科目種別	専門	開講年次		第1学年			
				開講学期		後学期			
科目概要	基礎看護学、または国際看護学・災害看護学に関する国内外の文献をレビューしそれぞれの学域の研究の動向と課題を探究する。各自の研究課題に関する文献レビューから研究目的、方法論を検討し、研究計画書を作成する。								
ディプロマポリシー (DP) との関連※	◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ◎M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力								
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学、または国際看護学・災害看護学に関する国内外の文献をレビューし、それぞれの学域の研究の動向と課題を明確にすることができる。 2. 各自の関心領域に関する文献レビューから研究の動向と課題を明確にすることができる。 3. 各自の研究課題（テーマ）を明確にすることができる。 4. 各自の研究課題に対して研究目的、研究方法を検討し研究計画書を作成することができる。 5. 研究計画書を作成し、研究倫理審査に向けて準備することができる。 								
授業計画・内容	1-18	基礎看護学、または国際看護学・災害看護学に関する国内外の文献をレビューし、それぞれの学域の研究の動向と課題を明確にすることができる。					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美 上條こずえ 那須淳子		
	19-36	各自の関心領域に関する文献クリティーク、文献レビューから研究の動向と課題を明確にする。					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美 上條こずえ 那須淳子		
	37-54	各自の研究課題（テーマ）の明確化 看護に必要とされる独創性、新規性のある研究課題にブラッシュアップする。					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美 上條こずえ 那須淳子		
	55-72	自の研究課題から研究目的、研究方法、倫理的配慮を検討する。					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美 上條こずえ 那須淳子		
	73-90	研究計画書の作成 倫理審査申請の準備					伊藤祐紀子 上野里美 田中広美 上條こずえ 那須淳子		
評価方法	研究計画書 (50%) プレゼンテーション (30%)、ディスカッション (20%)、								

テキスト、参考書	特に指定なし。課題に関する専門的な文献は適宜提示する。
履修上の 注意点	学生が必要資料を作成し、プレゼンテーションしながら授業を進める。積極的に参加し、質疑応答や議論することが必要。

看護管理学分野

博士前期課程

科目名	看護管理学・ 看護教育学特論 I	科目番号	3414	単位	2	時間	30
教員名	◎渋谷美香 井本英津子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前期	
科目概要	わが国の政策形成過程の基本的な考え方、社会保障制度（医療・介護政策）の現状と課題を理解する。看護職の資質向上および看護サービスの質向上に向けて、看護管理システムと組織運営の分析に基づく課題の抽出を行う。						
ディプロマポリシー（DP）との関連※	◎M1：看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2：学際的な視野をもって俯瞰する能力						
目標	1. わが国の政策形成過程の基本的な考え方、社会保障制度の現状と課題を理解し、医療・看護提供体制に関する政策提言ができる。 2. 看護職の資質向上および看護サービスの質向上に向け、自組織における看護管理システムと組織運営の分析の結果から課題抽出ができる。 3. 危機発生時における看護マネジメントについて問題提起できる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	オリエンテーション 政策形成過程の基本的考え方				渋谷美香 井本英津子	
	2	事例にみる看護政策の立案・制度化のプロセス① ・ 7対1入院基本料の創設 ・ 訪問看護評価の引き上げ					
	3	事例にみる看護政策の立案・制度化のプロセス② ・ 「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」の評価に至るまで ・ 「糖尿病合併症管理料」の評価に至るまで					
	4	看護政策と看護管理① ・ 看護職の資質向上に関する政策課題					
	5	看護政策と看護管理② ・ 看護サービスの質向上に向けた政策課題					
	6	医療・看護提供体制に関する政策提言 (課題学習)					
	7	医療・看護提供体制に関する政策提言 (課題プレゼンテーション)					
	8	危機発生時における看護管理					
	9	自組織における危機発生時の看護マネジメントの準備状況把握（課題学習）					
	10	自組織における危機発生時の看護マネジメントの準備状況の把握②（課題学習）					

	11	自組織における危機管理の課題 (課題プレゼンテーション)	
	12	施設における看護管理システムと組織運営	
	13	自施設における看護管理システムと組織運営の分析 と課題抽出① (課題学習)	
	14	自施設における看護管理システムと組織運営の分析 と課題抽出② (課題学習)	
	15	自施設における看護管理システムと組織運営の課題 (課題プレゼンテーション)	
評価方法	プレゼンテーションによる課題の達成状況 (60%)、講義および討論への参加度 (40%)		
テキスト、参考書	テキストは用いません。課題に関する文献や関連書籍は適宜提示します。プレゼンテーションの準備に必要な資料や文献は自ら準備をしてください。必要時、ご相談ください。		
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、履修者のプレゼンテーションを主体に授業を進めます。担当内容について、自身の看護管理実践の視点から解説し、問題提起を行います。 ・課題プレゼンテーションの準備には、多くの時間を要します。工程および時間管理を行い、履修者間で看護政策に関する情報共有するなど、連携・協力して準備にあたってください。 		

※「ディプロマポリシー (DP) との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

博士前期課程

科目名	看護管理学・ 看護教育学特論Ⅱ	科目番号	3415	単位	2	時間	30	
教員名	◎渋谷美香 井本英津子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後期		
科目概要	既習の看護管理の基本となる諸理論や概念を用いて、組織における人的資源管理および看護の質保証について、自組織の分析および課題抽出を行い、改善に向けた提案を行う。							
ディプロマポリシー (DP) との関連※	◎M1：看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2：学際的な視野をもって俯瞰する能力							
目標	1. 人的資源管理について、自施設の分析から、看護管理上の課題を抽出しと改善に向けた提案ができる。 2. 看護の質管理について、自施設の分析から、看護管理上の課題を抽出し、改善に向けた提案ができる。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	オリエンテーション 人的資源管理の基本的考え方					渋谷美香 井本英津子	
	2	人事システムと賃金制度 ・採用と配置、評価、報酬など ・人事管理、人事評価、賃金体系など						
	3	人材育成と活用 ・人材育成、人材の活用と組織デザイン ・タスク・シフティング、タスク・シェアリング (課題プレゼンテーション)						
	4	自組織における人的資源管理の分析と課題抽出① (課題学習)						
	5	自組織における人的資源管理の分析と課題抽出② (課題学習)						
	6	自組織における人的資源管理の分析と課題抽出③ (課題学習)						
	7	自組織における人的資源管理の課題と改善 (課題プレゼンテーション)						
	8	看護における質管理						
	9	医療・看護における質評価指標と質保証 (課題学習)						
10	医療・看護における質評価指標と質保証 (課題プレゼンテーション)							

博士前期課程

	11	自組織における看護の質管理における課題抽出① (課題学習)	
	12	自組織における看護の質管理における課題抽出② (課題学習)	
	13	自組織における看護の質管理における課題抽出 (課題プレゼンテーション)	
	14	自組織における看護の質改善に向けた方策 (課題学習)	
	15	自組織における看護の質改善 (課題プレゼンテーション)	
評価方法	授業への参加度 (60%)、プレゼンテーションによる課題の達成状況 (40%)、		
テキスト、参考書	テキストは用いません。課題に関する文献や関連書籍は適宜提示します。プレゼンテーションの準備に必要な資料や文献は自ら準備をしてください。必要時、ご相談ください。		
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、履修者のプレゼンテーションを主体に授業を進めます。担当内容について、自身の看護管理実践の視点から解説し、問題提起を行います。 ・課題プレゼンテーションの準備には、多くの時間を要します。工程および時間管理を行い、履修者間で情報共有するなど、連携・協力して準備にあたってください。 		

※「ディプロマポリシー (DP) との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

博士前期課程

科目名	看護管理学・ 看護教育学演習 I	科目番号	3416	単位	6	時間	180
教員名	◎渋谷美香 井本英津子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前後期	
科目概要	看護管理・看護教育に関する国内外の文献をレビューし、看護管理・看護教育に関する研究動向と課題を探究する。各自の研究課題に関する臨床疑問から、文献レビューの上、研究目的および方法論を検討し、研究計画書を作成する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	◎M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質の向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M3 研究課題に対応した研究プロセスの遂行に必要な能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 自身の臨床疑問に関する概念や背景を整理し、仮のリサーチクエスチョンを設定できる。 文献レビューを通して、関心領域の研究動向と課題を説明できる。 自身のリサーチクエスチョンを設定し、研究課題（テーマ）を明確にすることができる 研究目的を明確にし、研究計画を立案することができる。 研究計画書を作成し、倫理審査に向けた準備をすることができる。 						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1-12	臨床疑問に関する看護管理学領域の概念や背景を整理し、仮のリサーチクエスチョンを設定する。				渋谷美香 井本英津子	
	13-57	文献レビューおよび文献クリティークから、関心領域に関する研究動向と課題を明確にする。				渋谷美香 井本英津子	
	58-63	リサーチクエスチョンを設定し、研究課題（テーマ）を明確にする。				渋谷美香 井本英津子	
	64-69	自身の研究課題について、研究目的を明確にし、研究計画を立案する。				渋谷美香 井本英津子	
	70-90	研究計画を作成し、倫理審査に向けた準備を行う。				渋谷美香 井本英津子	
評価方法	研究計画書（50%）、プレゼンテーション（20%）ディスカッション（20%）、参加態度（10%）などから総合的に判断する。						
テキスト、参考書	特に指定なし。適宜、提示する。						
履修上の注意点	・開講日は履修者と相談の上、調整する。文献クリティーク資料およびプレゼンテーション資料は指定された期日までに、メールで提出すること。						

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

母性・助産看護学分野

科目名	母性看護学特論 I	科目番号	3242	単位	2	時間	30	
教員名	◎古川 亮子 福澤 利江子	科目種別	専門	開講年次	第1学年			
				開講学期	前学期			
科目概要	女性や家族の健康支援において用いられる主要な概念および理論について理解する。さらに、生命倫理学における基礎的概念をもとに女性の健康課題について倫理的視点から問題を検討できる能力を修得する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力							
目標	1.女性や家族の健康支援において用いられる主要な概念および理論を理解する。 2.女性の健康にかかわる倫理的課題について検討する視点を持つ。							
授業計画内容	回数	授業計画内容					担当教員	
	1-2	講義オリエンテーション セクシャル・ヘルス、セクシャル・ライツについて、既存の概念より自己の考察を討議する					古川	
	3-4	ヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス、自己決定について、既存の概念より自己の考察を討議する					古川	
	5-6	親になるとは(母性・父性・親性)、愛着理論について、既存の概念より自己の考察を討議する					福澤	
	7-8	家族を中心としたケア、女性を中心としたケア 既存の概念より自己の考察を討議する					福澤	
	9-10	母性看護学・助産学に用いる主要な概念・理論を理解する					福澤	
	11-12	生命倫理における基礎的概念を用いて事例を通じて倫理的視点よりアプローチする 女性の健康にかかわる倫理課題(生殖補助医療、出生前診断、人工妊娠中絶など)について討議する					古川	
	13-15	身近な女性の健康にかかわる倫理的課題の事例を提示し倫理的側面より討議する					古川	
評価方法	プレゼンテーション(50%)、レポート(40%)、参加度(10%)などより総合的に評価する。							
テキスト 参考書	テキスト:随時文献・図書を紹介する 参考書:適宜提示する							
履修上の 注意点	主体的に授業に参加すること							

科目名	母性看護学特論Ⅱ	科目番号	3243	単位	2	時間	30	
教員名	◎古川 亮子 福澤 利江子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	女性の健康における助産ケアに着目し、国内外の歴史的変遷と助産教育、現代の母子保健事情を学ぶ。また、少子少産化や政治経済状況の変化が女性の健康に及ぼす影響を踏まえたうえで、リプロダクティブ・ヘルスをめぐる諸問題について多角的に検討する。							
タイプ・ロポリン(DP)との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力							
目標	1.日本アジア欧米各国の医療史、母子保健システムや助産教育について知見を広め、それらを比較しながらディスカッションする。 2.妊娠・出産、不妊、避妊や中絶などのリプロダクションに関連する女性の意思決定支援の在り方について、文化や政治、経済の見地から考察する。							
授業計画・内容	回数	授業計画内容					担当教員	
	1-2	ガイダンス 現代の助産師に求められる能力について討議する。					古川	
	3-4	周産期医療システムと母子保健行政など、現代の日本における社会的状況が女性の健康に及ぼす影響について討議する。					古川	
	5-6	日本における女性の健康と健康政策について、海外と比較して討議する。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と課題解決の変遷を概観し、今日的な課題について討議する。					福澤	
	7-8	子育て包括支援センターの活動や特定妊婦への助産師の関わりについて討議する。					時間講師	
	9-11	WHOのポジティブな出産経験のための分娩期ケアやドゥーラ、国内外の出産事情より、社会学的視点からとらえるお産のあり方について討議する。					福澤	
	12-13	発展途上国における周産期の現状や課題について、日本と比較して討議する。					時間講師	
	14-15	課題テーマについてプレゼンテーションを行い、内容について討議する。					古川	
評価方法	レポート(50%)、プレゼンテーション(40%)、参加度(10%)などから総合的に評価する。							
テキスト 参考図書	テキスト:随時資料を配布する 参考書図書:適宜提示する							
履修上の 注意点	主体的に授業に参加すること 各回の討議について事前に文献図書などから事前学習しておくこと							

科目名	母性看護学演習 I	科目番号	3251	単位	6	時間	180	
教員名	古川 亮子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	周産期およびそれぞれのライフステージにある女性に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、さらに援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。具体的には各自の演習課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、さらに結果をまとめ報告書を作成する過程を経験する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M1 専門分野に関する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M3 研究課題に対応した研究プロセスの遂行に必要な能力							
目標	1. 自己の演習課題を明確化することができる。 2. 課題に関連する文献検索およびレビューができる。 3. 研究計画が立案できる。 4. 研究計画をまとめプレゼンテーションができる。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1～6	1. ウィメンズヘルス、周産期、母性看護学、助産学に関する国内外の文献を適切に検索できるようになる。					古川	
	7～20	2. レビューを行い、批判的な視点から論文を考察する視点を養う。						
	21～62	3. 興味を持つテーマについて量的研究および質的研究の計画の立案を行い、研究計画の作成についての理解を深める。						
	63～90	4. 作成した研究計画を発表し、他者からの意見を踏まえたうえで、より実行可能な研究計画書を作成する。						
評価方法	文献レビュー(20%)、研究計画書(50%)、プレゼンテーション(20%)、参加態度(10%)などから総合的に評価する。							
テキスト 参考書	随時提示する。							
履修上の注意点	開講日は履修生と相談し調整する。							

小児看護学分野

科目名	小児看護学特論 I	科目番号	3252	単位	2	時間	30	
教員名	竹内幸江 高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	対象理解と看護援助の基盤となる《子どもと家族の日常生活》をとらえる手段として小児各期における成長発達および健康評価に役立つ概念・理論、家族の発達に関する理論を学ぶ。また、成長発達に影響をおよぼす環境との相互作用の観点から子どもと家族の関係性、子ども・家族と社会の相互作用の理解に役立つ理論やヘルスプロモーションの概念を活用し、子ども・家族中心ケアについて理解する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 成長発達と健康に関係する概念や理論を理解し、小児看護における成長発達の視点、評価方法、援助方法を学ぶ。 2. 小児看護の対象理解に役立つ諸理論を理解し、看護実践への活用を学ぶ。 3. 上記 1. 2. を基に、小児看護における子ども・家族中心ケアについて理解する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	オリエンテーション/各自の学習課題の確認					竹内幸江 高橋百合子	
	2	《子どもと家族の日常生活》を理解するための視点 1) 日常生活における当事者の視点 2) その暮らしさ/個性 3) 身体発育と心理・社会的発達 4) 子どもと家族の関係性/発達 5) 家族の固有の経験 6) 家族と社会/時代					竹内幸江	
	3	小児の成長発達および健康生活に関する概念 1) 発達の暗黙の価値観 2) 発達のレジリエンス 3) 発達の敏感期 4) 発達の多数経路 5) ヘルスプロモーション					竹内幸江 高橋百合子	
	4	小児・家族の成長発達/健康生活に関する理論の概要 (講義) 小児各期における子ども・家族の理解の助けになる理論 認知発達理論 文化的歴史的発達理論 自我発達理論					竹内幸江 高橋百合子	
	5	乳幼児の成長発達の理解に役立つ理論					竹内幸江	
	6	愛着理論、分離固体化理論、こころの理論他					高橋百合子	
	7	学童・思春期の子どもの理解に役立つ理論・概念 セルフエフィカシー、自己肯定感他					竹内幸江	
8	バーナード親子相互作用論の理解と看護実践への活用					竹内幸江 高橋百合子		

	9	子どもの気質の理解と看護実践への活用	竹内幸江 高橋百合子
	10	関係発達論の理解と看護実践への活用	竹内幸江
	11	セルフケア理論の理解と看護実践への活用	竹内幸江 高橋百合子
	12	小児看護におけるストレス・コーピング	竹内幸江 高橋百合子
	13	小児看護におけるソーシャルサポート	竹内幸江 高橋百合子
	14	家族発達に関する理論・概念の理解と看護援助の視点	竹内幸江 高橋百合子
	15	学生の経験事例を基にした討議と子ども・家族中心ケアの理解	竹内幸江 高橋百合子
評価方法	プレゼンテーション内容：50% ゼミの参加度：20% レポート：30%		
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時、文献・資料を紹介する		
履修上の注意点			

科目名	小児看護学特論Ⅱ	科目番号	3253	単位	2	時間	30	
教員名	竹内幸江 高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	<p>様々な健康課題をもつ子どもとその家族に対して、倫理的判断および臨床判断に基づき、状況に応じた高度な看護実践を行うための小児看護専門看護師の役割について学ぶ。慢性疾患患児、小児がん患児、クリティカルな状況にある患児、終末期にある患児、ハイリスク新生児など、患児とその家族の複雑な健康問題の解決および看護援助に役立つ理論と方法について理解する。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力</p>							
目 標	<p>1. 様々な健康課題をもつ子どもとその家族に対する倫理的判断、臨床判断について理解し、高度看護実践を行うための小児看護専門看護師の機能と役割について学ぶ。 2. 複雑な健康問題を持つ子どもと家族への看護を諸理論やケアのエビデンスから検討し、高度看護実践について理解する。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	オリエンテーション/各自の学習課題の確認					竹内幸江 高橋百合子	
	2	小児看護の専門性・専門分化					竹内幸江 高橋百合子	
	3	複雑な問題を抱える子ども・家族への看護実践における倫理的判断					竹内幸江 高橋百合子	
	4	小児看護専門看護師の役割 (相談、調整) 様々な健康課題をもつ子どもとその家族に対する倫理的判断および臨床判断に基づき、高度な看護実践を行うための役割について学ぶ。					時間講師	
	5	小児看護専門看護師の役割 (倫理調整、教育) 様々な健康課題をもつ子どもとその家族に対する倫理的判断および臨床判断に基づき、高度な看護実践を行うための役割について学ぶ。					時間講師	
	6	小児看護専門看護師の役割 (院内活動、地域へのアウトリーチ)					時間講師	
	7	小児の周手術期と長期的問題への看護					竹内幸江	
	8	小児のクリティカルケアと家族への看護					高橋百合子	
	9	小児がんをもつ子どもと家族の看護					竹内幸江 高橋百合子	
	10	小児の終末期ケア					竹内幸江	
	11	ハイリスク新生児と家族の看護					竹内幸江	
	12	障がいをもつ子どもと家族の看護					高橋百合子	
	13	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護					竹内幸江 高橋百合子	
14	小児糖尿病サマーキャンプにおける看護実践 (レポート)					高橋百合子		

	15	まとめ	高橋百合子 竹内幸江
評価方法	プレゼンテーション内容：50% ゼミの参加度：20% レポート：30%		
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時文献・図書を紹介する。		
履修上の注意点			

科目名	小児病態・治療特論	科目番号	3254	単位	2	時間	30	
教員名	藪原明彦・竹内幸江 ・高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	小児期にみられる疾患の病態生理、診断、治療について理解を深め、それらの知識を看護援助の視点に関連づけて考える。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 小児期にみられる疾患の病態生理を理解する。 2. それぞれの疾患における検査、診断、治療のプロセスを理解する。 3. 事例を通して、症状マネジメントを実施できる。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	ガイダンス/小児の呼吸器疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	2	小児の感染症に関する病態生理、診断、治療 予防接種の現状					藪原明彦	
	3	小児の循環器疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	4	小児の消化器、腎・尿路疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	5	新生児期にみられる疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	6	小児の血液、腫瘍疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	7	小児の代謝・内分泌疾患、遺伝性疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	8	小児の膠原病、免疫疾患、アレルギー性疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	9	小児の神経、筋疾患の病態生理、診断、治療					藪原明彦	
	10	精神、発達障がいに関する病態生理、診断、治療 思春期医学					藪原明彦	
	11	小児における臨床検査・画像検査とその解釈 放射線治療の特徴と影響					藪原明彦	
	12	小児の薬物療法、栄養療法					藪原明彦	
	13	小児の症状マネジメントの特徴					竹内幸江 高橋百合子	
	14	事例による症状マネジメント①					高橋百合子 竹内幸江	
15	事例による症状マネジメント②					高橋百合子 竹内幸江		
評価方法	ゼミの参加度：40% プレゼンテーション：10% レポート：50%							
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時文献・図書を紹介する。							
履修上の注意点								

科目名	小児看護学演習 I・A	科目番号	3247	単位	2	時間	60
教員名	竹内幸江 高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	小児のヘルスアセスメントに必要な知識と技術について学ぶ。健康状態を査定するフィジカルアセスメントという視点だけでなく、ライフスタイルおよび生活環境、そして家族との相互作用を含めたヘルスアセスメントの視点を理解し、事例による実践を通して修得する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目 標	1. ヘルスアセスメントの目的、基本技術を理解し、小児に特有なアセスメント技術について考える。 2. 顕在・潜在する健康状態に影響を与える、小児のライフスタイル、生活環境などの要因について理解し、状況に適した情報を聴取できる。 3. 視診、触診、聴診、打診、問診の技術を習得し、系統的なフィジカルアセスメントが実施できる。 4. 収集したデータを分析し、包括的な健康状態のアセスメントができる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	ガイダンス ヘルスアセスメントの概要				竹内幸江、高橋百合子	
	2-3	新生児・乳児へのフィジカルアセスメントの技法				竹内幸江、高橋百合子	
	4-5	幼児・学童・思春期の子どもへのフィジカルアセスメントの技法				竹内幸江、高橋百合子	
	6-7	新生児期のヘルスアセスメント				竹内幸江、高橋百合子	
	8-9	乳児期のヘルスアセスメント				竹内幸江、高橋百合子	
	10-11	幼児期のヘルスアセスメント				竹内幸江、高橋百合子	
	12-13	学童期のヘルスアセスメント				竹内幸江、高橋百合子	
	14-15	思春期のヘルスアセスメント				竹内幸江、高橋百合子	
	16-17	症状を訴える小児のアセスメントの視点				竹内幸江、高橋百合子	
	18-19	症状を訴える小児のアセスメントの視点				竹内幸江、高橋百合子	
	20-21	対象事例のヘルスアセスメント（フィールド学習）				竹内幸江、高橋百合子	
	22-23	対象事例のヘルスアセスメント（フィールド学習）				竹内幸江、高橋百合子	
	24-25	実施したヘルスアセスメントの事例報告				竹内幸江、高橋百合子	
	26-27	実施したヘルスアセスメントの事例報告				竹内幸江、高橋百合子	
28-30	まとめ およびヘルスアセスメントの自己評価				竹内幸江、高橋百合子		

評価方法	プレゼンテーション内容：50% ゼミの参加度：20% レポート：30%
テキスト、参考書	テキスト：小野田千枝子監修（2001）：こどものフィジカルアセスメント．金原出版
履修上の注意点	ヘルスアセスメントをする対象事例は、各自で手配すること。

科目名	小児看護学演習 I・B	科目番号	3248	単位	2	時間	60	
教員名	竹内幸江 高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第2学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	小児を取り巻く社会・保健・医療・福祉・教育の現状と課題を分析するとともに、必要とされる環境づくりに関して、小児看護専門看護師としてどのような調整ができるかを検討する。							
ディプロマポリシー (DP)との関連	◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C2 多職種と協働し、調整する能力 ○C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力							
目標	1. 小児を取り巻く保健・医療・福祉・教育の現状と課題について分析し、現代社会の中で子どもがおかれている生活状況をさまざまな側面から理解する。 2. 各機関の連携の実態と今後の可能性をアセスメントし、必要な環境づくりに関して、小児看護専門看護師としてどのような調整ができるかを検討する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	オリエンテーション/各自の学習課題の確認					竹内幸江 高橋百合子	
	2-5	小児を取り巻く保健・医療環境の現状と課題 小児を取り巻く福祉・教育の現状と課題 過去5年間の「日本子ども資料年鑑」のデータおよび厚労省/文部科学省のHPを中心に、関連書籍や資料も参考にしながら、上記についての現状と課題に関する討議を行い、理解を深める					竹内幸江 高橋百合子	
	6-11	小児を取り巻く現代社会の問題と政策 ・子どもに関する近年の政策の理解					竹内幸江 高橋百合子	
	12-17	健康問題を持つ子どもに関連する法的支援 ・小児慢性特定疾病対策の概要 ・アレルギー疾患対策基本法 ・がん対策基本法 など					竹内幸江 高橋百合子	
	18-19	小児の保健・医療・福祉・教育の連携と看護実践 ・活動事例の検討あるいは実態に関する文献検討					竹内幸江 高橋百合子	
	20-23	学校保健に関する現状と課題/病弱児の教育支援 特別支援学校における看護師の役割に関する現状と課題					竹内幸江 高橋百合子	
	24-29	アレルギー疾患をもつ子どもと家族の会の活動の見学 ・定例会(1回/月2時間)への継続的な参加(レポート)					竹内幸江 高橋百合子	
	30	小児保健・医療・福祉・教育の連携促進と今後のあり方 ・今後のあり方と専門看護師の役割についてまとめる					竹内幸江 高橋百合子	
	評価方法	プレゼンテーション内容：50% ゼミの参加度：20% レポート：30%						
テキスト、参考書	テキスト、参考書：日本子ども家庭総合研究所編：日本子ども資料年鑑 KTC 中央出版							
履修上の注意点								

科目名	小児看護学演習 I・C	科目番号	3249	単位	2	時間	60
教員名	竹内幸江 高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	健康問題をもつ子どもと家族へのアプローチとして、子ども・家族とのパートナーシップおよび多職種協働に関する考え方を理解し、事例を通して専門看護師の役割を実践的に学ぶ。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C2 多職種と協働し、調整する能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力						
目標	1. 学習課題に即した関連論文を読み、子ども・家族中心の考え方を理解するとともに、臨床現場の看護実践にどのように応用できるかについて学ぶ。 2. 対象事例の観察およびその事例を取り巻く周囲の人々・専門職者に面接し、話し合うことで、多職種協働チームにおける看護師の役割を検討し、実践的な看護方法を修得する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	総論／各自の学習課題の確認				竹内幸江、高橋百合子	
	2-5	日常生活における子どもと親/家族との関係 乳幼児期/学童・思春期（ゼミ）				竹内幸江 高橋百合子	
	6-9	看護師と子ども・家族とのパートナーシップ （講義・ゼミ）				竹内幸江 高橋百合子	
	10-13	看護師と他職種との関係（講義・ゼミ） 多職種協働チームにおける看護師の役割				竹内幸江 高橋百合子	
	14-19	事例の観察/面接（フィールド学習） 子どもと家族・周囲の人々との関係				竹内幸江 高橋百合子	
	20-25	事例の観察/面接（フィールド学習） 医療機関・教育・保健機関の専門職者による子ども・家族への関わり				竹内幸江 高橋百合子	
	26-28	事例報告				竹内幸江、高橋百合子	
	29-30	まとめ				竹内幸江、高橋百合子	
評価方法	プレゼンテーション内容：50% ゼミの参加度：20% レポート：30%						
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時、文献・図書を紹介する。						
履修上の注意点	対象事例に関しては、学生自身が探すことを原則とするが、該当事例が得られない場合には相談にのる。						

科目名	小児看護学実習 I	科目番号	3255	単位	2	時間	90
教員名	藪原明彦・竹内幸江・高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	小児期にみられる疾患の診断、治療のプロセスを理解し、症状マネジメントについて知識を深め、小児看護専門看護師としての臨床判断力をつける。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期にみられる疾患の病態生理を理解したうえで、それぞれの疾患における検査、診断、治療のプロセスを学ぶ。 2. 小児科医師の指導のもとに、疾患に罹患した子どもの身体症状について査定できる。 3. その子どもに必要な症状マネジメントを実施できる。 						
授業計画・内容	<p>実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児によくみられる疾患*について、その診察場面に立ち会い、医師の行う診断・治療過程を理解する。 2. 診断・治療過程において、その子どもの身体症状について査定する。 3. 上記の内容を統合して、子どもと家族に必要な看護援助を症状マネジメントも含めて考える。 4. 事例10例以上を実施し、レポートを提出する。 <p>*よくみられる疾患として以下の疾患を想定している。 肺炎 急性気管支炎 急性胃腸炎 川崎病 ネフローゼ症候群 腎炎 気管支喘息 食物アレルギー 甲状腺疾患 I型糖尿病 てんかん 重症心身障がい児 発達障がい</p> <p>実習場所： 伊那中央病院 小児科外来 小児病棟</p> <p>実習指導者： 伊那中央病院 小児科医師 小児看護専門看護師</p>						
評価方法	実習レポート：50% 実習実践(カンファレンス含む)：40% 実習態度：10%						
テキスト、参考書	<p>テキスト：随時文献・図書を紹介する。</p> <p>参 考 書：</p>						
履修上の注意点	実習要項を参照すること。						

科目名	小児看護学実習Ⅱ	科目番号	3256	単位	1	時間	45
教員名	竹内幸江 高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	小児看護専門看護師が実際に行っている実践活動（コンサルテーション、調整、教育、倫理調整、研究）について学び、病院組織や地域の保健・医療・教育・福祉機関との連携・協働における小児看護専門看護師の役割について理解を深める。						
ディプロマポリシー（DP）との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護専門看護師が日々実践している活動について、その概要を理解する。 2. 実践活動をしていく上での取り組み方、課題について理解する。 3. 病院組織や地域の保健・医療・教育・福祉機関との連携・協働における小児看護専門看護師の役割について理解する。 4. 今後の実習及び実践に向けた自己の課題を明確にする。 						
授業計画・内容	<p>実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前に実習指導者（小児看護専門看護師）と連絡をとり、専門看護師の活動の概要を把握し、前もって作成した実習計画の助言を受ける。実習日程は、小児専門看護師の活動日等を考慮し、相談して決定する。 2. 小児看護専門看護師より、病院の概要、組織における専門看護師の位置づけ、地域の諸機関との連携・協働における実践活動の取り組み等について話を聞く。 3. 小児看護専門看護師の実践活動に参加し、実際の取り組み方を学ぶ。 4. 上記の内容から、実践活動における課題、病院組織や地域の諸機関との連携・協働における小児看護専門看護師の役割を学び、自己の課題について分析、考察する。 <p>実習場所： 佐久医療センター 小児科外来 小児病棟</p> <p>実習指導者： 佐久医療センター 小児看護専門看護師</p>						
評価方法	実習レポート：70% 実習実践：20% 実習態度：10%						
テキスト、参考書	<p>テキスト：随時文献・図書を紹介する。</p> <p>参考書：</p>						
履修上の注意点	<p>実習要項を参照すること。</p> <p>各学生の学習目標、課題を明確にし、主体的に参加する。</p>						

科目名	小児看護学実習Ⅲ	科目番号	3257	単位	7	時間	315
教員名	竹内幸江 高橋百合子	科目種別	専門	開講年次		第2学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	複雑な健康問題をもつ子どもとその家族に対して、質の高い卓越した看護を提供するために必要な知識と臨床判断、技術の習熟化をめざす。また、チーム医療が十分に機能し活性化するための小児看護専門看護師の役割と機能を学び、必要な問題解決能力や調整力、指導力を修得する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力						
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な事例についてアセスメントを実施し、自ら看護実践を行うことができる。 2. 子どもや家族の理解および看護実践に関して、さまざまな理論やモデルを活用できる。 3. 困難な事例に関わる看護師へのコンサルテーションを実施し、評価できる。 4. 病棟におけるスタッフ教育に関する課題を分析し、教育プログラムを実施し評価できる。 5. 医療チームの中での専門看護師の役割を認識し、他職種との協働、調整などを行い、評価することができる。 6. 健康問題を持ちながら退院する子ども、家族へのケアとして、多職種間の調整や子どもや家族への教育的働きかけを実施し、評価することができる。 7. 実習を行う中での倫理的問題を明確にし、適切に対応することができる。 						
授業計画・内容	<p>実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの関心領域、実習目標に基づいて、実習場所を選択し、複雑な健康問題を抱える子どもと家族に継続的に関わり、患児・家族のアセスメント及び看護実践を行う。必要に応じて、他職種との協働、調整などを行いそれらの経過を分析し、評価する。 2. 複雑な健康問題をもつ事例に関わる看護スタッフのニーズ等を中心に、病棟におけるスタッフ教育に関する課題を分析し、看護師への教育プログラムを立案・実践し、評価する。 3. 看護を継続する上で困難な事例に関わる看護師へのコンサルテーションを実施し、評価する。 4. 実習を行う中で気づいた倫理的問題について、その状況を明確に記述し課題の解決に向けた調整を行い、評価する。 5. 専門看護師としての実践機能は5事例以上、コンサルテーション・調整・教育機能・倫理調整は2事例以上について纏め、レポートを提出する。 学生は、実習計画の立案、実習（実践、コンサルテーション、調整、教育、倫理的調整）、評価（学内及び実習場での実習カンファレンス、レポート 						

	作成等) に主体的に取り組む。病棟にて行う事例のカンファレンスは、学生が計画・運営を行う。学生自らの実習の進み具合や参加者のスケジュールを調整し、関係者・実習指導者および教員と連絡をとり、カンファレンスを開催する。
授業計画・内容	<p>なお、本コースでは、小児看護専門看護師としてのサブスペシャリティを提示していない。個々の学生の修了後の活動状況や希望を基に、実習場所(各病棟・外来等)を選択し実習を行う。</p> <p>実習指導に関して：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各実習場で、適宜カンファレンスを行い、実習指導者、および事例に関わる他職種からも助言をうける。 ・担当教員のスーパービジョンは、実習場あるいは、大学で週1回程度行う。 <p>実習場所：</p> <p>長野県立こども病院 各病棟 外来部門</p> <p>実習指導者：</p> <p>長野県立こども病院 小児看護専門看護師、各病棟師長、認定看護師</p>
評価方法	<p>実習レポート：50% 実習実践(カンファレンスを含む)：40%</p> <p>実習態度：10%</p>
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時文献・図書を紹介する。
履修上の注意点	<p>これから配布する実習要項を参照すること。</p> <p>実習期間は、専門看護師の役割を体験的に学び修得するための十分な実習時間を確保する。常に、受け持ち患児や家族、病棟スタッフと十分なコミュニケーションをとりながら、主体的に実習を展開する。</p>

成人看護学分野

科目名	成人看護学特論 I	科目番号	3222	単位	2	時間	30
教員名	江頭有夏 熊谷理恵	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	健康障害を持ちながら生活する成人期の人々への看護援助に活用できる概念や理論について学修する。概念や理論を理解するにあたり、その発展の系譜とそれぞれの学問領域における定義・内容、適用される条件などを明確にし、理論の全体像を理解する。さらに、それらの概念・理論が看護学においてはどのように理解され、用いられているか、成人看護学においてどのような適用が可能かを検討する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力						
目標	1. 成人期の人々への看護援助に活用する概念・理論が説明できる。 2. それぞれの概念・理論の発展の系譜を理解する。 3. それぞれの学問領域における概念・理論の定義・内容と看護領域における諸現象を対照しつつ考察できる。 4. それぞれの概念・理論の成人看護学における適用について、エビデンスを探索し、解釈・分析・検討しながら文献的考察を深める。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1, 2	成人期の人々の健康障害の特徴と看護 成人看護学の発展の歴史的経緯と、理論概念の全体像				江頭有夏	
		成人期患者・家族の体験の理解 (1) : 病いの意味論、病みの軌跡理論、ナラティブ・アプローチ					
	3, 4	AYA 世代患者、その発達段階からの心理社会的課題と支援				江頭有夏	
		成人期がん患者・家族の体験の理解 : 病いの意味論、ナラティブ・アプローチ					
5, 6	成人期看護実践理論 (1) : セルフケア・セルフマネジメント理論 *がん患者・家族におけるセルフマネジメント理論と実践応用可能性				大石ふみ子		
7, 8	成人期看護実践理論 (2) : がん患者の持つカー-M. ニューマン「拡張する意識」、レジリエンス *個人、家族のレジリエンス理論と実践応用可能性				大石ふみ子		

	9, 10	ストレス・コーピング理論の基礎	前澤美代子
		喪失・悲嘆と適応理論	
	11, 12	成人期患者・家族の体験と支援の理論（1）：危機理論、ストレス・コーピング理論 *急性期における「せん妄ケア」での理論の応用可能性	江頭有夏
	13, 14	成人期患者・家族の体験と支援の理論（2）：QOLと関連概念 *AYA 世代がん患者・家族における QOL と概念の実践応用可能性	熊谷理恵
	15	成人期 看護理論・概念のまとめ 総合的に「理論・概念」の実践応用可能性を討議する。	江頭有夏
評価方法	提示資料 30%、プレゼンテーション 30%、ゼミ参加度・積極性 40%		
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時、文献を紹介、必要に応じて資料配付		
履修上の注意点	<p>提示テーマについての大学院生のプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進めるため、積極的に参加して自分の意見を述べてください。</p> <p>プレゼンテーションのための資料の作成については、研究論文等の一次資料を活用すること。資料を基にプレゼンテーションを行うが、その方法は自由です。</p>		

博士前期課程

科目名	成人看護学特論Ⅱ	科目番号	3223	単位	2	時間	30	
教員名	江頭有夏	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	成人看護学領域において活用される研究方法について学修し、量的研究法、質的研究法等を活用した文献の抄読を通して、成人期の人々へのより質の高い看護援助のあり方を探求する。							
ディプロマポリシー(DP)との関連※	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力							
目標	1. 成人看護学において活用される研究方法について理解する 2. 成人看護学における研究動向と、研究の変遷を理解する 3. 成人看護学領域における量的研究法の実際の活用を理解する 4. 成人看護学領域における質的研究法の実際の活用を理解する							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-3	成人看護学領域の研究動向についての文献検討 －慢性疾患					江頭有夏 熊谷理恵	
	4-6	成人看護学領域の研究動向についての文献検討 －急性期疾患					江頭有夏 浦野理香	
	7-8	成人看護学領域の和文抄読 －量的研究法					江頭有夏 浦野理香 熊谷理恵	
	9-10	成人看護学領域の和文抄読 －質的研究法					江頭有夏 浦野理香 熊谷理恵	
	11-12	成人看護学領域の英文抄読 －量的研究法					江頭有夏 浦野理香 熊谷理恵	
	13-14	成人看護学領域の英文抄読 －質的研究法					江頭有夏 浦野理香 熊谷理恵	
	15	まとめ					江頭有夏	
評価方法	提示資料 30%、プレゼンテーション 50%、ゼミへの参加度・積極性 20%							
テキスト、参考書	特に指定なし。課題や必要に応じて、適宜提示、紹介する。							
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業で時間割を調整する。 ・学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。 							

博士前期課程

科目名	成人看護学演習 I	科目番号	3235	単位	6	時間	180
教員名	江頭有夏	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	成人にある人と家族を対象に、特に関心のある課題についての文献検討を通じて、周辺領域の研究の動向と課題を探求する。文献検討を進め、各自の研究課題を明らかにする。研究目的、研究方法を検討し、研究計画書を作成する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ○M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力						
目標	1. 関心のある領域についての文献検討を通じて、周辺領域の研究の動向と課題を明確にすることができる 2. 研究課題（テーマ）を明確にすることができる 3. 研究課題に対して、研究目的、研究方法を検討し、研究計画書を作成することができる 4. 研究計画における倫理的配慮方法を考察できる						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1-30	関心のある領域について、文献をクリティークする。文献検討から周辺領域の研究の動向と課題を明確にする。				江頭有夏 牟田理恵子 浦野理香 熊谷理恵	
	31-50	研究課題（テーマ）の明確化 文献クリティーク				江頭有夏 牟田理恵子 浦野理香 熊谷理恵	
	51-60	研究目的、リサーチクエスションの明確化 文献クリティーク				江頭有夏 牟田理恵子 浦野理香 熊谷理恵	
	61-80	研究方法、倫理的配慮の検討 文献クリティーク				江頭有夏 牟田理恵子 浦野理香 熊谷理恵	

博士前期課程

	81-90	研究計画書の作成 倫理的配慮の検討	江頭有夏 牟田理恵子 浦野理香 熊谷理恵
評価方法	研究計画書 50%、プレゼンテーション 30%、ゼミへの参加度・積極性 20%		
テキスト、参考書	特に指定なし。課題や必要に応じて、適宜提示、紹介する。		
履修上の注意点	学生が必要資料を作成し、プレゼンテーションをしながら授業を進める。		

科目名	がん看護学特論 I	科目番号	3451	単位	2	時間	30	
教員名	牟田理恵子 大石ふみ子	科目種別	専門	開講年次	第1学年			
				開講学期	前学期			
科目概要	がん患者および家族を理解しつつ、土台となる理論や概念を探究する。がん臨床の諸現象を理論と対照しつつ考察し、がん患者や家族の状況を設定し、既存の研究からそれらを解決するためのエビデンスを探索し、解釈・分析・検討しながら文献的考察を深める。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. がんとともに生きる人々とその家族の体験理解の土台となる理論や概念が説明できる。 2. がん看護領域における諸現象を理論と対照しつつ考察できる。 3. がん患者や家族の状況を設定し、解決するためのエビデンスを探索し、解釈・分析・検討しながら文献的考察を深める。							
授業計画・内容	回数	学習内容					担当	
	1 2	がん看護理論の総説：がん看護学および緩和ケア学の理論、発展の歴史的経緯と、理論概念の全体像					牟田理恵子	
		がんの不確かさ： Mishel の病気の不確かさ理論 ①オリジナル理論、②再概念化理論						
	3 4	【がんの発達段階：AYA 世代】 がんの AYA 世代患者、その発達段階からの心理社会的課題と支援					牟田理恵子	
		【がんの発達段階：成人期】 がん患者・家族の体験の理解：病いの意味論、ナラティブ・アプローチ						
	5 6	がん患者の持つ力：M. ニューマン「拡張する意識」、レジリエンス					大石ふみ子	
		<文献の購読とディスカッション>						
	7 8	がん看護の実践：セルフケア・セルフマネジメント理論、ピアサポート					大石ふみ子	
		<文献の購読とディスカッション>						
	9 10	がんのストレス ストレスコーピング理論の基礎					前澤美代子	
がんの喪失・悲嘆・危機・適応理論								

		がん患者の家族理解：家族レジリエンス、家族危機理論、家族発達理論	
	11 12	<p><文献の購読とディスカッション> ヤングケアラーの問題を、家族システム、家族の勢力、家族内の巻き込み・巻き込まれ、の概念を用いて読み解く</p>	牟田理恵子
	13 14	<p>がんサバイバー支援の概念分析① 【寄り添う】 *前提要件、属性、帰結を整理する</p> <p>がんサバイバー理解と概念分析② 【その人らしさ】 *前提要件、属性、帰結を整理する</p>	牟田理恵子
	15	がん看護理論, 概念の実践応用可能性	牟田理恵子
評価方法	到達目標の 1～3 を踏まえて、討議での参加度や発言（20%）、課題レポート（60%）プレゼンテーション（20%）を評価する		
テキスト、参考書	授業で提示する		
履修上の注意点	がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。		

科目名	がん看護学特論Ⅱ	科目番号	3452	単位	2	時間	30	
教員名	牟田理恵子 濱口恵子 熊谷理恵	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>専門看護師の包括的な支援を提供する基礎として、がん看護の歴史、制度、がんサバイバーシップなど、がん看護領域における諸現象を多角的に検討する。その上で、がんサバイバーと家族を念頭におき、治療期ならびにエンド・オブ・ライフ期の様々な場面で直面する治療選択や治療継続に関する意思決定支援、疾患や治療により生じる苦痛の症状マネジメント、倫理調整プロセスと調整スキルを理解する。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力</p>							
目 標	<p>1 がん患者や家族の療養プロセスに関係する、がん看護の歴史や制度政策の流れ、現状の問題と課題が説明できる。 2 緩和ケアを必要とする患者の意思決定支援、退院支援を理解し、専門看護師として解決すべき課題、解決のための方略を既存の様々なレベルのエビデンスを収集・統合し説明できる。 3 がん患者の家族が抱える全人的苦痛について理解し、家族看護の諸理論を活用しながら専門看護師として解決すべき課題、解決のための方略を既存の様々なレベルのエビデンスを収集・統合し説明できる。 4 緩和ケアを必要とする患者・家族の療養過程での倫理的問題を理解するための理論を学び、専門看護師として解決すべき方略を説明できる。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	がん看護学の発展の歴史的経緯と動向： 我が国のがん看護の歴史、専門看護師の専門職化への道程					濱口恵子	
	2	がん患者が置かれている社会的な状況と法律、制度設計と専門看護師がおかれている状況					濱口恵子	
	3	がんサバイバーの理解①： がんサバイバーシップとは、がんサバイバーと症状マネジメント、セルフマネジメント					濱口恵子	
	4	がんサバイバーの理解②： 心理社会的介入に関する種々の支援方法に関する基礎的知識・技術、セルフヘルプ・グループ、カウンセリング、就労支援など					濱口恵子	
	5	がん看護領域における倫理的問題の特徴と基礎： 倫理調整に必要な基礎的知識と技術					濱口恵子	

	6～8	【倫理調整カンファレンスと事例検討】 * IPW 事例検討会（濱口講師）に参加し、がん看護領域における倫理的問題の調整を目的に、臨床の倫理的な事例分析から、倫理調整プロセスを学ぶ。	濱口恵子 牟田理恵子
	9・10	【治験における意思決定支援プロセスと調整】 臨床の「治験」を取り上げ、討議を通して、意思決定支援プロセスと調整について学ぶ。	熊谷理恵 濱口恵子
	11～13	【がん看護における概念分析】： *がんサバイバー支援の根底にある、その人らしさを支えるの支援、および寄りそう看護について、“その人らしさ”、“寄りそう”の看護概念分析を通して理解する	牟田理恵子
	14・15	【エンド・オブ・ライフ期の理解】： エンド・オブ・ライフケアの歴史と緩和ケア、全人的ケアに関する最近の研究動向と課題、実践上の課題を考察する。	牟田理恵子
評価方法	到達目標の1～4を踏まえて、演習での発言およびプレゼンテーション50%、課題レポート50%		
テキスト、参考書	参考文献及び資料は、随時提示または配布する。		
履修上の注意点	がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。		

【がん臨床のコンフリクト高度先端治療を受ける患者の症状マネジメント】

高度先端治療を受ける患者の事例を提示し、討議を通して、症状マネジメントについて学ぶ。

科目名	がん看護学特論Ⅲ	科目番号	3453	単位	2	時間	30
教員名	牟田理恵子 緩和ケア医 他	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>再発転移、エンド・オブ・ライフ期にある患者・家族が抱える「つらさ Distress」を包括的に理解し、緩和するための諸理論とエビデンス、臨床判断過程について学ぶ。</p> <p>また様々な「つらさ Distress」にある患者・家族と共に「がん」に向き合うために、専門看護師として「がん哲学の思考」が身につくように、様々な価値観の問い直しを自らに行い、人々と対話を通して自分自身の考えをたくましくしていく経験をする。緩和ケアの提供システムとしての「緩和ケアチーム」や「がん哲学外来」などのリソースの活用・展開、調整についても学ぶ。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践</p> <p>○C3 倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力</p>						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者や家族に対する、治療期から BSC (ベストサポーターケア) 期の緩和医療の現状と課題が説明できる 2. エンド・オブ・ライフ期のがん患者が抱える「つらさ Distress」のアセスメントできる 3. 悪液質 (低栄養)、せん妄、腹水貯留等の身体的苦痛の緩和医療を考える 3. エンド・オブ・ライフ期の家族を系統的にとらえ、予期悲嘆を含むグリーフケアが説明できる 4. サイコオンコロジー (精神腫瘍学) から、「つらさ Distress」を学ぶ 4. がん医療での、スピリチュアルペインへの「実存的アプローチ」を「がん哲学外来」等のピアサポート活動の参加観察から考える 5. エンド・オブ・ライフ期の意思決定支援に関して、倫理的課題も含めた SDM(共同意思決定) や ACP (人生会議) について考える 						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1.2	エンド・オブ・ライフケア総論	<p>エンド・オブ・ライフケアを受ける患者が体験する全人的苦痛・苦悩、および家族の予期悲嘆とグリーフケアの理論・概念・モデル</p> <p>中範囲理論「Good Death」「Peaceful Death」の構成要素の検討と専門看護師の実践</p>			牟田理恵子	

	3.4	緩和医療 総論	緩和ケア総論： 医療の潮流のパラダイム変化 全人的苦痛と緩和ケア スピリチュアルケア スピリチュアルケアの本質、スピリ チュアルケアの役割、スピリチュア ルケアの要点	梶山徹
	5	緩和医療 (1)	がん悪液質 がん悪液質のステージ分類 がん悪 液質の臨床所見 がん悪液質に対し ては、集学的治療	天野晃滋
	6	緩和医療 (2) がん哲学	疼痛マネジメント：薬物使用と麻酔 科ペインクリニックの実際、ロゴセ ラピー「がん哲学外来」の目指すもの 「生と死を考える」一人は苦境の中 を如何に生きる事が出来るか、医療 者はどのような支援が出来るのかー	山田圭輔
	7.8	緩和医療 (3)	せん妄、うつ病、自殺	清水研
		Distress 精神腫瘍 学	つらさ Distress 総論 がん患者のつらさの理解：外傷後成 長	
	9.10	Distress 精神腫瘍 学	家族の危機（死別）を理解する 死別後のグリーフ支援	清水研
			医療スタッフを支える Mast から Want へ	
	11	緩和医療 (4)	「腹水貯留」の症状マネジメント 腹水貯留のステージ分類 臨床所見 と集学的治療 「終末期鎮静療法」と SDM 鎮静療法における SDM の重要性	石木寛人
13. 14	がん哲学 の思考	【がんサバイバーへの哲学的・対話 的アプローチ】 「社会科学・哲学やクリティカルシ ンキングを知り、がん患者・経験者の 良き生をサポートする	菊地建至	

			*「哲学の思考」とは何か：様々な価値観の問い直し、答えのない問いに耐える力をつける	
	15	がん患者の尊厳 ACP	緩和ケアにおける ACP(Advance Care Planning) の構成要素の検討と、真の「人生会議」とするための要件を検討する	北澤彰浩 (牟田理恵子)
評価方法	到達目標の 1～5 を踏まえて、討議での発言およびレポートを評価する。プレゼンテーション 50% 課題レポート 50%			
テキスト、参考書	参考文献及び資料は、随時提示または配布する。			
履修上の注意点	がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。			

科目名	がん医学特論	科目番号	3454	単位	2	時間	30	
教員名	牟田理恵子 信州大学医学部附属病院 医師 薬剤師	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	がん患者が抱える様々な問題に対し、包括的な支援を提供できるよう、がんの増殖・転移等に関する分子生物学、遺伝学、疫学、病態生理学、診断と治療に関する最新の知見を学ぶ。がんの基礎的な医学を学び、高度な看護を実践するための臨床看護判断力を養う。							
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1 がんの生物学的特性、診断方法、診断プロセスに関する基本的知識と最新の知見であるゲノム医療などについて理解する。 2 がんの疫学と治療に関する基本的知識、最新の知見について理解する。 3 がん患者への高度な看護を実践するために必要な、がんに関する病態生理と診断・治療、薬物をケアやケア技術につなげて理解する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1.2	総論	がんの生物学的特性の学びと看護				小泉知展 (牟田理恵子)	
			がん治療の基本を学ぶ。 がん薬物療法の基本的な考えと殺細胞性抗がん薬の特性を理解し、病態生理を踏まえつつ有害事象とその対策を学ぶ。					
	3	疫学1	本邦におけるがんの実情を学ぶ。				田仲百合子	
	4	疫学2	がんの疫学情報の重要性とがん登録の仕組みを学ぶ。				田仲百合子	
	5.6	がん薬物療法	病態生理との関連において、分子標的治療薬の特性、臨床的意義を理解し、有害事象とその対策を学ぶ。				神田慎太郎	
病態生理の理解の上に、免疫チェックポイント阻害剤の特性、臨床的意義を理解し、有害事象とその対策を病態生理と関連づけて学ぶ。								

	7	集学的治療	がんの集学的治療の基本を理解し、病態生理と関連づけて、その臨床的意義を学ぶ。	神田慎太郎
	8	がんゲノム医療	病態生理と関連づけて、がんゲノム医療の実際とその臨床的意義について学ぶ。	
	9 10	がん薬物療法	がん性疼痛緩和を中心としたがん関連薬剤 がん化学療法以外の、がんに関連する鎮痛剤、 悪液質治療薬、免疫抑制剤等を学ぶ。	内藤隆文
	11 12	放射線治療	がん病態生理の理解の上で、放射線治療の基本を学ぶ。 放射線治療の適応を理解し、有害事象をその対策を病態生理と関連づけて学ぶ。	小岩井慶一郎
	13 14	外科治療	がんに対する外科治療の基本を病態生理と関連づけて学ぶ。 病態生理の理解の上で、外科治療の実際とその臨床的意義を学ぶ。	伊藤研一
	15	まとめ	がんの生物学的特性の学びから臨床看護判断力をつける　がんの臨床看護判断とは？	牟田理恵子
評価方法	到達目標の 1～3 を踏まえて、最終レポートは<複雑な健康問題を持つ事例について、学修成果を踏まえ臨床推論/臨床判断力について考える>とし、それを評価する (100%)。			
テキスト、参考書	参考文献及び資料は、随時提示または配布する。			
履修上の注意点	がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。			

科目名	がん看護学演習 I	科目番号	3455	単位	2	時間	60	
教員名	牟田理恵子 熊谷理恵 時間講師	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>診断期から End-of-Life 期の患者・家族の種々の症状・苦痛・苦悩について、キュアの知識を用いて臨床判断する能力と、症状・苦痛・苦悩を緩和しケアする技術を身につけるために、基礎的な理論、概念を学び、判断・対処する能力、療養上の支援を行うための高度な臨床判断、実践能力を培う。</p> <p>がん患者や家族の状況を設定し、既存の研究からそれらを解決するためエビデンスを探索し、解釈・分析・検討しながら文献的考察を深める。その上で、臨床実践への応用可能性を考え、疾患や治療による生活への影響の視点から援助方法を考察する。</p> <p>授業方法は、講義、演習（プレゼンテーションやグループワーク）で構成する。</p>							
ディプロマポリシー（DP）との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力</p> <p>○C4 看護実践の課題探求に取り組む能力</p>							
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 がんの診断や治療を受ける患者および家族のもつ身体的、心理社会的、倫理的な苦痛・苦悩について、諸概念や文献を用いて検討し理解する。 2 上記の概念を用いて複雑で多様な苦痛症状をもつがん患者および家族をアセスメントし、療養生活における看護上の課題を明確にする。 3 複雑で多様な問題を抱えるがん患者や家族の療養生活上の課題を解決するための看護支援について、事例検討、ディスカッションを通して理解を深める。 							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1・2	様々な症状を呈しているがんサバイバーの QOL : 概念と構成要素および QOL の評価とアセスメント方法					時間講師 熊谷理恵	
		学習内容に関する論文および各自の経験事例を理論・概念で分析する。						
	3・4	がん患者の症状マネジメント : MSM (症状マネジメント) と IASM (症状マネジメント統合アプローチ)					時間講師 熊谷理恵	
学習内容に関する論文および各自の症状コントロール困難事例の症状について IASM を使って分析する。								

5・6	コミュニケーション技術の理解① Bad News の伝え方の場面での NURSE、SPIKES、SHARE	時間講師 熊谷理恵
	治療選択をする臨床事例を用いて、Bad News を伝えた際の支援方法について、論文と臨床事例を用いて支援方法を検討する。	
7・8	コミュニケーション技術の理解② 療養の場や緩和医療を選択する患者へのコミュニケーション技術：ACP や BSC とは	時間講師 熊谷理恵
	療養の場や緩和医療を選択する事例や ACP について検討している事例について、論文および臨床事例を用いて、意思決定支援方法について考察する。	
9・10	複雑な事象に関連したメディエーション： 患者・家族－医療者間のコンフリクトのアセスメントと調整	牟田理恵子 熊谷理恵
	各自のがん患者・家族とのコンフリクト場面を「解決志向型家族アセスメント／支援モデル」を使って分析する。	
11	ヘルスプロモーションの概念の理解① 健康の定義、健康に関する世界の動向、ヘルスプロモーションの定義と活動、看護とヘルスプロモーション	熊谷理恵
12	がん臨床試験の理解 臨床試験とは 臨床試験における看護師の位置づけと役割	熊谷理恵
13	がん看護専門看護師の役割と実践の理解 専門看護師の制度の目的、歴史的変遷、がんチーム医療におけるがん看護 CNS の役割および機能	時間講師 熊谷理恵
14・15	AYA 世代のがん患者の理解 AYA 世代のがんの特徴、発達課題上の問題、心身的苦痛や問題、家族間の問題などについて理解を深める。	時間講師 熊谷理恵
16・17	ヘルスプロモーションの概念の理解② 小中学生へのがん教育	時間講師 熊谷理恵

	18・19	がんサバイバーシップに基づく支援の理解 がんサバイバーシップの概念 学習内容に関する論文や各自の経験事例を用いて、 がんサバイバーシップに基づいてアセスメントし、 患者の理解を深め、看護支援方法を検討する。	時間講師 熊谷理恵
	20・21	がんリハビリテーションの理解 がんリハビリテーションの概要、疾患別のがんリハ ビリテーション	時間講師
	22・23	移植看護の理解 造血幹細胞移植の理解、移植前から移植後における 患者および家族への看護実践	時間講師
	24・25	遺伝看護の理解 がんと遺伝、遺伝子検査をめぐる医療の動向、遺伝 医療における患者・家族の看護ケア、がんゲノム医 療における患者・家族の看護ケア	時間講師
	26～28	がんと栄養の理解①（講義） がんと栄養の理解②（グループワーク） 低栄養状態の事例を用いて、疾患、治療による影響、 身体機能、認知機能、セルフケア能力、サポート体 制などについてアセスメントし、患者のセルフケア 能力を活かした看護支援方法を検討する。	時間講師 熊谷理恵
	29・30	学修のまとめ 診断期から End-of-Life 期の臨床事例において、こ れまでに学修した理論や概念、モデルを多角的に用 いて、解決困難であった事例や多様で複雑な問題を 抱える自身の臨床事例等について検討する。	牟田理恵子 熊谷理恵
評価方法	到達目標の1～3を踏まえて、目標達成度(20%)、演習での討議参加(20%)、 プレゼンテーション(60%)を評価する。		
テキスト、参考書	参考文献及び資料は、随時提示または配布する。		
履修上の注意点	がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。 授業の一部に討議を行うので、課題を持って参加する。		

科目名	がん看護学演習Ⅱ	科目番号	3456	単位	2	時間	60
教員名	牟田理恵子 熊谷理恵 時間講師	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	<p>治療期から End-of-Life 期の種々の身体症状、とりわけスキントラブルや衰弱に伴う症状マネジメントについて、キュアの知識を用いて臨床判断する能力と、症状、苦痛を緩和するための高度なケア技術を身につける。手術療法、薬物療法、放射線療法に伴う有害事象、およびがんの衰弱による症状の臨床判断力をつけ、スキンケア、マッサージ、アピアランスケアおよび症状緩和スキルを習得する。</p> <p>授業方法は、講義、技術演習（プレゼンテーションやグループワークも含む）で構成する。</p>						
ディプロマポリシー（DP）との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力</p> <p>○C4 看護実践の課題探求に取り組む能力</p>						
目標	<p>1 がん薬物療法、放射線療法、幹細胞移植におけるスキンケアやリンパ浮腫へのケアを理解し、技術を習得する。</p> <p>2 がん治療に伴うリハビリテーション、アピアランスケアの技術を身につける。</p> <p>3 End-of-Life 期に特徴的ながんの衰弱による症状のメカニズムを理解し、症状緩和やQOLの維持・向上を目指す看護支援スキルを身につける</p>						
授業計画・内容	回数	学習内容				担当教員	
	1	セルフマネジメント ・セルフマネジメント支援の構成要素				熊谷理恵	
	2	ストレスマネジメント ・ストレスコーピング ・ソーシャルサポート				時間講師	
	3・4	ストーマケアの概要 ・ストーマとは・排泄ケアの原点 ・ストーマ装具の特性				時間講師 熊谷理恵	
	5	セルフマネジメントにおける看護職の役割と責任				熊谷理恵	
	6	ストレスマネジメントにおける看護職の役割と責任				時間講師	
	7・8	技術演習 ストーマセルフケア指導と実際 ・セルフケア指導方法・ストーマの受容 ・実際のストーマ装具使用と問題点				時間講師 熊谷理恵	

	9・10	リンパ浮腫のメカニズムとリンパマッサージの実際 ・リンパ浮腫のメカニズム	時間講師 熊谷理恵
	11・12	技術演習 ・リンパマッサージの実際の手技 ・アロマの効果の効果測定	時間講師 熊谷理恵
	13・14	創傷をもつがん患者の理解 ・創傷治癒過程 ・外用薬の理解	時間講師 熊谷理恵
	15・16	創傷をもつがん患者の理解 ・がん性創傷の特徴・創傷の痛みについて ・出血・悪臭と感染・浸出液のコントロール	時間講師 熊谷理恵
	17・18	がん薬物療法による有害事象や療養生活のアセスメントと対処法 ・事例を用いて、がん薬物療法に伴う有害事象や患者の生活状況についてアセスメントし、有害事象を予防・軽減するケアや療養生活を支援する方法を検討する。	熊谷理恵
	19・20	周術期の看護 ・事例を用いて、手術療法による合併症や機能障害に伴う患者の生活状況についてアセスメントし、ケアや療養生活を支援する方法を検討する。	江頭有夏
	21・22	放射線治療中の有害事象と対処 ・有害事象の発生機序・予防と対策 ・放射線治療に伴う有害事象を抱える事例のアセスメントし、有害事象の予防や軽減および療養生活を支援する方法を検討する。	時間講師
	23・24	終末期の褥瘡ケア ・脆弱な皮膚への対応（GVHD・医療関連機器圧迫創傷） 技術演習 ・軟膏処置を含めたスキンケアの技術演習 事例検討 ・各自の経験の中でがん治療に伴うスキントラブルの事例を取り上げ、関連要因も踏まえたスキン状態のアセスメントを行い、これまで学習してきた技術を使ってスキンケアを計画立案する	時間講師 熊谷理恵

	25・26	<p>アピアランスケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いてアセスメント、看護支援を検討する ・ウィックの最新情報 	時間講師
	27	<p>患者に対する成人教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人の学び ・健康状態と学習 <p>がん看護に関する模擬講義</p>	熊谷理恵
	29・30	<p>高度実践看護師としての組織における役割発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライン/スタッフの原則における役割 ・看護管理者からみた専門看護師への期待 ・専門看護師自身が行う役割開発 ・看護マネジメントプロセスにおける役割発揮 	渋谷美香
評価方法	目標1～3を踏まえ、討議への参加状況(20%)、課題レポートの内容(60%)、プレゼンテーション(20%)より評価する。		
テキスト、参考書	参考文献及び資料は、随時提示または配布する。		
履修上の注意点	がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。 授業の一部に討議を行うので、課題を持って参加する。		

科目名	がん看護学演習Ⅲ	科目番号	3457	単位	2	時間	60	
教員名	牟田理恵子 熊谷理恵	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	<p>治療期から BSC(Best Supportive Care)期、および End-of-Life 期のがん患者が持つ様々な心身の苦痛や、家族が複雑性を帯びてくる状況に対して、的確にアセスメントするための視点や分析方法、記述方法を学び、包括的な支援を提供するための援助方法論について学ぶ。</p> <p>また、がん患者の在宅支援や全人的苦痛を緩和するためのシームレスな療養支援を提供するためのシステムや、支援方法について学ぶ。</p>							
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. BSC 期および End-of-Life 期の患者と家族の状況を設定し、既存の理論および概念を活用して、臨床実践への適用可能性を検討する 2. 長期の療養、とりわけ End-of-Life 期に緩和医療を受けながら生活するがん患者の症状等の緩和ケア方法を事例展開を通して検討する 3. がん治療での BSC 期の患者を理解するために必要な概念、チームアプローチ、倫理調整、調整力（コンフリクトマネジメント、ファシリテーション）、家族看護について包括的に検討する 							
授業計画・内容	回数	学習内容					担当	
	1. 2. 3. 4	<p>【がん看護理論、概念の臨床応用可能性の検討】①</p> <p>*理論を選ぶ</p> <p>「不確かさ理論」、「病みの軌跡理論」「マーガレットニューマン：拡張する意識としての健康」のいずれか1つを選ぶ</p> <p>*自分の事例もしくは教材事例を用いて、理論を活用して、分析し、考察する</p>					牟田理恵子 熊谷理恵	
	5. 6. 7. 8	<p>【がん看護理論、概念の臨床応用可能性の検討】②</p> <p>*概念分析</p> <p>“苦悩”または“生ききる”の概念分析（論文）を学修して事例検討を行う</p> <p>*自分の事例もしくは教材事例の分析に、上記概念を活用して、事例を読み解き、考察する</p>					牟田理恵子 熊谷理恵	
		<p>診断～治療期の緩和ケア：病状理解からの症状アセスメント：様々な緩和治療（緩和化学療法、緩和放射線療法、持続鎮静法）を理解する</p>					牟田理恵子 熊谷理恵	

9.10	事例分析	
11. 12	① I P W緩和ケア事例検討会に参加し、緩和的化学療法や緩和的放射線療法、持続鎮静の1事例を検討する。 ② 取り上げた事例について、緩和専門医から示唆を得る ③ I P W緩和ケア事例検討会のディスカッションで臨床応用可能性を深める	
	再発転移後－BSC(Best Supportive Care)期および End-of-Life 期の緩和ケア (1)：複雑な身体・心理・社会状況にある事例を、総合的に理解し、エビデンスに基づく看護支援を立案する	
13. 14. 15. 16	事例分析 ① I P W緩和ケア事例検討会に参加し、痛みの訴えと易怒性の高く混乱する1事例を、ケミカルコーピング、せん妄の視点で検討する。 ② 取り上げた事例について、がん専門薬剤師、精神腫瘍科医から示唆を得る ③ I P W緩和ケア事例検討会のディスカッションで臨床応用可能性を深める	牟田理恵子 熊谷理恵
	再発転移後－BSC(Best Supportive Care)期および End-of-Life 期の緩和ケア (2)：終末期の低栄養（悪液質）および腹水の苦痛緩和法を理解する	
17. 18. 19. 20	事例分析 ① I P W緩和ケア事例検討会に参加し、腹水の苦痛と低栄養で混乱する患者・家族の1事例を、悪液質対応と腹水穿刺の是非の見地から検討する。 ② 取り上げた事例について、緩和ケア医から示唆を得る ③ I P W緩和ケア事例検討会のディスカッションで臨床応用可能性を検討する	牟田理恵子 熊谷理恵
	End-of-Life 期を支える支援 (1)：倫理調整方法 End-of-Lif Care の意思決定支援の過程で生じる倫理的問題について検討する	
21. 22. 23. 24	事例分析 ① I P W緩和ケア事例検討会に参加し、認知症高齢者に対する積極的化学療法をめぐる1事例を、医療倫理調整の見地から検討する。 ② 取り上げた事例について、医療倫理学者から示唆を得る ③ I P W緩和ケア事例検討会のディスカッションで、CNSの倫理調整のやり方を検討する	牟田理恵子 熊谷理恵

	25.	End-of-Life 期を支える支援 (2) : コンフリクトマネジメント EOL-d (終末期の話し合い) の過程で生じる、患者・家族内、患者・家族と医療者間、医療者間のコンフリクトについて検討する	牟田理恵子 熊谷理恵
	26.	事例分析	
	27. 28	① 長野がん/家族研究会に参加し、システム間でコンフリクトが生じている 1 事例を、コンフリクトマネジメントの見地から検討する。 ② 長野がん/家族研究会のディスカッションで、CNS のコンフリクトマネジメントのやり方を検討する	
	29. 30	まとめ： 治療期から BSC(Best Supportive Care)期、End-of-Life 期の患者・家族の支援方法をまとめる	牟田理恵子
評価方法	到達目標の 1～3 を踏まえて、目標達成度 (50%)、レポート (50%) を評価する。		
テキスト、参考書	参考文献及び資料は、随時提示または配布する。		
履修上の注意点	がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。 この科目は、「IPW緩和ケア事例検討会」と「看護アドバンス研修」などと連動している。この研究会参加が単位となるので、注意のこと。		

科目名	がん看護学実習 I	科目番号	3458	単位	1	時間	45
教員名	牟田理恵子 花出正美 後藤志保 水野俊美	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	<p>高度がん治療専門病院で、組織横断的に活動する専門看護師およびがん看護外来や緩和ケア病棟での専門看護師への参加観察実習から、複雑で困難な状況、症状の苦痛・苦悩にある患者や家族へのケア実践において、問題や課題を構造的／システムの的に分析していく実践力、エビデンスを明示しつつ多職種協働での取り組みにしていくアプローチ法、必要な組織システム内調整や家族関係の調整、相談（コンサルテーション）する力、がん医療での複雑な問題に関する倫理調整力、を参加観察実習で学修し、専門看護師の6つの機能について理解し、自己の学修課題を明確にする。</p>						
ディプロマポリシー（DP）との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力</p>						
目標	<p>がん看護専門看護師の活動への参加観察実習を通して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がんや治療に伴う苦痛症状を抱えるがん患者・家族に対し、臨床判断に基づく高度で専門的な質の高い看護ケアを理解することができる。 2) 複雑な問題を抱えるがん患者・家族の状況を構造的／システムの的に分析し、倫理的課題も含めた多様な課題に対し、背景や要因、文脈から解決課題を明確にし、解決の方向を見出すプロセスが学修できる。 3) 複雑な問題を抱えるがん患者・家族へ必要なケアが提供されるために、多職種連携チームの中での専門看護師の役割を認識し、組織横断的に他職種との相談（コンサルテーション）や調整を実践し評価していく、この一連のプロセスが学修できる。 						

<p>授業計画・内容</p>	<p><実習内容> 複数のがん看護専門看護師に同行して参加観察形式の実習をし、緩和ケアの高度実践、多職種協働における調整、倫理調整、相談（コンサルテーション）プロセスの、4機能について学修する。</p> <p><実習期間および実習場所> 1) 実習期間 : 1週間（5日） 2) 実習場所 : がん研究会 がん研有明病院</p> <p><実習指導者および指導体制> 実習指導者 : がん看護専門看護師3名（花出正美、後藤志保、水野俊美） 学内実習担当者 : 牟田理恵子、熊谷理恵</p> <p><実習の準備、計画ならびに記録レポート> <準備学習、計画> 既習の講義や演習で学んだ内容を十分理解しておく。実習計画書を自ら作成し、実習日初日にかん看護専門看護師や部署の責任者等へ渡すため、十分な準備をする。</p> <p><記録、レポート> 記録：実習に使用する記録用紙（日々の記録）は実習目標を到達するためのスタイルを自ら考え、作成したものを準備する。 レポート：参加観察をした、緩和ケアの高度実践、多職種協働における調整、倫理調整、相談（コンサルテーション）プロセスの1つを選び、諸理論に基づいて論述する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>3つの実習目標の到達度で評価する。実習記録（50%）、レポート（50%）。</p>
<p>テキスト、参考書</p>	<p>参考文献及び資料は、随時提示または配布する。</p>
<p>履修上の注意点</p>	<p>がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p>

科目名	がん看護学実習Ⅱ	科目番号	3459	単位	4	時間	180
教員名	牟田理恵子 熊谷理恵	科目種別	専門	開講年次		第2学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>がん看護専門看護師に求められる高度ながん看護実践について学ぶために、複雑で対応の難しい緩和ケアや家族調整、倫理調整を必要とするがん患者を複数人受け持ち、最新のエビデンスや諸理論に基づき、直接的ケアを実践する。</p> <p>具体的には、初期治療を受ける患者および進行した／再発したがん患者を対象に、がん専門医や専門看護師のスーパーバイズのもと、疾患の診断や治療を理解し、がん患者のアセスメントに必要な身体管理方法や有害事象、がんや病状進行に由来する苦痛や、治療（化学療法、放射線治療、外科治療）に伴う症状のアセスメント能力など、高度な臨床判断能力を修得する。</p> <p>また、治療（がん化学療法、放射線治療、外科治療）過程において、有害事象の予防・早期発見・早期対処を含む心身の苦痛に対応しながら最善の治療と療養を継続できるよう、患者・家族のニーズに対応する看護実践能力を身につける。</p>						
ディプロマポリシー（DP）との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力</p> <p>○C2 専門性を基盤として多職種と協働し、調整する能力</p>						
目 標	<p>1) がん専門医の指導のもと、初期治療（がん化学療法、放射線治療、外科治療）および進行した／再発したがん患者の身体状況を診察技術、画像読解技術などを用いてアセスメントできる。</p> <p>2) がん専門医や専門看護師の指導のもと、治療を受ける患者の疾患や治療に伴う症状マネジメント、症状緩和に関連した包括的なアセスメントができる。</p> <p>3) 複雑で対応が難しく症状緩和ケアを必要としている患者を、包括的視点でアセスメントできる。また家族システムのアセスメントをして、患者や家族の療養過程における問題を抽出し、諸理論や専門的知識に基づき、解決へ向けて直接的看護ケアを計画する。さらに計画に基づき、実施し、専門看護師と共に評価できる。</p> <p>4) 複雑で対応が難しく緩和ケアを必要としている患者および家族の問題解決を図るために、組織へのアプローチが必要な場合は、指導者である専門看護師に相談しながら実践できる。また社会生活や在宅生活においてセルフマネジメントが実践できるよう、諸理論をふまえながらケアプランが立案できる。</p>						

授業計画・内容	<p><実習内容></p> <p>本実習において、学生は2～3事例以上の患者を受け持つ。臨床で活動するがん看護専門看護師を実習指導者とし、がん専門医も含めた指導者の指導を受けながら実施する。また実習の全期間において、実習担当教員に定期的に進捗状況を報告し、実習目標の達成状況を確認し合いながら進める。</p> <p><実習方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 : 週5日 4～6週 2. 実習場所 : 信州大学医学部附属病院 3. 実習指導者 : 唐澤咲子 (がん看護専門看護師)、牟田理恵子、熊谷理恵 4. 実習手順 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者へ医療を実践しているがん専門医はもちろんのこと、その他の職種の医療者と情報交換および連携を積極的にとり、実習を進める。 2) 日々の実習内容は、記録にまとめ、担当教員や臨床指導者の助言を得る。 3) 実習期間中には、自身が立案した看護計画を実習病棟のスタッフと共有するためのカンファレンスと評価のためのカンファレンスを行えるよう調整し、教員および臨床指導者同席のもとでカンファレンスを実施する。 4) 必要とされる役割に対して、用いる技術や目標を明確にし、実施計画を立案する。 5) 実施においては、目標と照らし合わせながら評価修正を行う。 <p><準備学習、計画></p> <p>既習の講義や演習で学んだ内容を十分理解しておく。実習前に行うオリエンテーションを受け、実習計画書を自ら作成する。実習計画書には、自らの実習目標をこれまでの臨床経験等をふまえて設定し、記述する。また、目標を到達するためのスケジュールも自ら立案する。実習計画書は事前に教員の指導を受け、実習日初日にごん専門医 (指導医) や臨床指導者 (がん看護専門看護師) および部署の責任者へ渡すため、十分な準備をする。</p> <p><記録用紙></p> <p>記録: 実習に使用する記録用紙は実習目標を到達するためのスタイルを自ら考え、作成したものを準備する。</p>
---------	---

評価方法	<p>実習目標 1～4 は実習記録に記載される内容である。評価は記録物内容で、①治療（がん化学療法、放射線治療、外科治療）を受ける患者のアセスメントを行うことができる。②治療（がん化学療法、放射線治療、外科治療）を受ける患者の症状マネジメントとケア計画を立案することができる。③在宅でのセルフマネジメントに関するケアプランを立案し、その効果を評価することができる。④受け持ち患者への臨床判断を内省し、より専門性の高い実践能力を修得する上で必要な自己の課題を明確にできる、で評価する（70%）。さらにカンファレンスの参加とプレゼンテーション(30%)である。</p> <p>学びのフィードバックは、日々の記録指導やカンファレンス、学内での実習成果発表会等で行う。</p>
テキスト、参考書	<p>参考文献及び資料は、随時提示または配布する。また、必要な資料は適宜各自で準備する。</p>
履修上の注意点	<p>がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p>

科目名	がん看護学実習Ⅲ	科目番号	3460	単位	3	時間	135
教員名	牟田理恵子 熊谷理恵	科目種別	専門	開講年次		第2学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	がん看護専門看護師の指導のもと、特定の看護現象に関する課題や、臨床における看護専門看護師の実際の活動場面から、看護専門看護師の機能を学び、その役割（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）を理解し、高度実践を行うための能力を修得する。がん臨床での状況をアセスメントし、その役割機能を発揮するための計画、実施、評価を行うことで、専門看護師の役割開発を考察できる。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力						
目 標	1) がん看護専門看護師の役割や高度看護実践の実際を理解し、がん臨床での効果的な活動方法について検討できる。 2) がん看護の質の向上のために、がん看護専門看護師が自部署、自施設、地域においてどのような活動を行っているかを理解し、その方略を検討できる。 3) がん看護専門看護師の役割開発と、その方略について探求できる。 4) 特定の看護現象に関して、課題やがん看護専門看護師に求められる役割をアセスメントできる。 5) 専門看護師の役割機能（コンサルテーション、調整、倫理調整、教育）のうち、いずれか2つ以上について、実施、評価することができる。						

<実習内容>

- 1) がん患者や家族に対する直接的ケアの実践活動を理解する。
 - ・がん看護専門看護師の事例に対するアセスメントや判断を理解し、直接的なケアを実施するまでの思考プロセスを理解する。
- 2) 看護者を含むケア提供者に対する相談活動（相談（コンサルテーション））を理解する。
 - ・がん看護領域における相談（コンサルテーション）の実際を理解する。
 - ・参加観察した事例を通して、相談（コンサルテーション）のタイプやコンサルティのタイプ分析などを検討する。
- 3) 患者や家族のケアに関わる多職種間の連携調整や組織内のケアシステムの調整活動について理解する。
 - ・がん看護専門看護師が行う多職種間との調整や、地域連携調整能力について事例を通して吟味する。
 - ・がん看護専門看護師が組織内におけるケアシステムについて課題を見出し、解決するための調整活動の事例を通して吟味する。
- 4) 看護職者に対する教育的機能を果たす教育活動について理解する。
 - ・がん看護専門看護師が関わっている様々な教育的活動やプログラムについて、開始するに至るまでのプロセスを理解し、その方略について理解する。
 - ・教育活動におけるがん看護専門看護師の役割を理解し、企画・準備・実施・評価のプロセスについて吟味する。
- 5) 臨床現場における倫理的問題について関係者での倫理調整活動を理解する。
 - ・がん患者や家族が抱える倫理的な問題を解決するために、臨床の中で専門看護師が行っている多職種、あるいは患者家族間の倫理調整について、事例を通して理解し、その役割を吟味する。本実習は、臨床で活動するがん看護専門看護師を実習指導者とし、指導者の指導を受けながら実施する。また、実習の全期間において、実習担当教員に定期的に進捗状況を報告し、実習目標の達成状況を確認し合いながら進める。

<実習方法>

1. 実習期間 : 週5日 3～4週
2. 実習場所 : 信州大学医学部附属病院
3. 実習指導者 : 百瀬華子（緩和ケア認定看護師）、牟田理恵子、熊谷理恵

<準備学習、計画>

既習の講義や演習で学んだ内容を十分理解しておく。実習前に行うオリエンテーションを受け、実習計画書を自ら作成する。実習計画書には、自らの実習目標をこれまでの臨床経験等をふまえて設定し、記述する。また、目標を到達するためのスケジュールも自ら立案する。実習計画書は事前に教員の指導を受け、実習日初日に臨床指導者（がん看護専門看護師）および部署の責任者へ渡すため、十分な準備をする。

授業計画・内容	<p><記録用紙></p> <p>記録：実習に使用する記録用紙（日々の記録）は実習目標を到達するためのスタイルを自ら考え、作成したものを準備する。</p> <p>実施した、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育の2つ以上について、諸理論に基づいて論述する。</p>
評価方法	<p>専門看護師の役割機能（コンサルテーション、調整、倫理調整、教育）のうちの2つは、<計画—実施—評価>のそれぞれの到達度で評価する(100%)。</p> <p>学びのフィードバックは、日々の記録指導やカンファレンス、学内での実習成果発表会等で行う。</p>
テキスト、参考書	<p>参考文献及び資料は、随時提示または配布する。また、必要な資料は適宜各自で準備する。</p>
履修上の注意点	<p>がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p>

科目名	がん看護学実習Ⅳ	科目番号	3461	単位	2	時間	90
教員名	牟田理恵子 熊谷理恵	科目種別	専門	開講年次		第2学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>がん診療連携拠点病院の退院支援部門において、複雑な問題を抱えるがん患者と家族への退院調整活動の実際と在宅療養支援、地域連携における専門看護師の役割について理解する。外来化学療法室でのがんサバイバーの在宅療養支援、退院支援センターでの退院調整と地域連携、訪問看護ステーションでの在宅ケアから、がん看護専門看護師に求められる役割をアセスメントし、その役割機能を発揮するための計画、実施、評価を行い、必要な能力を習得する。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 専門性を基盤として多職種と協働し、調整する能力</p>						
目 標	<p>1) 療養生活上における複雑で多様な問題を抱えるがん患者・家族に、問題解決のために必要な退院支援・調整を包括的にアセスメントし、エビデンスに基づいた退院支援計画を立案、実施、評価することができる。</p> <p>2) 多様な背景を持つがん患者・家族の療養生活に対するニーズを把握し、多職種との調整、チームアプローチを展開することができる。</p> <p>3) がん患者・家族の療養環境の変化に伴う倫理的課題において、倫理的・臨床的判断を踏まえて、問題解決方法を考察することができる。</p>						

授業計画・内容	<p><実習内容></p> <p>退院調整を担当している看護師や、訪問看護師もしくは訪問医の活動について参加観察実習を行い、その役割や役割遂行のための方略について理解を深め、がん患者や家族に対する地域包括支援においてがん看護専門看護師に求められる能力を探求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 退院支援センターでの退院調整と地域連携の実際を理解する。入退院に伴う施設やサービス提供者との調整に至るまでのプロセスを理解する。 2) 訪問看護の場면을参加観察し、在宅療養中の複雑な問題を抱えるがん患者と家族に提供されている支援の実際を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師の事例（直接ケア）に対するアセスメントや判断を理解し、直接的なケアを実施するまでの思考プロセスを理解する。 3) 訪問医に同行し（訪問診療の場面）、在宅療養中のがん患者に提供されている治療等の実際を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問医の事例に対する診断や治療選択に至る判断プロセスを理解する。 4) 参加観察した内容、看護専門看護師や教員からのスーパーバイズ等からがん看護専門看護師に求められる円滑な地域包括支援の提供のための能力について考察する。 <p><実習方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 ： 週5日 2～3週間 2. 実習場所 ： 諏訪赤十字病院 外来化学療法室，退院支援センター，訪問看護ステーション 3. 実習指導者 ： 訪問看護ステーション看護管理者、牟田理恵子、熊谷理恵 <p><準備学習、計画></p> <p>既習の講義や演習で学んだ内容を十分理解しておく。実習前に行うオリエンテーションを受け、実習計画書を自ら作成する。実習計画書には、自らの実習目標をこれまでの臨床経験等をふまえて設定し、記述する。また、目標を到達するためのスケジュールも自ら立案する。実習計画書は事前に教員の指導を受け、実習日初日に臨床指導者（がん看護専門看護師）および部署の責任者へ渡すため、十分な準備をする。準備に当たっては教員から指導を受ける。</p> <p><記録用紙></p> <p>記録：実習に使用する記録用紙は実習目標を到達するためのスタイルを自ら考え、作成したものを準備する。</p> <p>参加観察した、複雑な問題を抱えるがん患者と家族の事例分析（ケースレポート）を通して、退院調整と地域連携の実際、訪問看護・訪問診療の実際を整理する。</p>
---------	---

評価方法	<p>実習目標 1 ～ 3 に関して、それぞれの到達度で評価する (50%)。ケースレポート (50%)</p> <p>学びのフィードバックは、日々の記録指導やカンファレンス、学内での実習成果発表会等で行う。</p>
テキスト、参考書	<p>参考文献及び資料は、随時提示または配布する。また、必要な資料は適宜各自で準備する。</p>
履修上の注意点	<p>がん看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p>

老年看護学分野

科目名	老年看護学特論 I	科目番号	3225	単位	2	時間	30	
教員名	渡辺みどり	選択必修別	必修	開講年次		第1学年		
				開講学期		前期		
科目概要	<p>老年学や加齢に関する諸理論についての知識を深めるとともに、老年看護実践に活用可能な理論や概念を教授する。さらに、老年看護学における倫理的思考の必要性とその意義を学び看護場面における倫理的判断能力を培い、高齢者の尊厳を重視したケアの質向上に貢献しうる看護基盤をつくる。</p> <p>高齢者看護の多様な実践の場における看護の諸課題、国内外の社会的動向、教育・研究の現状を分析的に検討し、老人看護専門看護師の果たすべき役割を探究する。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力</p> <p>○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p> <p>◎C3 倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力</p> <p>○C5 学術的な場において研究成果を公表する能力</p>							
目標	<p>1) 老年看護実践に必要な老年学ならびに加齢に関連した理論、概念を理解する。</p> <p>2) 高齢者の尊厳を守るうえでの倫理的課題と倫理的思考、判断能力を養う。</p> <p>3) 高齢者看護実践における諸課題と国内外の社会的動向、研究の動向を理解する。</p>							
	回数	授業内容					担当	
	1	<p>老化と加齢に関する諸理論、概念枠組みの理解（講義・討議）</p> <p>老化とは何か、老化の定義・老化学説にもとづく加齢と老化について生物学的アプローチから理解する。</p>					渡辺みどり	
	2	<p>老化と加齢に関する諸理論、概念枠組みの理解（講義・討議）</p> <p>老化に関連する環境因子（住環境・生活習慣・教育等）とその影響について理解する。</p>					渡辺みどり	
	3	<p>老化と加齢に関する諸理論、概念枠組みの理解（講義・討議）</p> <p>社会学的アプローチ：エリクソン、ハヴィーガーセントを中心に検討する。</p>					渡辺みどり	
	4	<p>加齢による心理的变化の理解。（講義）</p> <p>近代社会における高齢者観の変化、老生自覚など老年期にみられる心理的变化を理解する。</p>					渡辺みどり	
5	<p>加齢に伴う心理的变化を理解する。（講義・討議）</p> <p>高齢者のメンタルヘルスの重要性について文献を通して検討し理解する。</p>					渡辺みどり		

	6	加齢に伴う知的機能の変化を理解する。(講義・討議) 加齢に伴う知力の変化、認知機能の変化について探求する。	千葉真弓
	7	老年期の特性と健康生活への課題を理解する。(講義・討議) 高齢者人口の概況、老年期の定義、高齢者の生活の特徴について専門的知識を理解する。	渡辺みどり
	8	高齢者の生活と QOL に関する理論と概念について理解する。(講義・討議) 幸福感、満足感、生きがいに関する国内外の文献を用いて講義・討議する。	渡辺みどり
	9	質の高い看護実践のためのさまざまな概念 (ニード論, セルフケア理論, 役割理論, エンパワーメント, セルフエフィカシー, アドヒアランス, ストレングス) の適用を検討する。	渡辺みどり
	10	高齢者の終末期ケアの現状と課題 (講義・討議) 終末期における総合的評価と家族を含めた専門看護実践の現状と課題を検討する。	渡辺みどり
	11	高齢者の権利・尊厳の保障について理解する。	渡辺みどり
	12	老年看護における高齢者の意思決定と倫理的課題について国内外の文献を用いて検討する。	渡辺みどり
	13	老年看護実践における倫理的課題について事例並びに文献を用いて検討する。	渡辺みどり
	14- 15	老年看護実践に関する多様な課題に関する社会的動向について国内外の文献を通して概観し、分析的に検討する。(プレゼンテーション・討議)	渡辺みどり
評価方法	参加態度 30%、プレゼンテーション 40%、レポート 30%		
テキスト、参考書	山田律子, 井出訓編: 生活機能からみた老年看護過程 大内尉義, 秋山弘子編: 新老年学 第3版. Mary Fran Tracy, Eileen O' Grady 著, 中村美鈴監訳 (2020) 高度看護実践 統合的アプローチ 第2版. へるす出版.		
履修上の注意点	老人看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。		

科目名	老年看護学特論Ⅱ	科目番号	3226	単位	2	時間	30	
教員名	千葉真弓	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>高齢者の日常生活・社会生活・生活環境の評価方法を修得し、その評価を看護実践に反映する方法を検討する。そのうえで加齢変化と病的な老いとしての健康障害とその特徴の理解に基づいた高齢者の身体的・精神的・社会的側面の包括的アセスメント能力を養う。さらに健康障害を持つ高齢者の潜在的な力や主体性を引き出す看護について考察する。</p>							
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力</p>							
目 標	<p>1) 正常なあるいは病的な加齢変化から生じる健康障害とその特徴を理解する。 2) 正常あるいは病的な加齢変化から生じる健康障害を有する高齢者の包括的なアセスメントに必要な評価ツールについてその活用と活用の留意点を理解する。 3) 健康障害を持つ高齢者の生活環境アセスメント方法と生活環境上の調整に使用可能な社会・福祉制度を理解することができる。 4) 健康障害を持つ高齢者が主体的でその人らしく生きることを支える看護について理解することができる。</p>							
授業計画・内容	回数	学習内容					担 当	
	1	<p>高齢者の健康生活とアセスメント(講義・討議) 生活機能評価ツール(ICF, ADL, IADL, MMSE)利用の留意点、活用方法について学ぶ。</p>					千葉真弓	
	2	<p>高齢者の健康生活とアセスメント(講義・討議) 健康生活の包括的なアセスメントとアセスメントツール利用の留意点、活用方法について学ぶ。包括的アセスメントツールとしてMDS, CAPS, RAPSを扱う。</p>					千葉真弓	
	3	<p>高齢者の健康生活とアセスメント(講義・討議) 高齢者の精神・心理的側面の加齢変化の理解を深め、精神機能評価ツール(認知機能評価、GDS、モラールスケール、意欲)の活用と留意点を理解する。</p>					千葉真弓	
	4	<p>高齢者の健康生活とアセスメント(講義・討議) 高齢者を取り巻く社会的側面のアセスメントとして生活環境、社会環境の評価ツールとその活用方法について理解する。</p>					千葉真弓	

5	<p>高齢者の生活環境のアセスメント①（講義・討議）</p> <p>高齢者の生活環境を査定に必要な視点を理解する。高齢者の生活環境調整に使用可能な保健・福祉サービス、介護保険サービス、自治体の事業の概要を理解する。</p>	千葉真弓
6	<p>高齢者の生活環境のアセスメント②（講義・討議）</p> <p>在宅療養する事例を用いて、生活環境のアセスメントし、生活環境上の調整課題、解決のために使用可能なサービスについて検討する。</p>	千葉真弓
7	<p>健康障害を持つ高齢者の生活機能低下予防と看護①（講義・討議）</p> <p>摂食・嚥下障害の発生要因と嚥下障害のフィジカルアセスメントとケア方法をモデルや最新の文献を用いて検討する。</p>	千葉真弓
8	<p>健康障害を持つ高齢者の生活機能低下予防と看護②（講義・討議）</p> <p>低栄養と虚弱のアセスメントとその予防法について、科学的根拠と今日の臨床的知見から理解する。</p>	千葉真弓
9	<p>健康障害を持つ高齢者の生活機能低下予防と看護③（討議）</p> <p>排尿障害の発生要因と高齢者の生活機能のアセスメントと看護について事例、文献を用いて検討する。</p>	千葉真弓
10	<p>健康障害を持つ高齢者の生活機能低下予防と看護④（講義・討議）</p> <p>運動機能障害の発生要因とメカニズムを理解し、予防方法・生活機能のアセスメントと看護について事例、文献を用いて検討する。</p>	千葉真弓
11	<p>健康障害を持つ高齢者の生活機能低下予防と看護⑤（講義・討議）</p> <p>健康障害を持つ高齢者の行っているセルフケアとセルフケア能力をアセスメントし、高齢者の主体的な生活を支えるために必要な援助について事例・文献を用いて検討する。</p>	千葉真弓
12・13	<p>複雑な疾患を持つ入院高齢者の生活機能低下予防のアセスメント（プレゼンテーション・討議）</p> <p>複雑な疾患を有し、入院加療中の高齢者の事例をもとに包括的なアセスメントを行い、生活機能低下予防と生活環境調整に向けた課題を抽出し、高齢者が主体的にその人らしく生きることを支援する看護のあり方を考察する。</p>	千葉真弓

	<p>複雑な疾患を持ち長期に在宅療養している高齢者の生活機能低下予防のアセスメント（プレゼンテーション・討議）</p> <p>14・ 15 高齢過疎地域（里山）で在宅療養している高齢者とその家族の事例を用いて、包括的なアセスメントを行い、生活機能低下予防と生活環境の調整に必要な課題を明らかにする。高齢者が生きてきた里山という地域において、その人らしく生きることを支える看護について考察する。同時にそれを支援する老人看護専門看護師の役割を考察する。</p>	千葉真弓
評価方法	参加態度 30%、プレゼンテーション 40%、レポート 30%	
テキスト、参考書	<p>山田律子, 井出訓編：生活機能からみた老年看護過程</p> <p>鳥羽研二編（2008）：高齢者の生活機能の総合的評価，新興医学出版社.</p> <p>大内尉義, 秋山弘子編：新老年学 第3版.</p> <p>Mary Fran Tracy, Eileen O' Grady 著, 中村美鈴監訳（2020）高度看護実践 統合的アプローチ 第2版. へるす出版.</p> <p>その他：随時紹介する。</p>	
履修の注意点	老人看護専門看護師コースの者は必ず選択すること	

科目名	老年看護学特論Ⅲ	科目番号	3234	単位	2	時間	30	
教員名	渡辺みどり, 千葉真弓 安田貴恵子, 小野塚元子 高橋香代子 (CNS)	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>高齢者を取り巻く家族形態の機能の変化、高齢者介護機能の脆弱化、家族機能の多様化等の現状を理解し、高齢者の家族関係と家族機能のアセスメント、健康障害を持つ高齢者のセルフケア能力の向上と家族介護力を高める働きかけについて、看護実践能力を高める理論と実際を学ぶ。さらに、高齢者とその家族が抱える問題の解決に向けた相談・調整方法について理解を深め、より有効な高齢者と家族の支援方法を探求する。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力 ◎C2 多職種と協働し、調整する能力 ◎C3 倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力</p>							
目標	<p>1) 健康問題を持つ高齢者とその家族関係のアセスメントについて、理論と実際を理解する。 2) 健康障害のある高齢者と家族への高度専門看護実践方法を理解する。 3) 健康障害を持つ高齢者と家族が抱える問題解決に向けた相談・調整方法を探求する。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当	
	1	<p>家族ニーズの変化と高齢者ケア (講義・討議) 超高齢社会における家族機能の変化、現代社会における家族関係と価値観の変化、それに伴う高齢者介護への影響を理解する。</p>					渡辺みどり	
	2	<p>家族関係・機能のアセスメントとその理論 (講義・討議) 家族発達理論、家族システム論を適用して家族の発達課題・介護の分散化などの観点から高齢者介護事例を討議する。</p>					安田貴恵子	
	3	<p>家族から介護を受ける高齢者の心理 (講義・討議) 家族介護を受けつつ在宅療養する高齢者の人とのつながり、自分らしく生きる、生きている実感などの視点から検討する。</p>					小野塚元子	
4	<p>身体機能障害を持つ高齢者の自立を促す生活調整と家族支援 (講義・討議) ADL およびセルフケア機能の低下した高齢者の自立を促すための生活調整に必要なアセスメントと看護方法を検討する。</p>					千葉真弓		

5	<p>身体機能障害を持つ高齢者の入退院支援と家族の意思決定支援（講義・討議）</p> <p>身体機能障害を持つ高齢者の退院にむけ在宅療養のためのセルフケア能力を高める看護方法および家族介護に関わる意思決定支援方法を検討する。</p>	千葉真弓
6	<p>高齢者の人権擁護と家族介護（講義・討議）</p> <p>高齢者虐待防止法、成年後見制度などの諸制度を理解し、人権擁護、高齢者虐待の予防、ノーマライゼーションの観点から家族介護における諸問題を概観する。</p>	渡辺みどり
7	<p>認知症高齢者の日常生活援助と倫理（講義・討議）</p> <p>認知症高齢者の日常生活援助における意向の尊重と個別的な生活の継続の必要性について Everyday Ethics の視点からを検討する。</p>	渡辺みどり
8	<p>家庭内虐待の要因と家族への看護（講義・討議）</p> <p>家庭内虐待の要因の理解を深め、家庭内虐待の家族関係、性差、虐待の性質による個別対応方法や調整課題を討議する。</p>	渡辺みどり
9	<p>要介護高齢者・認知症高齢者介護の特徴と課題（講義・討議）</p> <p>日本の高齢者と家族介護の現状と特徴を諸外国との比較により明らかにする。介護に与える続柄、家族関係の影響を国際的な見地から考察する。</p>	渡辺みどり
10	<p>家族介護者の QOL とストレスマネジメント（プレゼンテーション・討議）</p> <p>家族介護者の介護負担、ストレスに関する概念に基づき、家族介護者のストレスマネジメント、QOL 向上の方法を検討する。</p>	千葉真弓
11	<p>高齢者世帯への支援看護（プレゼンテーション・討議）</p> <p>高齢者世帯の増加により、高齢者のみの世帯、一人暮らし高齢者の増加という社会的現状を踏まえ、高齢者世帯の介護支援方法を検討する。</p>	小野塚元子
12	<p>在宅における要介護高齢者の家族の意思決定を支える看護（講義・討議）</p> <p>要介護高齢者を長期に介護する家族の介護量引き下げ、サービス利用に関する意思決定過程を支える看護を検討する。</p>	千葉真弓

	13	認知症高齢者・家族の尊厳とエンド・オブ・ライフケア（講義・討議） 認知症高齢者の尊厳あるエンド・オブ・ライフケアのありかたについて講義する。認知症高齢者の家族介護者が直面する問題を明らかにし、家族支援方法を検討する。	渡辺みどり
	14	認知症高齢者と家族の関係調整に関わる老人看護専門看護師の役割（プレゼンテーション・討議） 認知症高齢者の家族介護者が直面する問題を取り上げ、援助の方法とそれに関わる老人看護専門看護師の役割を考察する。	渡辺みどり 高橋香代子
	15	入院・入所高齢者と家族の関係調整に介入する老人看護専門看護師の役割（プレゼンテーション・討議） 入院・入所から在宅に移行するよう介護高齢者の家族看護の調整課題を明らかにし、老人看護専門看護師の役割を考察する。	渡辺みどり 高橋香代子
評価方法	参加態度 30%、レポート 70%		
テキスト、参考書	Mary Fran Tracy, Eileen O' Grady 著，中村美鈴監訳（2020）高度看護実践 統合的アプローチ 第2版. へるす出版. 日本臨床倫理学会編，箕岡真子著（2017）：臨床倫理入門，へるす出版 箕岡真子，稲葉一人著（2019）高齢者ケアにおける介護倫理，医歯薬出版. 箕岡真子，藤島一郎，稲葉一人（2017）：摂食嚥下障害の倫理，ワールドプランニング		
履修上の注意点	老人看護専門看護師コースの者は必ず選択すること		

科目名	老年医学特論	科目番号	3236	単位	2	時間	30	
教員名	堀内博志 渡辺みどり 千葉真弓 細田江美 曾根千賀子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
	開講学期			前学期				
科目概要	高齢者の非定型的で複雑な徴候・症状を呈する病態像を理解するために、加齢に伴う身体的・生理的変化の知識と理解を基盤としつつ、高齢者に特異的な症状や疾患の診断・検査・治療方法を習得する。これらの知識を活用して、複合的な健康障害を持つ高齢者のアセスメントおよび看護実践への適用方法を検討する。							
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C4 看護実践の課題探求に取り組む能力							
目標	1) 加齢による身体的および生理学的特徴を理解する。 2) 高齢者の特異的な疾患の症状・徴候、診断と治療を理解する。 3) 1) 2) の知識活用し、複合的な健康問題をもつ高齢者を対象として臨床的な判断能力を養う。							
授業計画・内容	回数	授業内容					担当	
	1	高齢者の身体的・生理的・精神的特徴					渡辺みどり	
	2	加齢に伴う生理的変化① 循環器系・呼吸器系					三浦大志	
	3	加齢に伴う生理的変化② 脳神経系・消化器系・腎・造血器系・代謝系					千葉真弓	
	4	加齢に伴う生理的変化③ 骨・運動機能系					堀内博志	
	5	老年看護において留意すべき疾患の特徴 老年病					千葉真弓	
	6	老年看護において留意すべき徴候① 頭痛・意識障害・しびれ・めまい					細田江美	
	7	老年看護において留意すべき徴候② 脱水・低栄養・嚥下障害・呼吸困難					曾根千賀子	
	8	老年看護において留意すべき徴候③ 骨折					堀内博志	
	9	高齢者の脳血管疾患の病態と特徴 診断・検査・治療					細田江美	
	10	高齢者の神経系疾患の病態と特徴 診断・検査・治療					細田江美	
	11	高齢者の循環器疾患・呼吸器疾患の病態と特徴 診断・検査・治療					三浦大志	
	12	高齢者の消化器系疾患の病態と特徴 診断・検査・治療					曾根千賀子	
	13	高齢者の筋・骨格系疾患の病態と特徴 診断・検査・治療					堀内博志	
14-15	複合的な疾患を持つ高齢者の生活機能低下予防、機能維持・向上のための看護とそのアセスメント					千葉真弓		
評価方法	参加態度 50%、プレゼンテーション 30%、レポート 20%							

テキスト、参考書	<p>大内尉義, 秋山弘子編：新老年学 第3版.</p> <p>Mary Fran Tracy, Eileen O' Grady 著, 中村美鈴監訳 (2020) 高度看護実践 統合的アプローチ 第2版. へるす出版.</p> <p>山田律子, 井出訓編：生活機能からみた老年看護過程</p>
履修上の注意点	<p>老人看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p>

科目名	老年看護学演習Ⅰ・A	科目番号	3227	単位	2	時間	60	
教員名	渡辺みどり 安田貴恵子 柄澤邦江 小野塚元子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	日本の高齢者保健医療福祉政策や制度を、国際的動向を踏まえて把握し、高齢者の健康生活支援における政策的課題とソーシャルサポートの現状・課題を明らかにする。また、介護保険制度に伴う人材育成の現状と課題を把握し、医療専門家としての看護の専門性、役割、機能の拡大について探求する。さらに老人看護専門看護師として求められる実践と、多職種に対する教育・相談・調整役割と機能並びに多職種協働の在り方とその方法を探求する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C2 多職種と協働し、調整する能力 ○C5 学術的な場において研究成果を公表する能力							
目 標	1) 高齢者医療保健福祉制度と政策の課題を国際的な視点から明らかにする。 2) 保健医療福祉制度や政策における看護の専門性の位置づけを理解し、看護の機能向上と役割拡大に向けた課題を明らかにする。 3) 高齢者の医療保険福祉制度や政策の現状から明らかになった課題に対し、老人看護専門看護師としての実践、教育・相談・調整役割・機能ならびに多職種協働のあり方と方法を探求する。							
授業計画・内容	回数	授業内容					担 当	
	1-2	高齢者の健康生活の維持向上に関連した諸問題の理解（プレゼンテーション・討議） 1) 保健福祉制度および政策の観点から、高齢者の健康生活に関連した諸課題を整理し理解する。 2) 健康生活の維持向上の支援に必要な制度や政策を保険事業の観点から検討する。					安田貴恵子	
	3-6	日本の保健医療福祉制度の歴史（プレゼンテーション・討議） 1) 老人福祉法の制定とその変遷、併せてその時々々の社会の動向と暮らしを概観する。 2) 老人保健法の変遷と医療の確保に関する法律への改正と高齢者医療の現状を把握する。					安田貴恵子	
	7-10	諸外国との比較による日本の保健医療福祉制度の特徴（プレゼンテーション・討議） 1) 文献・その他資料より我が国と諸外国（韓国・スウェーデン・ドイツなど）との保健医療福祉制度の違いを検討し、日本における保健医療福祉制度の課題を探求する。 2) 日本と韓国の認知症家族介護者の介護実態と利用しているサービス（フォーマル・インフォーマルサービス）について検討し、日本の保健医療福祉制度の特徴を検討する。					安田貴恵子 柄澤邦江	

	11-15	<p>介護保険制度の理解（フィールドワーク・プレゼンテーション・討議）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険制度制定の背景を理解する。 2) 介護保険制度改正の背景を理解する。 3) 地域包括支援センターでのフィールドワークを通して、改正後の介護保険サービスの現状と課題を明確にする。 4) 介護予防における基幹包括支援センターの役割を理解する。 	小野塚元子
	16-21	<p>高齢者の人権擁護の制度、人権擁護活動と看護の役割（フィールドワーク・プレゼンテーション・討議）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の虐待と人権擁護制度を理解する。 2) 地域包括支援センターにおける虐待防止システムの構築の実際と活動内容をフィールドワークにより理解する。 3) 虐待防止と人権擁護における地域包括支援センターの実際の役割を提供された事例をもとに検討する。 	柄澤邦江
	22-25	<p>ケアマネジメント過程における看護のモニタリングと評価 専門看護師としての教育・相談・調整役割の理解（プレゼンテーション・討議）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護認定から個別ケアプラン作成までを事例をもとに検討する。 2) ケアマネジメントとモニタリング、その評価における看護師の教育・相談・調整役と多職種連携について検討する。 	小野塚元子
	26-27	<p>看護職の人材育成の課題と展望（プレゼンテーション・討議）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職員就業者数の推移と育成方法を理解する。 2) 介護要員の育成ならびに社会福祉職の専門性と教育・研修体系を理解し、看護職に求められる役割と教育体制の課題を明らかにする。 	安田貴恵子
	28-30	<p>老人看護専門看護師の役割機能の拡大（プレゼンテーション・討議）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の健康生活支援に求められる老人看護専門看護師としての機能と役割を理解する。 2) 高齢者の健康寿命延伸のための保健事業における老人看護専門看護師の役割と機能の拡大について検討する。 3) 高齢者の医療福祉現場における高度実践看護師としての役割と機能を検討する。 	小野塚元子 渡辺みどり
評価方法	プレゼンテーション 30%，ゼミの参加態度 20%，事例レポート 30%		

テキスト、参考書	山田律子，井出訓編：生活機能からみた老年看護過程、医学書院 厚生統計協会：国民衛生の動向，厚生統計協会：国民福祉の動向 内閣府：高齢社会白書，福祉ニュース 高齢者福祉編 ニホンミック. その他 随時紹介する。
履修上の注意点	老人看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。

科目名	老年看護学演習 I・B	科目番号	3231	単位	2	時間	60	
教員名	千葉真弓 細田江美	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	<p>認知症高齢者に対する認知機能と生活行動の評価を含めた看護援助についての知識を深め、個々の認知症高齢者がよりよく生活できるための生活行動、生活環境を整えるための看護援助方法を修得する。加えて、認知症高齢者の尊厳が守られるように家族関係、ケア提供者との関係を調整する方法を修得し、対応困難な認知症高齢者のケア相談とその解決策を検討する。さらに、看護職および看護職と協働する多職種を対象とした教育方法を修得する。これらの一連の活動に関連する研究の動向を踏まえて、専門看護師に求められる役割を考察する。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M1 看護の質向上に係る研究課題を設定する能力 ◎M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ◎C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力</p>							
目 標	<p>1) 認知症高齢者とその家族の生活環境調整、生活活動・家族関係調整上の実践方法を模擬できる。(実践) 2) 認知症高齢者とその家族の生活環境調整、家族関係調整上の実践・相談・教育方法を理解することができる。(調整・相談・教育) 3) 認知症高齢者とその家族、ケア提供者が直面する倫理的課題が生じる原因・要因や背景とその関係を把握したうえで、倫理的課題の解決の方向性について思考することができる。(倫理) 4) 認知症高齢者ケアの質向上に貢献する研究の現状を理解することができる。(研究)</p>							
授業計画・内容	回数	学習内容					担 当	
	1	認知症高齢者に関わる社会的背景と歴史的変遷 (講義と討議)					細田江美	
	2	認知症高齢者のアセスメント視点 パーソンセンタードケアの考え方 (講義と討議)					細田江美	
	3-4	認知症高齢者の生活環境のアセスメントとその調整方法 (グループホームの視聴覚教材と討議)					細田江美	
	5-6	認知症の病態と治療 (講義)					細田江美	
	7-8	認知症高齢者のアセスメント (学生のプレゼンと討議) 事例を用いて総合的アセスメント行う					細田江美	
	9-10	認知症高齢者の特性を踏まえたコミュニケーション ① DVDを用いて討議 ② ロールプレイを用いて模擬する					細田江美	
	11	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際 (講義・討議) ① 睡眠・覚醒リズム、せん妄への対応					千葉真弓	

	12	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議） ② 健康状態の変化とその兆候への対応	千葉真弓
	13	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議） ③ 摂食・嚥下障害への対応	千葉真弓
	14	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議） ④ 薬剤による影響のモニタリングと対応	細田江美 吉田由美子
	15	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議） ⑤ 生活場面における感情・情動への対応	細田江美
	16	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議） ⑥ 生活史に基づくその人のありよう、生き方の探究	細田江美
	17	認知症の症状に応じたケア（講義とロールプレイ） BPSDの予防・対応	細田江美
	18-24	認知症高齢者の総合的アセスメントに基づく生活行動・環境・家族関係の調整課題の検討（フィールドワーク・プレゼンと討議） 老人保健施設に出向き、記録物や実際の関わりの中で認知症高齢者の生活行動・生活環境・家族関係などを把握し、総合的なアセスメントを行う。 アセスメントに基づき、生活行動・生活環境・家族関係における看護課題を抽出し、ケアの方向性を検討する。	細田江美
	25-28	認知症高齢者とその家族が遭遇する倫理的課題 以下の①～④それぞれについて学生が書籍・文献を用いてプレゼンし、老人看護専門看護師として果たすべき役割について討議する。 ① 認知症高齢者の意思能力と自己決定支援（「認知症高齢者の倫理」を用いる） ② 日常生活援助における倫理（Everyday Issues Affecting Residents with Dementiaを用いる） ③ 身体拘束・虐待予防 ④ 認知症高齢者の尊厳と終末期ケア（文献を用いる）	千葉真弓
	29-30	認知症高齢者とその家族へのケアの研究の動向と老人看護専門看護師の役割 近年の認知症高齢者とその家族への研究動向を文献検索しその動向についてプレゼンし、老人看護専門看護師に求められる研究課題を討議する。	千葉真弓

評価方法	プレゼンテーション 30%, ゼミの参加態度 30%, 事例レポート 40%
テキスト、参考書	<p>中島健二, 天野直二他編 (2020) : 認知症ハンドブック 第2版, 医学書院, 東京.</p> <p>日本認知症学会 (2012) : 認知症テキストブック, 中外医学社, 東京.</p> <p>トム・キッドウッド著/高橋誠一訳 (2017) : 認知症のパーソンセンタードケア. 筒井書房, 東京.</p> <p>鈴木みずえ編 (2013) : 急性期病院で治療を受ける認知症高齢者のケア, 日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>箕岡真子著 (2011) : 認知症ケアの倫理, ワールドプランニング社, 東京.</p> <p>Bethel Ann Powers(2006):Nursing Home Ethics Everyday Issues Affecting Residents with Dementia, Springer Publishing Company. New York.</p> <p>Murna Down(2014):Excellence in Dementia Care, Open University Press, Maidenhead, England.</p> <p>その他 : 文献を用い、随時紹介する。</p>
履修上の注意点	老人看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。

科目名	老年看護学演習 I・C	科目番号	3232	単位	2	時間	60	
教員名	渡辺みどり 小野塚元子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	<p>在宅で生活している高齢者とその家族を対象として、高齢者の生活機能低下予防、複雑な健康障害への対応方法およびそれらに起因して生じる生活上の課題に対する高度な看護実践が提供できる知識・技術を修得する。複雑な健康問題を持つ高齢者とその家族の抱える課題の解決に必要な専門看護師の相談、調整、教育能力を取得する。</p> <p>在宅療養している高齢者とその家族に関する倫理的課題とその解決方法を検討する。在宅療養している高齢者とその家族の生活の継続性と生活の質を支える老人看護専門看護師の役割について既存研究を踏まえて探求する。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p> <p>○M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力</p> <p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力</p> <p>○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力</p>							
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 複雑な健康障害を持ち在宅で生活している高齢者とその家族を対象とし、医学的根拠に基づいた健康問題の解決、および生活機能低下予防に向けた高度な看護実践を計画・立案し、模擬できる。(実践) 2) 在宅療養する高齢者とその家族の生活上の課題を解決に向け、高齢者と家族、他職種を対象とした調整・相談・教育課題とその実施方法を理解することができる。(教育・相談・調整) 3) 在宅療養している高齢者とその家族が直面する倫理的課題を理解し、その解決方法を分析的に思考することができる。(倫理) 4) 在宅療養している高齢者とその家族の生活の継続性と生活の質を支える老人看護専門看護師の役割について研究動向を活用しつつ理解することができる。(研究) 							
授業計画・内容	回数	授業内容					担 当	
	1-2	在宅療養をしている高齢者の人口動態的特徴とケアニーズ (講義・プレゼンテーション・討議) 在宅療養している高齢者の人口動態的特徴、介護レベル、生活上の課題、介護者との関係など統計資料と文献を用いて検討する。					渡辺みどり	
	3-4	高齢者と家族介護者の生活上の課題 (文献検討・プレゼンテーション・討議) 在宅療養する高齢者と家族介護者の抱える生活上の課題、介護上の問題、介護負担感、ストレス、介護者の役割意識、介護継続に関する資料・文献を用いて学生がプレゼンテーションし、高齢者に及ぼす影響について討議する。					渡辺みどり	

5-6	在宅療養する高齢者のアセスメントと看護方法①（講義・事例を用いた討議） 住環境のアセスメント視点と転倒・骨折予防について検討する。	小野塚元子
7-8	在宅療養する高齢者のアセスメントと看護方法②（講義・討議） （講義・事例を用いた討議） 慢性疾患を持ち生活行動に制約のある高齢者の事例を用いて高齢者の自立とセルフケア能力を高める方法を討議する。	渡辺みどり
9-10	在宅療養する高齢者のアセスメントと看護方法③（講義・プレゼンテーション・討議） 在宅高齢者の低栄養、褥瘡の発生状況とアセスメント視点を講義し、社会資源を活用した予防方法について学生によるプレゼンテーションと討議を行う。	渡辺みどり
11-13	在宅療養する高齢者のアセスメントと看護実践④（講義・討議・技術演習） 医療依存度の高い高齢者のアセスメントと看護実践について、講義・場面事例を用いて討議し、技術を演習する。 （酸素療法・持続的陽圧呼吸療法・成分栄養経管栄養法、中心栄養静脈）	小野塚元子
14-18	病院から在宅に移行する高齢者の支援【フィールドワーク①】 地域連携病棟から退院する高齢者と家族の事例をフィールドワークにより把握し、在宅療養と家族介護者の支援に必要な生活行動・生活環境上の課題を抽出する。その課題解決のために必要な家族への相談・指導・教育方法を検討する。	渡辺みどり
19-23	里山で在宅療養する高齢者のアセスメントと方法【フィールドワーク②】 高齢過疎地域（里山）の病院の併設する訪問看護ステーションにおいて高齢者のみの世帯で家族介護上の困難課題を抱えている事例をフィールドワーク（同行訪問）により把握する。在宅療養生活の継続・家族介護の支援課題、高齢者と家族介護者の関係の調整課題を抽出し、その解決に向けた支援方法を討議する。	渡辺みどり

	24-28	<p>高齢者の人権擁護とその調整【フィールドワーク③】</p> <p>地域包括支援センターにおいて、高齢者の人権擁護のために調整・介入が必要であった事例をケア提供者からの聞き取りにより把握する。事例の概要、経過から必要となった高齢者と家族の関係調整、他機関との調整課題・調整方法の実態を分析的に思考し、人権擁護のための専門看護師の役割を考察する。</p>	<p>渡辺みどり 小野塚元子</p>
	29-30	<p>高齢者の生活の継続性と生活の質を支える老人看護専門看護師の役割（プレゼンテーション・討議）</p> <p>ケアマネジメントとケアと生活の継続性および生活の質という視点から、専門看護師の教育・相談・調整役割と多職種連携について検討する。事例は、フィールドワーク①～③のいずれかの事例を用い、在宅における高齢者の生活の継続性と生活の質を支えるための看護実践、老人看護専門看護師の役割について、熟練訪問看護師の看護実践内容・方法とその思考・判断に関する研究論文を活用しつつ考察する。</p>	<p>渡辺みどり 小野塚元子</p>
評価方法	プレゼンテーション 30%， ゼミの参加態度 20%， レポート 30%		
テキスト、参考書	<p>山田律子, 井出訓編：生活機能からみた老年看護過程, 医学書院.</p> <p>金川克子, 野口美和子監修, 奥野茂代編：高齢者看護プラクティス 高齢者のための高度専門看護, 中央法規出版.</p> <p>Mary Fran Tracy, Eileen O' Grady 著, 中村美鈴監訳 (2020) 高度看護実践 統合的アプローチ 第2版. へるす出版.</p> <p>その他、テキスト、参考書は随時紹介する。</p>		
履修上の注意点	老人看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。		

科目名	老年看護学実習 I	科目番号	3237	単位	4	時間	180
教員名	千葉真弓 細田江美	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	<p>認知症高齢者の生活の質に影響する疾患、徴候についての医学的評価・判断および薬物療法や治療の管理に関する専門的知識を含めた講義・演習の学習成果を発展・統合させて、認知症を持ち入院している高齢者およびその家族に対して高度な看護実践を行う。加えて、認知症疾患センターおよび重度認知症デイケアに来院している高齢者とその家族の生活の質の維持・向上に必要な高度看護実践における相談役割、保健医療福祉の人々との協働・調整能力を養う。高齢者とその家族に関わる倫理的課題を理解し、課題解決に向けて調整する能力を養う。さらに、研究知見を活用して認知症高齢者とその家族に対する看護実践活動を洞察する能力を養う。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力</p>						
目標	<p>1) 認知症高齢者および家族を対象に、卓越した看護を計画立案・実施・評価できる。(実践)</p> <p>2) 認知症高齢者および家族に必要なケアが提供されるよう、保健医療福祉に関わる人々のコンサルテーション、コーディネーションの役割・機能を理解することができる。(相談、調整)</p> <p>3) 認知症高齢者への看護実践において、認知症高齢者および家族の尊厳を支えるために解決すべき倫理的課題を、背景・要因などとの関連から理解し、解決の方向を見出すことができる。(倫理)</p> <p>4) 認知症高齢者および家族のケアの質向上のため行った看護実践を、既存研究を活用し考察することができる。(研究)</p>						
授業計画・内容	<p>認知症老年看護における卓越した実践能力を修得するために、認知症疾患センターを有する総合病院において病棟、認知症疾患センターの外来、重度認知症デイケアにおいて、以下の内容・方法で臨地実習を行う。</p> <p>1) 入院中治療を受ける認知症高齢者への看護 認知症患者の入院の多い病棟（内科病棟又は地域包括支援病棟）において、認知症高齢者（行動障害や生活リズム障害をきたしている事例）を受け持ち、週5日2週間継続し、合計10日間臨地実習する。認知症高齢者の健康課題、生活の質向上に向けた調整課題を明らかにし、それらの解決に向けた看護実践を行う。 実習指導者、認知症専門外来の医師などから随時助言を得て、認知症高齢者と家族介護者・ケア専門職に対しておこなうべき調整・教育・相談役割とその実施方法を検討し、指導教員とのカンファレンスを踏まえて学びを深める。</p>						

授業計画・内容	<p>2) 認知症疾患センターを受診した軽度認知症高齢者への看護</p> <p>認知症疾患センター外来を受診した認知症高齢者（軽度認知症又は鑑別診断直後）を1例受け持ち、週1～2日間の頻度で計5日間臨地実習する。</p> <p>認知症鑑別診断直後の軽度認知症高齢者の健康上の課題、日常生活への影響、高齢者および家族への心理的影響等を査定し、認知症高齢者の生活の質の維持・向上のための調整課題を明らかにする。その課題の解決に向けて保健医療福祉の人々と協働すべき調整、相談活動を、実習指導者および教員から助言・指導を受けて実施する。</p> <p>3) 重度認知症高齢者への看護</p> <p>重度認知症デイケアに通院中の事例を1例受け持ち、週1～2日間の頻度で計5日間臨地実習する。</p> <p>重度認知症高齢者の認知症状よりもたらされる身体症状、生じやすい身体的なリスク、日常生活、家族や社会との関係への影響を査定し、認知症高齢者の意向や価値観を尊重した生活の継続を達成するために必要な調整課題を明らかにする。その課題の解決に向けて保健医療福祉の人々と協働するための調整、教育・相談活動を、実習指導者および教員から助言・指導を受けて実施する。</p> <p>1)～3)を通して「認知症高齢者と家族の尊厳を守る」という視点で課題であると感じた場面、又は尊厳を守るために行った実践場面を振り返り、教員とのディスカッションにより背景・要因などとの関連から倫理的課題とその解決の方向性を検討する。</p> <p>1)～3)の実践結果・評価に基づき、既存研究を活用して考察する。</p> <p>*詳細なスケジュール・方法・レポート課題は実習要項参照</p>
評価方法	実習計画書 20%、実習のレポート 60%、実習態度 20%
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時紹介する。
履修上の注意点	老人専門看護師コースの者は選択すること

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目番号	3238	単位	4	時間	180
教員名	渡辺みどり 小野塚元子	科目種別	専門	開講年次		第2学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>講義・演習で学んだ理論・知識・技術を適用・統合し、在宅における老年看護分野の実践能力の形成を図る。訪問看護ステーション等において、在宅療養している高齢者、病院から在宅への移行に伴う困難課題をもった高齢者に対して、家族関係や社会環境の影響等を考慮した看護援助ができる実践能力を修得する。これらの看護援助に際し、家族および他職種に対して行う教育・指導・調整能力を養う。加えて、在宅における老年看護実践で遭遇する倫理的問題の解決に向けた調整能力を養い、老年看護実践の質向上に向けた研究課題を探究する。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力</p>						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養している高齢者とその介護者が生活上の困難な課題を理解し、その解決に向け、卓越した看護を計画立案・実施・評価することができる。(実践) 2) 病院から在宅への移行に伴う高齢者に対する、家族関係、社会的環境と整えるための卓越した看護を計画立案・実施・評価することができる。(実践) 3) 高齢者の在宅生活の継続、生活の場の移行に伴う困難課題の解決に向けたコンサルテーション、コーディネーションの役割・機能を理解する。(相談、調整) 4) 在宅における高齢者の尊厳を支えるために解決すべき倫理的課題について、生じている背景・要因とその関係を理解し、解決の方向性を見出すことができる。(倫理) 5) 在宅における老年看護実践の質向上に貢献する研究課題を見出すことができる。(研究) 						
授業計画・内容	<p>実習内容 講義・演習で学んだ理論・知識・技術を適用・統合し、在宅における老年看護分野の実践能力の形成を図る目的で、訪問看護ステーションにおいて実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅で療養する高齢者への看護 訪問看護ステーションにおいて、在宅療養上の困難課題を抱えている高齢者を10日間以上受け持つ。在宅療養の継続を困難にしている課題を包括的にアセスメントし、困難課題の解決に向けて看護実践の立案・実践・評価を行う。困難課題の解決に必要な家族関係や社会環境を調整するために、家族や他職種に対して必要な教育・相談・調整役割を実践する。一連の実習は訪問看護ステーションに勤務する老人看護専門看護師・実習指導教員からの指導を受けつつ、学生が主体的に実践する。実施後のケアは、訪問看護ステーションスタッフからも評価を受ける。 						

<p>授業計画・内容</p>	<p>2) 病院から在宅に生活の場を移行した高齢者への看護</p> <p>訪問看護ステーションにおいて、病院から退院1週間以内の高齢者を10日間受け持つ。生活の場の移行に伴う高齢者の健康課題、生活上の課題、社会生活への影響等を包括的にアセスメントし、安定した在宅療養と高齢者の生活の質向上に向けた質の高い看護実践の立案・実践・評価を行う。その際、高齢者とその家族および多職種に対して教育・相談・調整役割を実践する。一連の実習は訪問看護ステーションに勤務する老人看護専門看護師・実習指導教員からの指導を受けつつ、学生が主体的に実践する。実施後のケアは、訪問看護ステーションスタッフからも評価を受ける。</p> <p>1) 2) の実践をとおして訪問看護で受け持った事例において、高齢者の尊厳を支えるために解決が必要な倫理的課題について、生じている背景・要因とその関係を把握したうえで、その課題の解決の方向性および解決に向けた取り組み策を検討する。</p> <p>1) 2) の実践をとおして自らが持った疑問・関心に基づき、既存研究を用いつつ在宅における老年看護の質向上に貢献する研究課題を検討する。</p> <p>実習期間 20日間以上 *詳細なスケジュール・方法・レポート課題は実習要項参照</p>
<p>評価方法</p>	<p>実習計画書 20%、実習のレポート 60%、実習態度 20%</p>
<p>テキスト、参考書</p>	<p>テキスト、参考書：随時紹介する。</p>
<p>履修上の注意点</p>	<p>老人専門看護師コースの者は選択すること</p>

科目名	老年看護学実習Ⅲ	科目番号	3239	単位	2	時間	90
教員名	渡辺みどり 千葉真弓	科目種別	専門	開講年次		第2学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>老年看護学実習Ⅰ・Ⅱを統合し老人看護専門看護師が実際に果たしている高齢者とその家族、看護スタッフ、他職種に対する調整・相談・教育役割の理解を深め、実践能力を養う。看護実践場面で生じる倫理的課題を理解し、その解決に向けた老人看護専門看護師として思考を構築する。看護実践と研究を統合する老人看護専門看護師としての基礎的能力を養う。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力</p>						
目 標	<p>1) 高齢者により質の高い看護が提供されることを目指して、老人看護専門看護師が行う病棟看護師、他職種を対象とした調整・相談役割の実際を理解することができる。(調整・相談)</p> <p>2) 病棟看護師が対応困難な場面、看護チームの抱える困難課題などから求められる教育課題を選定し、看護スタッフのニーズに沿った教育が実践できる。(教育)</p> <p>3) 老年看護実践の場における、高齢者とその家族、ケア提供者が直面する倫理的課題について、生じている背景・要因とその関係を理解したうえで、倫理的課題の解決の方向性を見出すことができる。(倫理)</p> <p>4) 老年看護学の既存研究の成果や知見を調整・相談・教育活動に適用し、その結果を考察することができる。(研究)</p>						
授業計画・内容	<p>老年看護学実習Ⅰ・Ⅱを統合し、老人看護専門看護師としての役割を総合的に果たせるよう以下の実習を行う。</p> <p>1) 老人看護専門看護師の活動の実際を理解し一部実践する (5～6日間) 老人専門看護師が、患者・家族、看護チーム、他職種に対して行っている相談・調整・教育活動に同行し、高度な看護実践を観察・分析する。臨床指導者の助言を得て、相談・調整活動の一部を実践する。 調整・相談活動の実践は、老人看護専門看護師および実習指導教員の助言を得つつ、学生が主体となって行う。実施した調整・相談活動を老人看護専門看護師、教員、看護チームメンバーを含めたカンファレンス等で、総合的に振り返る。</p> <p>2) 病棟看護スタッフのニーズに基づく教育計画・実施・評価 (4～5日間) 病棟看護チームの教育支援ニーズを把握し、教育を計画・実施・評価する。教育の計画・実施にあたっては、既存研究の知見を積極的に活用する。教育内容・方法は老人看護専門看護師・実習指導教員からの助言を得つつ学生が主体的に行う。 教育を受けた看護スタッフから評価を受け、それらを踏まえてカンファレンス等で総合的に振り返る。</p>						

	<p>1) 2) を振り返り、看護職が抱える困難、相談事例の中から、倫理的課題を一つ取り上げ、背景・要因とその関係と解決の方向性という視点から考察する。</p> <p>1) 2) において適用した既存研究の知見と活動の実施・結果・評価を踏まえて、老人看護専門看護師の活動と研究という視点で考察する。</p> <p>実習場所と実習期間 相澤病院 10日間以上</p> <p>*詳細なスケジュール・方法・レポート課題は実習要項参照</p>
評価方法	実習計画書 20%、実習のレポート 60%、実習態度 20%
テキスト、参考書	テキスト、参考書：随時紹介する。
履修上の注意点	老人専門看護師コースの者は選択すること

精神看護学分野

科目名	精神看護学特論 I	科目番号	3228	単位	2	時間	30	
教員名	東 修	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	精神看護学の成立と発展を理解するために、精神疾患と精神医療の歴史について、世界的な動きの中で日本がたどった歴史の変遷を学修する。関連して、日本の精神保健医療福祉に関する法制度の変遷について、諸外国の状況も視野に入れながら学修する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M4 高い倫理観をもって看護学研究に取り組む能力 ○M2 学際的な視野を持って俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ◎C3 倫理的課題への高い感受性をもち、調整する能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 精神疾患・メンタルヘルスなど、各概念と歴史の変遷について、時代や社会との関連から理解し、知識を修得する。 2. 日本における精神保健医療福祉に関する法制度とその変遷について、障害概念と時代精神、精神障害以外の障害との関連をみながら、同時に世界的な動きを視野にいれて学修し、知識を習得する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-2	精神医療の概念と歴史の変遷 (近代以前) ・近代以前の諸外国における社会思想と精神医療の変遷、精神病者とされる人々の処遇について学修する。 [事前課題] 古代ギリシャ・ローマ、中世ヨーロッパ、アラビア等における精神医療の歴史の変遷について、社会思想との関連性を含め、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。 (プレゼンテーション・学生-教員間での討議)					東 修	
	3-4	精神医療の概念と歴史の変遷 (近代以降) ・近代以降の諸外国における社会的背景と精神医療の変遷、精神疾患のある人々の処遇や治療について学修する。 [事前課題] ・18~19 世紀フランス、イングランド、19~20 世紀のドイツ等における精神医療の歴史の変遷について、社会的背景との関連性を含め、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。 (プレゼンテーション・学生-教員間での討議)					東 修	

5-6	<p>メンタルヘルスの概念と歴史の変遷（近代）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代日本におけるメンタルヘルス概念の起源と諸外国からの影響について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>「神経衰弱」や「神経症」の概念と欧米から導入された精神衛生との関連性について、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
7-8	<p>メンタルヘルスの概念と歴史の変遷（現代）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の高度経済成長期から現在までのメンタルヘルスを巡る概念の広がりの変遷について、その時代背景との関連性を学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>日本の高度経済成長期から現在までのメンタルヘルス概念の広がりの変遷について、産業構造の変化、核家族化、教育、人間関係のあり方などとの関連性を含め、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
9-10	<p>諸外国における精神医療保健福祉の歴史と動向</p> <p>諸外国における精神医療保健福祉の歴史の変遷と動向を学び、精神障害者がおかれてきた環境について学修する。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>イギリス・アメリカ・イタリアの精神医療保健福祉の中から一つを選択し、その国の精神保健福祉の歴史の変遷と動向について、関連文献を探索し、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
11-12	<p>日本における精神保健医療福祉制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代から現代までの日本における精神医療保健福祉制度の歴史の変遷について学び、精神障害者がおかれてきた環境について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>精神病患者監護法、精神衛生法、精神保健法、精神保健福祉法までの精神保健医療福祉制度の歴史および障害者福祉法との関連について、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修

	13-14	心身喪失者等医療観察法制度と看護 ・心身喪失者等医療観察法で定められた支援と処遇、チーム医療、看護について学び、医療観察法制度における現状と課題について検討する。 〔事前課題〕 医療観察法の現状と課題、看護援助について、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。 (プレゼンテーション・学生－教員間での討議)	東 修
	15	まとめ ・精神医療や法制度の歴史的変遷から、精神障害者が歩んできた道のりを踏まえ、現在の看護の役割や今後の看護はどうあるべきか、看護学の発展について検討する。 (学生－教員間での討議)	東 修
評価方法	プレゼンテーション (50%)、ゼミへの参加度 (50%)		
テキスト、参考書	テキスト 参考書： 1) 我が国の精神保健福祉 (精神保健福祉ハンドブック) 最新版. 2) 岡田靖雄：日本精神科医療誌、医学書院、2020. 3) 小俣和一郎：精神医学の近現代史、誠信書房、2020. その他の関連文献は、授業の際に別途提示する。		
履修上の注意点	ゼミ形式の授業なので、積極的に参加し質疑応答や議論することが必要となります。		

科目名	精神看護学特論Ⅱ	科目番号	3229	単位	2	時間	30
教員名	東 修、向山隆志 松本淳子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	精神疾患の診断基準、国際生活機能生活分類、精神状態の査定、自我機能評価などの精神の健康状態を評価する方法とそれらが日常生活に及ぼす影響、関連性について学修する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 他職種と協働し、調整する能力						
目標	1. 精神疾患に対する生物学的アプローチを理解する。 2. 精神医学における診断基準の起源と変遷を歴史的に学び、診断が当事者と家族に与える影響を学修する。 3. 記述精神医学と診断基準の関係について理解する。 4. 精神の健康に関連するアセスメント技法を活用し、精神的困難を抱えた当事者の全体像を理解し、日常生活との関連性を考える。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	精神疾患に対する生物学的アプローチ ・生物学的精神医学について、その概念の理解とアプローチ方法を学び、精神疾患におけるアセスメント視点を学修する。 〔事前課題〕 事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (講義・学生－教員間での討議)				向山隆志	
	2	ICDの起源とその変遷 ・ICDにおける精神医学の診断基準とその変遷を学び、診断が精神疾患の当事者と家族に与える影響を学修する。 〔事前課題〕 事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (講義・学生－教員間での討議)				向山隆志	

	3	<p>DSM の変遷 (DSM-III の登場まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DSM (DSM-III の登場まで) における精神医学の診断基準とその変遷を学び、診断が精神疾患の当事者と家族に与える影響を学修する。 <p>〔事前課題〕 事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (プレゼンテーション・学生-教員間での討議)</p>	向山隆志
	4	<p>DSM の変遷 (DSM-III から V まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DSM (DSM-III から V まで) における精神医学の診断基準とその変遷を学び、診断が精神疾患の当事者と家族に与える影響を学修する。 <p>〔事前課題〕 事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (講義・学生-教員間での討議)</p>	向山隆志
	5	<p>記述精神医学と診断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記述精神医学について、その概念の理解と診断基準の関係を学び、精神疾患におけるアセスメント視点を学修する。 <p>〔事前課題〕 事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (講義・学生-教員間での討議)</p>	向山隆志
	6	<p>国際生活機能分類 (ICF) を用いたアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICF の概念と分類、その適用を学び、精神的困難を抱えた当事者における全体像の理解とアセスメント視点を学修する。 <p>〔事前課題〕 ICF とその前身である ICIDH (国際障害分類) について、その違いや分類方法、適用を関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備をする。 (プレゼンテーション・学生-教員間での討議)</p>	東 修
	7	<p>精神状態の査定 (MSE) を用いたアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ MSE を構成する概念と査定方法を学び、精神的困難を抱えた当事者の精神状態の理解およびアセスメント視点を学修する。 <p>〔事前課題〕 精神機能学と精神症候学、MSE について、関連文献を探索し、プレゼンテーションの準備をする。 (プレゼンテーション・学生-教員間での討議)</p>	東 修

	8	<p>自我機能 (Bellak, L 12の自我機能) を用いたアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bellak, Lの自我機能を構成する概念と評価方法を学び、精神疾患やメンタルヘル스에課題を抱える当事者のアセスメント視点を学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>Bellak, Lの自我機能の構成概念と評価方法について、関連文献を探索し、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	9-10	<p>臨床心理学的アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学的アセスメントを構成する概念と評価方法を学び、不適応状態にあるクライアントのアセスメント視点を学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	松本淳子
	11-12	<p>統合失調症の精神症状のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例をもとに、精神症状のアセスメント技法を学び、精神的困難を抱えた当事者に対する理解や日常生活との関連性を学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>これまで学修してきた ICF、MSE、Bellak, Lの自我機能の評価方法について復習しておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	13-14	<p>抑うつ症群・双極症群および関連症群の精神症状のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例をもとに、精神症状のアセスメント技法を学び、精神的困難を抱えた当事者に対する理解や日常生活との関連性を学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>これまで学修してきた ICF、MSE、Bellak, Lの自我機能の評価方法について復習しておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	東 修

	15	<p>実際の事例を用いた対象者のアセスメントと日常生活への影響</p> <p>・「統合失調症」「抑うつ症群・双極症群」「パーソナリティ障害」の模擬事例の中から、1事例を選択し、これまで学んできたアセスメント技法をもとに、全体像をとらえ看護援助の方向性を見出す。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>模擬事例について、各アセスメント技法を組み合わせ、対象の全体像をとらえ看護援助の方向性をまとめておく。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修
評価方法	プレゼンテーション (50%)、ゼミへの参加度 (20%)、レポート (30%)		
テキスト、参考書	<p>テキスト 参考書：</p> <p>1) 高橋三郎、大野裕監訳：DSM-5-TR、医学書院、2023.</p> <p>その他の関連文献は、授業の際に別途提示する。</p>		
履修上の注意点	ゼミ形式の授業なので、積極的に参加し質疑応答や議論することが必要となります。		

科目名	精神看護学特論Ⅲ	科目番号	3421	単位	2	時間	30	
教員名	東 修	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える対象者の理解と看護援助のために、対人関係論、対象関係論、精神力動論、リカバリー理論などを学修する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 精神看護領域における看護理論を学び、対象を理解する視点を学修する。 2. 看護理論に基づいたアセスメントと援助方法を学修する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	精神看護の基本的信念・治療環境・精神科看護師の役割、精神科における倫理 (講義・学生－教員間での討議)					東 修	
	2-3	看護理論と実際 (ペプロウの対人関係論) ・ペプロウの対人関係理論について、その概念の理解と看護への適用について学修する。 [事前課題] ペプロウ理論の基本的概念を関連文献で探索し、看護への適用について、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。 (プレゼンテーション・学生－教員間での討議)					東 修	
	4-5	看護理論と実際 (精神力動論) ・精神力動論の基本的概念、治療技法を学び、その看護への応用について学修する。 [事前課題] 精神力動論の心的構造論、防衛機制について、関連文献で探索し、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。 (プレゼンテーション・学生－教員間での討議)					東 修	

	<p>6-7 看護理論と実際（対象関係論）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象関係論の基本的概念、対象のアセスメント方法を学び、その看護への応用について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>対象関係論（クライン派）における心の働きについて、関連文献で探索し、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
	<p>8-9 看護理論と実際（オレム-アンダーウツのセルフケア理論）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレム-アンダーウツのセルフケア理論について、その概念の理解と対象のアセスメント方法を学び、看護への適用について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>セルフケア理論の基本的概念を関連文献で探索し、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
	<p>10-11 看護理論と実際</p> <p>（リカバリー理論とエンパワーメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リカバリー理論について、その概念の理解と対象のアセスメント方法を学び、看護への適用について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>リカバリー理論の基本的概念、エンパワーメントやストレングスモデルとの関連性等について、関連文献で探索し、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修

	12-13	<p>看護理論と実際（ストレス・コーピング理論）</p> <p>・ストレス・コーピング理論について、その概念の理解と対象のアセスメント方法を学び、看護への適用について学修する。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>ストレス・コーピング理論（セリエ, H、ラザルス, R. S）の基本的概念について、関連文献で探索し、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
	14-15	<p>各種理論に基づいた事例の検討（GW 含む）</p> <p>・模擬事例について、これまで学んできた理論をもとにアセスメントし、援助の方向性を見出す。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>模擬事例について、複数の理論を組み合わせ、対象をアセスメントし、援助の方向性を考えてまとめておく。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
評価方法	プレゼンテーション（50%）、ゼミへの参加度（50%）		
テキスト、参考書	<p>テキスト 参考書：</p> <p>1) Wallace, Edwin R. 著、馬場謙一監訳、力動精神医学の理論と実際、医学書院、1996.</p> <p>2) 南裕子編著：アクティブナーシング、実践オレム-アンダーウッド理論、講談社、2005.</p> <p>その他の関連文献は、授業の際に別途提示する。</p>		
履修上の注意点	ゼミ形式の授業なので、積極的に参加し質疑応答や議論することが必要となります。		

科目名	精神看護学演習 I・A	科目番号	3422	単位	2	時間	60	
教員名	東 修、高村有加 福山敦子、松本淳子	科目種別	専門	開講年次	第1学年			
				開講学期	後学期			
科目概要	精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える対象者に対して、精神療法、認知行動療法および社会療法など、各種の心理・社会療法を学修する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野を持って俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 精神看護を実践する際に活用できる各種の精神・心理療法を学修する。 2. 精神科と地域におけるリハビリテーションの実際から、対象が社会で生活していくための援助を考える。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-2	精神療法の基本 ・精神療法の基本概念、治療技法を学び、看護への応用について学修する。 〔事前課題〕 狭義の精神療法：支持的精神療法、来談者中心療法、ポジティブ心理療法の中から一つ選択し、その概念や理論の根拠、構成要素、技法を関連文献で探索し、まとめておく。 (講義・プレゼンテーション・学生－教員間での討議)					東 修	
	3-4	精神看護と関連技法 ・精神看護における各種関連技法を学び、看護への適用について学修する。 〔事前課題〕 広義の精神療法：イメージ療法、リラクゼーション療法、心理教育について、その概念や理論の根拠、技法を関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。 (プレゼンテーション・学生－教員間での討議)					東 修	

	5-6	<p>家族療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族療法の基盤となるシステム理論の概念やアセスメント視点を学び、家族への適用について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>システム理論について、その概念や理論の根拠、アセスメント視点を関連文献で探索し、家族とそれを取り巻く周囲の人々との関連性などをまとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	7-10	<p>認知行動療法の理論と看護への実践的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知行動療法の基本概念、治療技法を学び、看護への応用について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>認知行動療法について、その概念と構成要素、技法を関連文献で探索し、まとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	東 修 高村有加
	11-12	<p>心理面接技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理面接技法の基本概念、面接プロセスを学び、看護への応用について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	松本淳子
	13-16	<p>カウンセリング技法と看護</p> <p>(精神分析心理学・行動主義心理学・人間性心理学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の心理学における基本概念、治療技法を学び、看護への応用について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>精神分析心理学、行動主義心理学、人間性心理学の中から一つ選択し、その概念や治療技法、対象をアセスメントする視点について、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修

	17-20	生活技能訓練（SST）の理論と実際（ロールプレイ含む） ・SSTの基本概念、実践技法を学び、看護への適用について学修する。 〔事前課題〕 SSTについて、その概念と背景となる理論、適応、技法について、関連文献で探索し、まとめておく。 （講義・学生－教員間での討議、ロールプレイ）	東 修
	21-24	集団の理論と集団療法の実践（GW含む） ・集団精神療法の基本概念、実践技法を学び、模擬事例をもとに援助方法を学修する。 〔事前課題〕 集団精神療法の概念と理論の背景となる理論、技法について、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。 （プレゼンテーション・学生－教員間での討議）	東 修
	25-26	精神科におけるリハビリテーション（作業療法、レクリエーション療法） ・作業療法、レクリエーションの目的、適応、実践技法を学び、対象が社会で生活するための援助について学修する。 〔事前課題〕 作業療法、レクリエーションの目的、適応、技法を関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備を行う。 （プレゼンテーション・学生－教員間での討議）	東 修
	27-30	地域におけるリハビリテーション（地域連携とチーム医療） ・地域におけるリハビリテーションの実際を知り、対象が社会で生活していくための援助について学修する。 〔事前課題〕 訪問看護、ACT等、関連文献を調べてまとめておく。 （講義・学生－教員間での討議）	福山敦子（*）
評価方法	プレゼンテーション（50%）、ゼミへの参加度（20%）、レポート（30%）		

<p>テキスト、参考書</p>	<p>テキスト 参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 楡木満生、田上不二夫編：カウンセリング心理学ハンドブック、金子書房、2011. 2) 堀越勝、野村俊明著：精神療法の基本、支持から認知行動療法まで、医学書院、2012. 3) 坂田三充総編集：精神看護エクスペール 13、精神看護と関連技法、中山書店、2005. 4) 日本集団精神療法学会編集委員会監修、藤信子、西村馨、樋掛忠彦編著：集団精神療法の実践事例 30、2017. <p>その他の関連文献は、授業の際に別途提示する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>ゼミ形式の授業なので、積極的に参加し質疑応答や議論することが必要となります。</p>

(*) 福山敦子 (NPO 法人ハートフル訪問看護ステーション聲)

科目名	精神看護学演習 I・B	科目番号	3423	単位	2	時間	60
教員名	東 修、有賀智也、 高村有加、福山敦子	科目種別	専門	開講年次	第2学年		
				開講学期	前学期		
科目概要	精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々の状態像を理解するためのモデル、看護ケアに向けたアセスメント方法と援助および対象を援助する上でのコミュニケーション技法を学修する。また、援助者である看護師自身のストレスとその対処について学修する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学術的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	1. 精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々を理解するための諸理論を学修する。 2. 諸理論に基づいた対象の包括的なアセスメント方法と援助を学修する。 3. 対象を理解する上でのコミュニケーション技法を修得する。 4. 援助者である看護師自身のストレスとその対処について学修する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1-2	生物・心理・社会モデルによるアセスメント方法 ・生物・心理・社会モデルについて、その概念の理解とアセスメント方法を学び、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々の援助について学修する。 〔事前課題〕 生物・心理・社会モデルを関連文献で探索し、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々に対するアセスメント方法と援助について、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。 (プレゼンテーション・学生－教員間での討議)				東 修	

	3-4	<p>セルフケアモデルによるアセスメント方法</p> <p>セルフケアモデルについて、その概念の理解とアセスメント方法を学び、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々の援助について学修する。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>セルフケアモデルについて、事前に提示した関連文献から調べて、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々に対するアセスメント方法と援助を、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	5-6	<p>ストレングスモデルによるアセスメント方法</p> <p>ストレングスモデルについて、その概念の理解とアセスメント方法を学び、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々の援助について学修する。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>ストレングスモデルについて、事前に提示した関連文献から調べて、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々に対するアセスメント方法と援助を、事例をあげて説明できるよう、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修 高村有加
	7-8	<p>家族に関する理論とアセスメント方法</p> <p>各種の家族理論について、その概念の理解とアセスメント方法を学び、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人の家族の援助について学修する。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>各種の家族理論を関連文献で調べて、その中から一つの理論を取り上げ、精神疾患やメンタルヘルに問題を抱える人々の家族への適用、アセスメント方法と援助についてまとめておく。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修

	9-10	<p>危機モデルによるアセスメント方法</p> <p>各種の危機モデルについて、その概念の理解とアセスメント方法を学び、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々の援助について学修する。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>各種の危機モデルを関連文献から調べて、その中から一つの理論を取り上げ、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々への適用、アセスメント方法と援助についてまとめておく。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	11-14	<p>統合失調症の回復過程に沿った看護 (アセスメントと援助方法)</p> <p>・統合失調症の回復過程モデルについて、その概念の理解とアセスメント方法を学び、統合失調症の人の援助について学修する。</p> <p>〔事前学習〕</p> <p>統合失調症の回復過程モデルを、事前に提示した関連文献から調べて、統合失調症の人のアセスメント方法と援助についてまとめておく。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	15-16	<p>抑うつ症群・双極症および関連症群 (アセスメントと援助方法)</p> <p>・抑うつ症群・双極症群の回復過程モデルについて、その概念の理解とアセスメント方法を学び、抑うつ症群・双極症および関連症群の人の援助について学修する。</p> <p>〔事前学習〕</p> <p>抑うつ症群・双極症群の回復過程モデルを、提示した関連文献から調べて、抑うつ症群・双極症群の人のアセスメント方法と援助についてまとめておく。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修

	<p>17-18 パーソナリティ症群の看護（アセスメントと援助方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パーソナリティ症群を理解するための理論について、その概念の理解とアセスメント方法を学び、パーソナリティ症群の人の援助について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>パーソナリティ症群を理解するための理論を、事前に提示した関連文献から調べて、パーソナリティ症群の人のアセスメント方法と援助についてまとめておく。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
	<p>19-22 ACT におけるチーム医療の実際</p> <p>地域で精神疾患の人々を援助しているチーム医療の実際について学修する。</p> <p>〔事前課題〕</p> <p>ACT の概念と成り立ち、背景となる理論を関連文献から調べて、他職種協働や援助のあり方についてまとめておく。</p> <p>（講義・学生－教員間での討議）</p>	福山敦子(*)
	<p>23-24 精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々に対する包括的なアセスメントと援助の方法（事例検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学修してきた諸理論にもとづいて、模擬事例をとおして包括的にアセスメントする方法と援助の方向性について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>これまで学修してきた諸理論とアセスメント方法、援助について復習しておく。</p> <p>（講義・グループワーク・学生－教員間での討議）</p>	東 修

	25-26	<p>対象を援助する上でのコミュニケーション技法と実際（ロールプレイ含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションにおける基本的態度、傾聴、ペーシング、ミラーリング、リフレイン、要約、沈黙等のコミュニケーション技術を学び、精神疾患やメンタルヘルスに問題を抱える人々とのコミュニケーションについて検討する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>コミュニケーション技法に関連する文献を調べて、実際の場面で活用する方法を考えておく。</p> <p>（講義・学生－教員間での討議、ロールプレイ）</p>	<p>東 修 高村有加</p>
	27-28	<p>看護師のストレスとアサーティブ・コミュニケーション（ロールプレイ含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師自身のストレスとその対処について学び、ストレスと付き合う方法を学修する。また、アサーティブ・コミュニケーションについて学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>看護師のストレスについて、関連文献を探索し、そのストレスの傾向と対策についてまとめて、プレゼンできるよう、準備する。また、ストレス対処の一つの方法（自己表現）として、アサーティブ・コミュニケーションについて、関連文献を調べてまとめておく。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議、ロールプレイ）</p>	<p>有賀智也 高村有加</p>
	29-30	<p>看護師のサポートの実際（GW 含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場におけるメンタルヘルスの基本事項を学び、対象者を包括的にアセスメントする方法と援助について学修する（模擬事例）。 <p>〔事前課題〕</p> <p>産業保健等、職場におけるメンタルヘルス対策について、関連文献を調べてまとめておく。</p> <p>（講義・プレゼンテーション・グループワークでの討議）</p>	<p>東 修 有賀智也 高村有加</p>
評価方法	プレゼンテーション（50%）、ゼミへの参加度（20%）、レポート（30%）		

<p>テキスト、参考書</p>	<p>テキスト 参考書：</p> <p>1) チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ著、田中秀樹監訳：ストレングスモデル、第3版、金剛出版、2015.</p> <p>2) 萱間真美：リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術、医学書院、2016.</p> <p>3) 阿保順子編：統合失調症急性期看護学、すぴか書房、2021.</p> <p>その他の関連文献は、授業の際に別途提示する。</p>
<p>履修上の注意点</p>	<p>ゼミ形式の授業なので、積極的に参加し質疑応答や議論することが必要となります。</p>

(*) 福山敦子 (NPO 法人ハートフル訪問看護ステーション聲)

科目名	精神看護学演習 I・C	科目番号	3424	単位	2	時間	60
教員名	東 修 有賀智也、高村有加	科目種別	専門	開講年次	第1学年		
				開講学期	後学期		
科目概要	精神疾患、特に統合失調症の救急・急性期に関する人間学的理論、看護学的理論、医学的理論を学修し、援助の理論的枠組みと臨床への適用方法を実践的に学修する。また、精神科救急における身体管理、倫理的諸問題について学修する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科救急について、理論と実際を学修する。 2. 統合失調症急性期の理解とケアの方法について多面的に学修する。 3. 救急時の身体管理、倫理的諸問題を学修し、対象の安全と人権について考察する。 4. 統合失調症急性期と回復期との関係を学修し、回復期ケアの必要性を実践的に学ぶ。 						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1-2	<p>精神看護における急性期看護の位置づけと重要性 ・急性精神病状態によって、身体的・精神的消耗に加え、極度の緊張やおびえとともに入院してくる対象を理解し、安全かつ安心できる環境を整えるケア方法について学修する。</p> <p>〔事前課題〕 精神科救急・急性期看護の関連文献を探索し、急性期の患者の身におきていること、看護援助の方向性についてまとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>				東 修	
	3-4	<p>一般救急と精神科救急の相違 ・一般救急と精神科救急の違いや法的な側面、処遇について学修する。</p> <p>〔事前課題〕 精神科救急における1次・2次・3次救急について、その概念と運用および法的な側面、行動制限等の処遇について関連文献を探索し、まとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>				東 修	

	5-6	<p>精神科救急の理論 (危機介入、急性期・臨界期・回復期のモデル) ・精神科救急における理論について、その概念の理解とアセスメント・ケア方法を学び、急性精神病状態にある対象の理解を深める。</p> <p>〔事前課題〕 精神科救急における回復過程モデル、危機介入、攻撃性仮説モデル (Ni jman) 等について、その概念やアセスメント・ケア方法を文献で探索し、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>(プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	7-10	<p>統合失調症急性期の理解 (中井理論) とケアの方法 ・統合失調症の寛解過程論 (中井理論) について、その概念の理解と回復過程の各時期における治療・ケア方法について、模擬事例をもとに学修する。</p> <p>〔事前課題〕 事前に提示された文献 (中井理論と阿保の精神構造と保護膜モデル) を調べて、対象を理解するためのアセスメント視点とケア方法をまとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	東 修 有賀智也 高村有加
	11-14	<p>精神科救急における身体管理 (m-ECT、身体拘束、全身状態の管理) ・精神科救急では、高率に身体合併症や器質要因、身体要因による精神変調に遭遇することがある。まずは入院時の身体的スクリーニング、トリアージを学ぶ。また、精神科救急の現場で多くみられる、身体療法 (m-ECT)、身体拘束、外傷および身体消耗による身体管理について、観察視点やケア方法および安全を確保する方法を学修する。</p> <p>〔事前課題〕 精神科救急時における身体的スクリーニング、トリアージ、身体管理について、関連文献で探索し、看護ケアにおける観察視点やケア方法について、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	東 修

	15-18	<p>事例に基づいた精神科救急看護の方法(事例検討会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科救急における模擬事例について、精神科救急の理論や身体管理および人権への配慮の観点から検討し、対象に対する治療・ケア方法を学修し、実践的な学びを深める。 <p>〔事前課題〕</p> <p>これまで学修した精神科救急における理論、身体管理、安全の確保等について復習する。また、人権への配慮について考えておく。</p> <p>(グループワーク・学生－教員間での討議)</p>	東 修
	19-22	<p>急性期における倫理的諸問題(事例検討会)</p> <p>行動制限(身体拘束・隔離)、暴力の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例を用いて、行動制限下における倫理的諸問題や、暴力・攻撃性の解決に向けた方法について学修し、実践的な学びを深める。 <p>〔事前課題〕</p> <p>倫理の諸理論、暴力・攻撃性への対処等に関連した理論や介入方法について、関連文献を調べてまとめておく。</p> <p>(グループワーク・学生－教員間での討議)</p>	東 修 有賀智也
	23-24	<p>急性期における医療従事者の役割と関係 (他職種間の連携と調整を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科急性期では、身体的なスクリーニングの必要性、円滑な入院治療への導入のほか、患者の同意によらない非自発的入院が多いため、患者の安全や人権を擁護する体制整備が必要である。ここでは、関係する医療従事者(精神保健指定医、外来部門、病棟部門、検査部門、精神保健福祉士等)の調整役としての看護の役割を学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>精神科における他職種の役割を関連文献から調べてまとめておく。</p> <p>(講義・学生－教員間での討議)</p>	有賀智也 高村有加

	25 - 26	<p>急性期と回復期の関係、回復期ケアの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症の急性期と回復期の関係について、回復プロセスの転換点となる臨界期に焦点をあて、その時期のケア方法について学修する。また、回復期については、リハビリテーションの観点から対象の生活を見据えたケア方法について学修する。 <p>〔事前課題〕 統合失調症急性期の理論（中井と阿保の精神構造と保護膜モデル）、リハビリテーションに関する諸理論を復習しておく。</p> <p>（講義・学生－教員間での討議）</p>	有賀智也 高村有加
	27-30	<p>事例に基づいた回復期看護の方法（事例検討会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科の回復期にある模擬事例を用いて、リハビリテーションの観点から検討し、対象へのケア方法を学修し、実践的な学びを深める。 <p>〔事前課題〕 リハビリテーションに関する諸理論を復習しておく。</p> <p>（グループワーク・学生－教員間での討議）</p>	東 修 有賀智也 高村有加
評価方法	プレゼンテーション（50%）、ゼミへの参加度（20%）、レポート（30%）		
テキスト、参考書	<p>テキスト 参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中井久夫：新版、精神科治療の覚書、日本評論社、2016. 2) 阿保順子他：統合失調症急性期看護学、すぴか書房、2021. 3) 一般社団法人日本精神科救急学会監修、杉山直也、藤田潔：精神科救急ガイドライン、2022. 4) 阿保順子編：回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期のケア、精神看護出版、2011. <p>その他の関連文献は、授業の際に別途提示する。</p>		
履修上の注意	ゼミ形式の授業なので、積極的に参加し質疑応答や議論することが必要となります。		

科目名	精神看護学実習 I	科目番号	3425	単位	1	時間	45
教員名	東 修、有賀智也 高村有加	科目種別	専門	開講年次	第1学年		
				開講学期	後学期		
科目概要	精神看護専門看護師としての6つの役割（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）の実際を学ぶ。また、病院組織や地域の精神保健福祉機関の関係者との連携・協働における精神看護専門看護師の実践について、理解を深める。						
ディプロマポリシー（DP）との関連	◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織における精神看護専門看護師の位置づけと役割について、理解を深めることができる。 2. 精神看護専門看護師の役割について、各病棟や看護師の看護課題と関連づけて考察することができる。 3. 病院組織や地域の精神保健福祉機関の関係者との連携・協働における精神看護専門看護師の実践について、理解を深めることができる。 						
授業計画・内容	<p>精神科病院で活動している精神看護専門看護師（以下実習指導者）に同行し、その活動を参加観察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習指導者より、病院組織における精神看護専門看護師に対するニーズおよび位置づけ等の説明を受け、その役割について理解を深める。 2. 実習指導者に同行し、直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究の実際を知る。また、6つの役割の使い分けはどのようにしているのか、実習指導者の指導のもと、各病棟や看護師の看護課題と関連付けて考察する。 3. 実習指導者が、病院で活動する中で他職種との連携・協働場面を参加観察し、どのように実践しているのかを考察し、理解を深める。この際、精神看護専門看護師に関する他職種のニーズを探るために、可能な場合、他職種からも聞き取りを行う。また、患者の退院支援等、地域の精神保健福祉機関の関係者との連携・協働における実習指導者の実践についても同様に観察する。 						

	<p>4. カンファレンスの実施</p> <p>実習日の終了時には、学生が参加観察し考察した内容を実習指導者にフィードバックする。また、実習指導者の実践における意図や方法、思考プロセスを聞き取り、精神看護専門看護師の役割に関する理解を深める。</p> <p>5. スーパービジョン</p> <p>学生は、実習指導者および教員から定期的にスーパーバイズを受ける。</p> <p><準備・計画></p> <p>既習の講義や演習で修得した内容を理解しておく。実習計画書は、学生が主体的に作成し、事前に教員、指導者の指導を受ける。</p> <p><レポートの提出></p> <p>実習終了時にレポートを指導者・教員に提出する。</p> <p><実習指導者></p> <p>精神看護専門看護師 2名</p> <p><学内実習担当者></p> <p>東 修、有賀智也、大蔵真理（外部 CNS）、高村有加</p>
評価方法	実習レポート（50%）、実習実践（40%）、実習態度（10%）
テキスト、参考書	<p>テキスト 参考書：</p> <p>1) 野末聖香編：リエゾン精神看護、患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版株式会社、2004.</p> <p>2) 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.</p> <p>その他の関連文献は、実習の際に別途提示する。</p>
履修上の 注意点	<p>精神看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p> <p>事前に既修科目の自己の実践能力を評価し、学習課題・目標を明確にする。</p> <p>実習計画を立案し、主体的に実習に取り組むこと。</p>

科目名	精神看護学実習Ⅱ	科目番号	3426	単位	2	時間	90
教員名	東 修、有賀智也 高村有加	科目種別	専門	開講年次	第1学年		
				開講学期	後学期		
科目概要	精神科における診断、治療に関する基礎的知識を修得し、外来や入院中における患者の治療の方向性を考える。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	1. 精神科における診断、治療についての基礎的知識を修得する。 2. 精神科診断と治療のプロセスや具体的な技法等を学ぶ。 3. 患者の今後の方向性を治療的な観点から考察することができる。						
授業計画・内容	<p>1. 精神科医師の診察・検査等に陪席し、精神科における診断、治療の実際を見学する。見学の際は、治療的面接技術の実際を知る。また、治療的介入（精神療法、集団精神療法、認知行動療法等）の他、精神科診断と治療のプロセスや具体的な技法等を学ぶ。</p> <p>心理検査の方法および解釈、薬物療法の選択プロセスの実際を知る。</p> <p>2. 入院中の急性期患者 2 名を受け持ち、対象の精神症状の査定、薬物療法の作用と副作用のモニタリング、行動制限の判断と解除など、治療的介入について学ぶ。</p> <p>3. カンファレンスの実施 学生は、受け持ち患者 2 名について、精神科医師、精神看護専門看護師（以下実習指導者）と、協議し治療の方向性について考える。</p> <p>4. スーパービジョン 学生は、精神科医師、実習指導者、教員から定期的にスーパーバイズを受ける。</p> <p><準備・計画> 既習の講義や演習で修得した内容を理解しておく。実習計画書は、学生が主体的に作成し、事前に教員、実習指導者の指導を受ける。</p> <p><レポートの提出> 実習終了時にレポートを実習指導者・教員に提出する。</p> <p><実習指導者> 精神科医師、精神看護専門看護師 2 名</p> <p><学内実習担当者> 東 修、有賀智也、大蔵真理（外部 CNS）、高村有加</p>						
評価方法	実習レポート（50%）、実習実践（40%）、実習態度（10%）						
テキスト、参考書	テキスト 参考書：実習の際に別途提示する。						

履修上の 注意点	精神看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。 事前に既修科目の自己の実践能力を評価し、学習課題・目標を明確にする。 実習計画を立案し、主体的に実習に取り組むこと。
-------------	---

科目名	精神看護学実習Ⅲ	科目番号	3427	単位	4	時間	180
教員名	東 修、有賀智也、 高村有加	科目種別	専門	開講年次	第2学年		
				開講学期	前学期		
科目概要	複雑な問題を抱える精神疾患をもつ患者とその家族に対して、精神看護専門看護師および教員の指導を得て、理論や根拠に基づいた看護を実践する（直接ケア）。						
ディプロマポリシー（DP）との関連	◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者とその家族がおかれている状況を包括的にアセスメントし、理論に基づいた看護ケアを計画、実施、評価することができる。 2. 看護チームや他職種と連携・協働し、患者とその家族に対する問題の解決に取り組むことができる。 3. 看護ケアを計画する際は、患者とその家族に沿った社会資源の活用など、地域生活を見据えた計画を立案することができる。 						
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者とその家族への看護実践 複雑な問題を抱える患者を受け持ち、患者の状態像、周囲の人的・物理的・サポート環境等、包括的にアセスメントし、理論に基づいた看護ケア計画の立案、実施、評価を行う。 2. 看護チームや他職種との連携・協働 看護チームや他職種と連携・協働し、患者とその家族に対する問題解決に向けたケア計画を立案、実施、評価を行う。 3. 入院中から、患者とその家族に沿った社会資源を調査し、それをケア計画に反映させる。 4. カンファレンスの実施 学生は、定期的にケア計画を精神看護専門看護師（以下実習指導者）に提出し、助言を受ける。ケア計画については、学生のアセスメントや意図、方法を具体的に示すこととし、実習指導者との協議を通して、患者とその家族に質の高い看護ケアが提供できるようにする。 5. スーパービジョン 学生は、実習指導者および教員から定期的にスーパーバイズを受ける。 <p><準備・計画> 既習の講義や演習で修得した内容を理解しておく。実習計画書は、学生が主体的に作成し、事前に教員、実習指導者の指導を受ける。</p> <p><レポートの提出> 実習終了時に、事例に関するレポートを実習指導者・教員に提出する。</p> <p><実習指導者> 精神看護専門看護師 2名</p>						

	<p><学内実習担当者> 東 修、高村有加、有賀智也、大蔵真理（外部 CNS）</p>
評価方法	実習レポート（50%）、実習実践（40%）、実習態度（10%）
テキスト、参考書	<p>テキスト 参考書：</p> <p>1）野末聖香編：リエゾン精神看護、患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版株式会社、2004.</p> <p>2）宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.</p> <p>その他の関連文献は、実習の際に別途提示する。</p>
履修上の 注意点	<p>精神看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p> <p>事前に既修科目の自己の実践能力を評価し、学習課題・目標を明確にする。</p> <p>実習計画を立案し、主体的に実習に取り組むこと。</p>

科目名	精神看護学実習Ⅳ	科目番号	3428	単位	2	時間	90
教員名	東 修、有賀智也 高村有加	科目種別	専門	開講年次	第2学年		
				開講学期	前学期		
科目概要	精神看護専門看護師のサブスペシャリティである、精神科救急・急性期の患者とその家族に対して、精神看護専門看護師および教員の指導を得て、理論や根拠に基づいた看護を実践する（直接ケア）。						
ディプロマポリシー（DP）との関連	◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 救急・急性期患者とその家族がおかれている状況を包括的にアセスメントし、理論に基づいた看護ケアを計画、実施、評価することができる。 看護チームや他職種と連携・協働し、患者とその家族に対する問題の解決に取り組むことができる。 看護ケアを計画する際は、患者とその家族に沿った社会資源の活用など、地域生活を見据えた計画を立案することができる。 救急・急性期治療における、非自発的入院、隔離・身体拘束等の行動制限の倫理的な問題に対する解決方法を考えることができる。 						
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者とその家族への看護実践 救急・急性期患者を受け持ち、患者の状態像、周囲の人的・物理的・サポート環境等、包括的にアセスメントし、精神科救急・急性期の理論に基づいた看護ケア計画の立案、実施、評価を行う。 看護チームや他職種との連携・協働 看護チームや他職種と連携・協働し、患者とその家族に対する問題の解決に向けたケア計画を立案、実施、評価を行う。 入院中から、患者とその家族に沿った社会資源を調査し、それをケア計画に反映させる。 救急・急性期治療における倫理的問題 精神科病院における非自発的入院、隔離・身体拘束、身体療法等の治療環境について、倫理学の理論をもとに分析し、その解決に向けた方法を考えることができる。 カンファレンスの実施 学生は、定期的にケア計画を精神看護専門看護師（以下実習指導者）に提出し、助言を受ける。ケア計画については、学生のアセスメントや意図、方法を具体的に示すこととし、実習指導者との協議を通して、患者とその家族に質の高い看護ケアが提供できるようにする。 スーパービジョン 学生は、実習指導者および教員から定期的にスーパーバイズを受ける。 						

	<p><準備・計画></p> <p>既習の講義や演習で修得した内容を理解しておく。実習計画書は、学生が主体的に作成し、事前に教員、実習指導者の指導を受ける。</p> <p><レポートの提出></p> <p>実習終了時に、事例に関するレポートを実習指導者・教員に提出する。</p> <p><実習指導者></p> <p>精神看護専門看護師 2名</p> <p><学内実習担当者></p> <p>東 修、有賀智也、大蔵真理（外部 CNS）、高村有加</p>
評価方法	実習レポート（50%）、実習実践（40%）、実習態度（10%）
テキスト、参考書	<p>テキスト 参考書：</p> <p>1）野末聖香編：リエゾン精神看護、患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版株式会社、2004.</p> <p>2）宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.</p> <p>その他の関連文献は、実習の際に別途提示する。</p>
履修上の 注意点	<p>精神看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p> <p>事前に既修科目の自己の実践能力を評価し、学習課題・目標を明確にする。</p> <p>実習計画を立案し、主体的に実習に取り組むこと。</p>

科目名	精神看護学実習Ⅴ	科目番号	3429	単位	1	時間	45
教員名	東 修、有賀智也、 高村有加	科目種別	専門	開講年次	第2学年		
				開講学期	前学期		
科目概要	地域で暮らす精神障害者とその家族を支える精神看護専門看護師に必要な実践力を養う。地域で活動している精神看護専門看護師の役割のうち、特にコンサルテーション、コーディネーション能力を養う。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす精神障害者とその家族について、理論やモデルを基にアセスメントし、必要な支援について考察を深めることができる。 2. 地域の看護職や保健医療福祉に関わる人々に対するコンサルテーション能力、コーディネーション能力を養うことができる。 						
授業計画・内容	<p>訪問看護ステーションで活動している精神看護専門看護師（以下実習指導者）に同行し、その活動を参加観察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの利用者とその家族について、リカバリーやストレングス等の理論を基にアセスメントする。この際、周囲の人々や保健医療福祉機関の関係者、社会資源等を含め、包括的にアセスメントし、必要な支援について考察する。 2. 訪問看護ステーションの利用者とその家族のリカバリーに向けて、必要となる支援や社会資源を整備するため、事業所内の看護職や保健医療福祉に関わる人々に対する実習指導者のコーディネーションの実際場面に同伴し、アセスメントの視点を分析・考察する。また、訪問看護ステーションの利用者とその家族の人権を尊重するための倫理的課題について、実習指導者がどのように関係機関と連携・調整しているのかを知る。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. の考察を実習指導者にフィードバックし助言を受ける。 3. 学生がコンサルテーションすることが可能な事例について、実習指導者のスーパービジョンを受けながらコンサルタントの役割を取る。 <ol style="list-style-type: none"> 3. について、実習指導者から評価・助言を受ける。 4. カンファレンスの実施 実習日の終了時には、学生が、対象者とその家族をどのようにアセスメントしたのか、その内容や意図、今後必要となる支援について実習指導者に説明し、お互いの協議を通して理解を深める。 5. スーパービジョン 学生は、実習指導者および教員から定期的にスーパーバイズを受ける。 <p><準備・計画> 既習の講義や演習で修得した内容を理解しておく。実習計画書は、学生が主体的に作成し、事前に教員、実習指導者の指導を受ける。</p>						

<p>授業計画・内容</p>	<p><レポートの提出> 実習終了時にレポートを実習指導者・教員に提出する。</p> <p><実習指導者> 精神看護専門看護師</p> <p><学内実習担当者> 東 修、高村有加、有賀智也、大蔵真理（外部 CNS）</p>
<p>評価方法</p>	<p>実習レポート（50%）、実習実践（40%）、実習態度（10%）</p>
<p>テキスト、参考書</p>	<p>テキスト 参考書：</p> <p>1) 野末聖香編：リエゾン精神看護、患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版株式会社、2004.</p> <p>2) 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.</p> <p>その他の関連文献は、実習の際に別途提示する。</p>
<p>履修上の 注意点</p>	<p>精神看護専門看護師コースの者は必ず選択すること。</p> <p>事前に既修科目の自己の実践能力を評価し、学習課題・目標を明確にする。</p> <p>実習計画を立案し、主体的に実習に取り組むこと。</p>

地域・在宅看護学分野

科目名	地域・在宅看護学特論 I	科目番号	3431	単位	2	時間	30	
教員名	安田貴恵子 柄澤邦江 御子柴裕子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>援助対象者を含む家族を1つの単位として行う家族支援の展開に有用な理論と援助方法を学修する。地域看護における家族支援では、様々な職種と協力しながら支援を進めるため、双方の価値が対立する場面に直面することが多い。そのため、倫理的問題として認知する感度を高め、倫理的視点から問題を検討できる能力を養う。さらに、個人、家族の生活様式や健康に対する価値観、行動変容に影響するその地域の文化に考慮できる能力を養う。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p>							
目標	<p>1. 家族を1つのシステムとして捉え、その特徴をふまえた援助を考えることができる。 2. 家族が直面する健康課題によって受ける影響を理解することができる。 3. 地域における家族支援場面で生じる倫理的問題を検討する視点を持つ。 4. 家族生活、個人の生活様式と密接に関連する文化を考慮した援助を考えることができる。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1~3	1. システムとしての家族理解 (導入) 家族を理解するための理論と看護への活用					安田貴恵子	
	4	2. 家族を単位とした援助の方法と課題 1) 発達課題の達成に向けた家族支援の課題					安田貴恵子	
	5	2) 家族内の介護役割と家族支援の課題					柄澤邦江	
	6	3) 終末期高齢者と家族への支援の課題					柄澤邦江	
	7	4) 家族システムを活用した健康増進活動の実際と課題					御子柴裕子	
	8	3. 家族を単位とした援助と倫理的問題 1) 地域看護活動と倫理的ジレンマ					安田貴恵子	
	9	2) 倫理的ジレンマを生じている場面の検討					安田貴恵子	
	10	4. 家族支援と文化 1) コミュニティの生活文化を考慮した保健指導の方法					柄澤邦江	
	11	2) 援助者と異なる文化的背景を持つ家族の理解と援助					柄澤邦江	
	12	5. 地域における家族支援に関する研究の方法 1) 家族の現象を捉える視点					安田貴恵子	
	13	2) 家族支援に関する研究報告のレビューと討議					安田貴恵子	

	14～15	保健師・看護師の行う個別援助、家族支援の質を高めるための課題（討議）	安田貴恵子 柄澤邦江 御子柴裕子
評価方法	授業の参加態度 20%、発表内容 30%、レポート 50%		
テキスト、 参考書	<p>テキスト：宮崎美砂子、北山三津子、春山早苗、田村須賀子編集、最新公衆衛生看護学総論（第3版）、日本看護協会出版会</p> <p>鈴木和子、渡辺裕子、家族看護学 理論と実践（第5版） 日本看護協会出版会</p> <p>参考書：Marilyn M. Friedman: Family Nursing, fourth edition, appleton & Lange その他の参考書、資料は随時紹介する。</p>		
履修上の 注意点	授業の前半に講義、後半は討議を行うので、事前に配布された文献資料を用いて学修内容についての予習を行い準備して臨む。		

科目名	地域・在宅看護学特論Ⅱ	科目番号	3432	単位	2	時間	30	
教員名	安田貴恵子 柄澤邦江 御子柴裕子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>コミュニティ全体に焦点をあてた看護活動の展開の基盤となる、地区診断および地区活動計画、活動評価の理論と方法を学習する。加えて、ケアチームづくりやヘルスケアシステムづくりのプロセス分析を通して、看護専門職の連携・調整の方法、ケアシステムの創出方法を論述する。これらを通して、地域の健康課題の解決に貢献する看護の役割機能について理解を深め、地域看護研究の課題を考察する。</p>							
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p> <p>○M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力</p>							
目 標	<p>1. 地域看護活動におけるPDCAサイクルとその推進要件を理解する。</p> <p>2. ヘルスケアシステムの一部として看護職が機能するために有用な概念、理論を説明できる。</p> <p>3. 保健医療福祉活動を推進するしくみと機能を理解し、住民のヘルスニーズに対応するための課題を述べることができる。</p> <p>4. 地域包括ケアシステムの充実に向けて公衆衛生看護または在宅看護を担う看護職に期待される内容とそのための課題を具体的に述べることができる。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-2	地域看護の実践活動と研究ならびに実践活動の問題意識から発展した地域看護研究の実際					安田貴恵子	
	3-4	ケアチームづくり、ケアシステムづくりのプロセス、地域包括ケアシステム 専門職連携と看護職の役割					安田貴恵子	
	5-6	地域におけるケアの質管理の機能と課題 ロジックモデルを活用した保健福祉活動の評価					安田貴恵子 時間講師	
	7-8	地域包括支援センターの機能と地域包括支援センター看護職の役割					柄澤邦江	
	9-10	包括的な地域ケアの推進における看護の機能 療養場所の移行に伴うケアの継続性 訪問看護ステーションを拠点とした地域ケア活動と課題					柄澤邦江 時間講師	
	11-12	ケアシステムづくりと住民参加、パートナーシップ					御子柴裕子	
	13-14	エビデンスに基づいた地域看護活動（公衆衛生看護活動、在宅看護活動）と看護研究の課題					安田貴恵子 柄澤邦江	

	15	まとめ（各自の学修課題に対応した報告と討議）	安田貴恵子 柄澤邦江 御子柴裕子
評価方法	授業参加態度 20%、発表内容 20%、課題レポート 60%		
テキスト、 参考書	<p>テキスト：宮崎美砂子、北山三津子、春山早苗、田村須賀子編集、最新地域看護学 総論、同各論 1 および 2、第 3 版、日本看護協会出版会</p> <p>横山美江：よくわかる地域看護研究の進め方・まとめ方、医歯薬出版</p> <p>参 考 書：</p> <p>（1）筒井孝子：地域包括ケアシステムの真か、中央法規出版</p> <p>（2）近藤克則：健康格差社会、医学書院</p> <p>その他の参考文献は随時紹介する。</p>		
履修上の 注意点	授業の前半に講義、後半は討議を行うので、学修内容についての予習を行い準備して臨む。		

科目名	地域・在宅看護学演習 I	科目番号	3433	単位	3	時間	90
教員名	安田貴恵子、柄澤邦江、 御子柴裕子、小野塚元子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>地域社会を構成する最小単位である家族を1つの援助単位として捉えた援助に必要な能力を高めるとともに、援助のあり方を探究する能力を養う。家庭訪問援助（保健師としての家庭訪問および訪問看護）を継続して行い、その援助過程を振り返ることを通して、自己の援助を客観的に振り返る能力を養う。</p> <p>文献を用いて在宅療養者と家族の生活の質の維持・向上に関わる課題と看護支援に関する体系化や理論構築の現状について検討する。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力</p> <p>○M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p>						
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭訪問援助における対象理解の特徴を学ぶ。 2. 本人・家族の健康生活上の課題を明確にして援助を行い評価するという看護過程を展開できる。 3. 他職種と連携して援助を充実させる方法を展開できる。 4. 自己の援助行為と思考過程を客観視できる能力を高める。 5. 地域を基盤として展開する家族援助の課題を明らかにする。 						

<p>授業計画・ 内容</p>	<p>1. 家庭訪問の実施と事例検討による援助過程の振り返り</p> <p>家庭訪問による継続援助を実施し、事例検討を行う。事例検討の過程でできた疑問や課題に関連する文献を用いた学修も行う。</p> <p><家庭訪問事例について></p> <p>援助対象者の特性は指定しない。事例選定には、最寄りの市町村、保健所、訪問看護ステーション等の協力を得る。</p> <p><家庭訪問援助の事例検討></p> <p>家庭訪問の計画・実施（訪問時の状況を含む）・評価・今後の援助計画のプロセスを踏んだ記録を作成する。特に様式は指定しないので、自分で項目をたてて作成する。訪問記録作成には、領域実習の記録用紙の項目を参考にしてもよい。事例検討の時には、この記録を使って家庭訪問を行なった都度事例検討を行なう。</p> <p>2. 事例検討のすすめ方</p> <p>目的：自己の援助過程を振り返り、他者からの助言を得て対象理解を深めるとともに、対象者の援助ニーズに沿った援助方法を検討する。</p> <p>実施日時は、家庭訪問の実施状況に合わせて設定する。</p> <p>3. 家庭訪問事例の援助に関する文献検討</p> <p>家庭訪問援助を行う事例の援助に関連する文献検討を行う。</p> <p>家庭訪問事例の援助に関連するキーワードをもとに関連文献を選び、文献の概要と家庭訪問事例との関係についての報告と討議を行う。</p>
---------------------	---

<p>授業計画・ 内容</p>	<p>4. レポート作成およびレポート発表と討議</p> <p>1) レポート課題</p> <p>課題1 ケースレポート 家庭訪問援助を行なった事例の概要と援助の経過概要を示し、自分が行った援助の評価を行なう。</p> <p>課題2 看護専門職が行う家庭訪問援助のあり方・方法に関する学びや意見。 訪問援助を通じてみてきたことや疑問も含めて論述してよい。</p> <p>作成様式：A4 枚数制限なし</p> <p>2) 発表と討議 発表内容の理解を助ける配布資料を用意すること。 目的：発表と討議を通して、本演習科目の課題に関する理解を深める</p> <p>3) レポート提出 上記2)の討議を踏まえてレポート内容を見直して提出する。 自己の援助体験を素材とするとともに、参考図書・文献以外の文献を活用すること。</p> <p>5. 事例検討ならびに課題レポートの評価視点</p> <p>評価視点：家庭訪問援助の展開過程を踏むことができているか 自己の援助を客観視できているか 自己の援助を第三者に理解できるよう整理できているか 自己の援助の振り返りを通して援助の評価ができているか</p>
<p>評価方法</p>	<p>課題達成状況(家庭訪問事例の検討) 30%、ゼミ参加態度 20%、課題レポート 50%</p>
<p>テキスト、 参考書</p>	<p>テキスト：宮崎美砂子 他編集：最新公衆衛生看護学第3版 総論 日本看護協会出版会 渡辺裕子、鈴木和子：家族看護学 理論と実践 第5版 日本看護協会出版会</p> <p>参考書：長江弘子：こう書けばわかる保健師記録 医学書院 その他随時紹介する。</p>
<p>履修上の 注意点</p>	<p>家庭訪問事例の選定に際しては、市町村または保健福祉事務所等の協力を得る必要があるため、指導教員に相談をしてから先方に連絡をとること。 文献・抄読では英語論文を含める。</p>

科目名	地域・在宅看護学演習Ⅱ	科目番号	3434	単位	3	時間	90
教員名	安田貴恵子・御子柴裕子 柄澤邦江・小野塚元子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	<p>地域看護活動（公衆衛生看護活動および在宅看護活動）の展開方法（地区・地域診断、活動計画の作成、実施、評価）に必要な能力を養い、地域のニーズに沿った看護活動のための実践能力の向上を図る。活動展開の理論を学ぶとともに、フィールドワークに取り組む。具体的には、学生が所属する組織の特性や研究課題の内容を踏まえて、ヘルスケアシステムの領域を設定し、情報収集、参加観察等を行い、ヘルスケアシステムにおける看護職の役割機能を探究し、論述する。</p>						
ディプロマポリシー（DP）との関連	<p>◎M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p> <p>○M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力</p>						
目標	<p>課題1. 地域の課題解決に向けて行われる看護実践ならびにマネジメントの実際を明らかにし、地域ケア体制づくりに貢献する看護職の課題を検討する。</p> <p>目標：地域で看護活動を行う看護職に求められる能力は、個人・家族・集団を対象としたサービス提供にとどまらず、ニーズ把握とそれに対応したサービスの創出（事業化・施策化）、保健医療福祉サービスの質の管理など、直接的援助から間接的援助に広がってきている。このような現状を踏まえて、看護職（保健師・看護師）に求められる判断能力、援助技術、マネジメント能力等について論述することができる。</p> <p>課題2. 課題1で取り組んだテーマについて、系統的な文献検討を行い、研究の動向、研究により明らかになった知見を整理し、実践活動の発展に向けた看護研究の課題を検討する。</p> <p>目標：テーマに沿った系統的な文献検索の方法、文献レビューの方法を修得し、先行研究による知見と看護実践の現状、地域の課題などを照らし合わせ、看護研究の課題を論述することができる。</p>						
授業計画・内容	<p>【課題1】</p> <p>(1) 活動領域や活動方法を選定する（テーマ）。</p> <p>(2) 選定したテーマの実践において看護職に求められる能力を文献や資料を用いて整理し、看護職に求められる能力について理解を深める。</p> <p>(3) 選定したテーマの実践活動について情報収集を行い、看護職の役割機能について考察する。</p> <p>①テーマに関連するヘルスケアシステム（施策・対策・保健福祉事業、医療サービス等）について、現地に出向いて活動の実際と看護職のかかわりについて、情報収集を行う。できるだけ複数の実践活動について調べて、看護活動の全体像を把握する。看護職者から話を聞くだけでなく、保健福祉事業や看護活動の場にも参加して、対象者からのヒアリングも試みる。</p>						

<p>授業計画・ 内容</p>	<p>② ①で行った情報収集内容とレポート2についての報告・討議を行なう。</p> <p>1) 報告・討議の後にレポートを作成 レポート1. テーマとした活動領域のヘルスケアシステムの現状分析 レポート2. テーマとした活動領域における看護職に求められる役割 様式は、A4 枚数制限なし。</p> <p>2) 評価 発表、レポート内容から評価する。 レポートの評価観点 ①テーマとした活動領域のヘルスケアシステムの現状を分析できている ②テーマとした活動領域における看護職の役割や能力を検討できている ③読み手を考慮したわかりやすい表現や書き方の工夫をしている ④文献の引用、活用が適切に行なわれている</p> <p>【課題2】</p> <p>(1) 系統的な文献検索を行い、テーマに即した文献を選定、収集する。 (2) 収集した文献を抄読し、クリティークを行う。 (3) テーマの目的に沿って、収集した文献の内容を整理、要約する。 (4) 研究の動向、すでに明らかになっている知見をもとに、看護実践の改善に向けた課題を検討し、その報告にもとづく討議を行う。 (5) 上記の(1)～(4)のプロセス複数回くりかえす。</p> <p>1) 報告・討議の後に文献レビューとしてレポートを作成し、研究計画を検討する。 様式は、A4 枚数制限なし。</p> <p>2) 評価 発表、レポート内容から評価する。 レポートの評価観点 ①適切なキーワードを設定し、系統的な文献検索ができている ②入手した文献の内容を目的に沿って分析できている ③対象とした文献の内容の分析結果をもとに、課題を述べている ④読み手を考慮したわかりやすい表現や書き方の工夫をしている</p>
<p>評価方法</p>	<p>課題1 レポート 50%、課題2 レポート 50%</p>
<p>テキスト、 参考書</p>	<p>テキスト：宮崎美砂子他責任編集、最新公衆衛生看護学第3版総論、日本看護協会出版会 北山三津子他責任編集、最新公衆衛生看護学第3版 各論1、各論2、日本看護協会出版会 箕浦康子編著、フィールドワークの技法と実際、ミネルヴァ書房</p> <p>参考図書および文献は、随時紹介する。</p>
<p>履修上の 注意点</p>	<p>課題1の情報収集は、市町村、保健福祉事務所ならびに訪問看護ステーション、医療機関等の協力を得る必要があるため、指導教員に相談してから先方に連絡をとること。</p>

里山・遠隔看護学分野

科目名	里山・遠隔看護学特論 I	科目番号	3441	単位	2	時間	30	
教員名	吉村 隆	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>里山を「限定された地域における人間と自然との持続可能な相互依存関係」と捉え、里山の自然的、人口学的、保健システム論的、社会的、文化的成立要件等について考究する。さらに、上記の成立要件をもとに長野県の農山村や開発途上国の農山村・島しょにおける健康資源の発見および開発のための視座と方法論について探究し、健康資源を人々の健康・長寿・繁栄に役立てる方途について検討する。加えて、里山看護実践に関わる遠隔看護の現状と課題について文献検討する。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力</p>							
目標	<p>・里山に関する共通認識を得るために、歴史的背景、長野県/日本および世界各地の里山の概要、里山保全活動に関する知識を得る。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	総論					吉村 隆	
	2	里山看護についての概要 (講義)					吉村 隆	
	3	里山/里山看護の歴史的背景 (講義)					吉村 隆	
	4	長野県/日本における里山の現状と今日的課題(1) (セミナー)					吉村 隆	
	5	長野県/日本における里山の現状と今日的課題(2) (セミナー)					吉村 隆	
	6	長野県/日本における里山の現状と今日的課題(3) (セミナー)					吉村 隆	
	7	長野県/日本における里山の現状と今日的課題(4) (セミナー)					吉村 隆	
	8	長野県/日本における里山の現状と今日的課題(5) (セミナー)					吉村 隆	
	9	世界各地の里山の現状と今日的課題 (講義)					吉村 隆	
	10	世界各地の里山の現状と今日的課題(1) (セミナー)					吉村 隆	
	11	世界各地の里山の現状と今日的課題(2) (セミナー)					吉村 隆	
	12	世界各地の里山の現状と今日的課題(3) (セミナー)					吉村 隆	
	13-14	総合討論 (セミナー)					吉村 隆	
	15	まとめ					吉村 隆	
評価方法	出席とセミナーへの参加度(発言等)80%、学生のプレゼンテーション 20%							
テキスト、参考書	<p>テキスト等：その都度プリントを配布する。 参考書：その都度紹介する。</p>							
履修上の注意点	<p>セミナーでは事前に課題を課すので、そのことについて調査し授業で発表してもらう。加えて、講義/セミナーでは積極的に発言することが求められる。</p>							

科目名	里山・遠隔看護学特論Ⅱ	科目番号	3442	単位	2	時間	30
教員名	座馬 耕一郎	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	里山を「生活の場」「健康の場」としてとらえ、里山の環境と人間の生活との相互作用を生態、文化、歴史、社会の側面から検討し、健康資源の発見と開発のための方法を探求する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M3 研究プロセスの遂行に必要な能力						
目標	1. 里山の環境と人間の生活の理解に関する研究手法を身に付ける。 2. 里山について生態、文化、歴史、社会の側面から理解を深める。 3. 里山の健康資源を発見し、開発する力を養う。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	「生活の場」「健康の場」としての里山				座馬耕一郎	
	2～4	里山の環境と人間の生活の生態的側面				座馬耕一郎	
	5～7	里山の環境と人間の生活の文化的側面				座馬耕一郎	
	8～10	里山の環境と人間の生活の歴史的側面				座馬耕一郎	
	11～13	里山の環境と人間の生活の社会的側面				座馬耕一郎	
	14～15	里山の健康資源の発見と開発				座馬耕一郎	
評価方法	参加度（発言等）70%、学生のプレゼンテーション30%						
テキスト、参考書	テキスト：随時、プリントを配布する。 参考書：適宜、紹介する。						
履修上の注意点	積極的に発言することが求められる。						

科目名	里山・遠隔看護学特論Ⅲ	科目番号	3443	単位	2	時間	30	
教員名	秋山 剛、吉村 隆	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	「生活の場」「健康の場」としての里山の新たな社会システム構築の可能性について、日常生活自立度の低下した人々や障害者とその家族への健康支援を、疫学的視点から探求する。							
ディプロマポリシー(DP)との関連	○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力							
目 標	1. 医療・看護の基礎となる疫学的研究手法について、その理論と実際について理解を深める。 2. 農山村における持続的・安定的・循環的なローカル・オプティマムを実現する社会システムについて、疫学的視座から理解を深める。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	総論					秋山 剛 吉村 隆	
	2	疫学的研究手法について（公衆衛生の意義）① 講義					秋山 剛	
	3	疫学的研究手法について（公衆衛生の意義）② 講義					秋山 剛	
	4	疫学的研究手法について（公衆衛生の意義）③ 学生発表					秋山 剛	
	5	疫学的研究手法について（今日の疫学）① 講義					秋山 剛	
	6	疫学的研究手法について（今日の疫学）② 講義					秋山 剛	
	7	疫学的研究手法について（今日の疫学）③ 学生発表					秋山 剛	
	8	疫学的研究手法について（疫学の実際）① 講義					秋山 剛	
	9	疫学的研究手法について（疫学の実際）② 講義					秋山 剛	
	10	疫学的研究手法について（疫学の実際）③ 学生発表					秋山 剛	
	11	自然環境・地球環境の保全と健康について① 講義					秋山 剛	
	12	自然環境・地球環境の保全と健康について② 講義					秋山 剛	
	13	健康資源の発見・開発の視点からの自然環境・地球環境の保全と健康について③ 学生発表					秋山 剛	
	14	健康資源の発見・開発の視点からの自然環境・地球環境の保全と健康について④ 学生発表					秋山 剛	
15	まとめ					秋山 剛 吉村 隆		
評価方法	プレゼンテーション 30%、レポート 30%、授業への参加度（出席回数、発言等） 40%							
テキスト、参考書	テキスト：適宜指定する。							
履修上の注意点	・ゼミ形式の授業であるため、積極的に発言すること。							

科目名	里山・遠隔看護学演習 I	科目番号	3444	単位	6	時間	180
教員名	吉村 隆・秋山 剛・ 座馬耕一郎	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	<p>里山看護学特論 I、II、IIIに関連する課題のうち、主要な課題と受講生が特に関心をもつ課題に焦点を絞り、文献検討、討論、臨地演習を実施する。臨地演習は、里山のフィールドにおける地理的環境の調査、生業活動の参加観察、インタビュー、データの分析、結果の記述などを行う。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力</p>						
目標	<p>里山看護の主要な課題とそれに関連する研究結果、理論、手法等を理解し、研究の現在までの動向や今後の発展の可能性に関する見通しをもつことにより、自身の研究を構想するための視座を得る。</p>						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1-6	里山の特徴とヘルスケアニーズおよび、研究活動の検討				吉村 隆	
	7-12	研究の動向についての文献検討				吉村 隆	
	13-18	里山の環境の調査方法				秋山 剛	
	19-24	里山の環境に関する研究の具体例				秋山 剛	
	25-30	生業活動の調査方法				座馬耕一郎	
	31-36	生業活動の調査の具体例				座馬耕一郎	
	37-42	研究課題の設定と調査地の選定等				吉村 隆	
	43-48	里山のフィールドにおける臨地演習の準備と調査地の概要				座馬耕一郎	
	49-54	里山のフィールドにおける臨地演習 (extensive survey)				担当者全員	
	55-60	里山のフィールドにおける臨地演習 (extensive survey)				担当者全員	
	61-66	里山のフィールドにおける臨地演習 (extensive survey)				担当者全員	
	67-72	里山のフィールドにおける臨地演習 (intensive survey)				担当者全員	
	73-78	里山のフィールドにおける臨地演習の報告				担当者全員	
	79-84	今後の発展の方向性				担当者全員	
85-90	まとめ				担当者全員		
評価方法	発表 (60%)、平常点 (40%)						
テキスト、参考書	<p>テキスト：その都度、プリントを配布する。 参考書：その都度紹介する。</p>						
履修上の注意点	ゼミ形式の授業なので、討論に積極的に参加すること。						

選 択 必 修 科 目

科目名	看護学課題研究	科目番号	3103	単位	6	時間	180
教員名	関係教員	科目種別	選択必修	開講年次		第2学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	専攻する看護学領域における各自の研究課題を明確にし、研究計画書を作成し、研究を実施する。これらの研究プロセスを纏め、看護に貢献しうる研究論文を作成する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ○M4 倫理観をもって看護学研究に取り組む能力						
目標	看護に貢献しうる研究論文を纏め上げる。						
授業計画・内容	各専攻領域の主指導教員および副指導教員の指導をうけ、研究を実施する。 1) 看護における研究課題を、文献検討により明確にする。 2) 明らかになった研究課題に適する研究方法論を学習し、その方法を修得する。 3) 研究計画書を作成し、倫理委員会の審査を経て、調査・実験等を実施する。 4) 調査結果を分析・考察し、看護に貢献しうる看護の示唆を得る。 5) 上記1)～4)の研究プロセスを論文に纏める。						
評価方法	定められた方法によって、修士論文の審査と最終試験を行う						
テキスト、参考書	テキスト：関係教員によって随時紹介するが、学生が必要な文献を広く収集する。 参考書：						
履修上の注意点	修士論文コースの者は、必ず選択すること。						

科目名	看護実践課題研究	科目番号	3104	単位	2	時間	60
教員名	関係教員	科目種別	選択必修	開講年次		第2学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	専攻する実践看護学領域における各自の研究課題を明確にし、研究計画書を作成し、研究を実施する。これらの研究プロセスを纏め、臨床現場の課題の解決に貢献しうる研究論文を作成する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎C4 看護実践の課題探求に取り組む能力 ○C5 学術的な場において研究成果を公表する能力						
目標	臨床現場の課題の解決に貢献しうる研究論文を纏め上げる。						
授業計画・内容	各専攻領域の主指導教員および副指導教員の指導をうけ、研究を実施する。 1) 臨床現場における経験事例を基に、文献検討を行い研究課題を明確にする。 2) 研究計画書を作成し、倫理委員会の審査を経て、調査等を実施する。 3) 調査結果を分析・考察し、臨床現場に貢献しうる看護の示唆を得る。 4) 上記1)～3)の研究プロセスを論文に纏める。						
評価方法	定められた方法によって、修士論文の審査と最終試験を行う						
テキスト、参考書	テキスト：関係教員によって随時紹介するが、学生が必要な文献を広く収集する。 参考書：						
履修上の注意点	専門看護師（CNS）コースの者は必ず選択すること。						

共 通 選 択 科 目

博士前期課程

科目名	看護学原論	科目番号	3501	単位	1	時間	15
教員名	田中広美 伊藤祐紀子	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	看護学の原点を探索し、現在行われている看護実践と実践の基盤にある看護学体系について考察する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	○M1 看護の質的向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2 学術的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち調整する能力						
目標	1. 看護の歴史、看護の位置づけなどを踏まえ看護とは何かを探究する。 2. 看護学及び看護実践を支える概念を探究する。 3. 実践の科学としての看護、臨床の知としての看護学の方法について考察する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	授業スケジュール、進め方の確認 看護の歴史、看護の位置づけ				田中・伊藤	
	2	看護学および看護実践を支える概念の探究 ・下記の概念について探求し、その内容をプレゼンテーションする。 ・ディスカッションを通して理解を深める 実践知/経験知、レジリエンス スピリチュアル/スピリチュアリティ ホリスティック、ケア/ケアリング 自己と他者				田中・伊藤	
	3						
	4						
	5						
	6						
	7	臨床の知としての看護学の方法				伊藤	
8	看護実践学としての看護哲学				田中・伊藤		
評価方法	レポート (40%)、プレゼンテーション (30%)、ディスカッション (30%)						
テキスト、参考書	テキスト：指定書籍なし 随時提示する						
履修上の注意点	学生が学習課題について資料を作成し、プレゼンテーションしながら授業を進める。積極的に参加し、質疑応答や議論することが必要。 ・各学習課題テーマの担当者は、各自の研究課題との関連も含め検討すること。						

※「ディプロマポリシー (DP) との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

科目名	フィジカルアセスメント	科目番号	3502	単位	2	時間	30	
教員名	山内 豊明 田中 広美	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>さまざまな疾患の早期発見・予防を目的としたフィジカルアセスメントの技術・知識を習得する。具体的には、医療面接を通して病歴を聴取し、フィジカル・メンタル・ソーシャルなヘルスアセスメントができるようになること、病状や疾患別にアセスメントを行い鑑別診断につなげられるようにし、その経過を記録できるようになることが求められる。</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連*	<p>○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力</p>							
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの概念について理解する。 2. フィジカルアセスメントの構成・優先度について理解する。 3. 生命維持に関するフィジカルアセスメントを運用できる。 4. 生活を支えるためのフィジカルアセスメントを運用できる。 							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	フィジカルアセスメント総論 アセスメントの構成要素と構築、優先度					山内豊明 田中広美	
	2	フィジカルアセスメントの進め方 臨床推論モデルの様々とその運用					山内豊明	
	3	生命維持に関するフィジカルアセスメント：呼吸器系 酸素化をどう捉えるか					山内豊明	
	4	生命維持に関するフィジカルアセスメント：呼吸器系 バイタルサインにおける呼吸の意義・活用					山内豊明	
	5	生命維持に関するフィジカルアセスメント：呼吸器系 呼吸音聴診の進め方と活用					山内豊明	
	6	生命維持に関するフィジカルアセスメント：循環器系 循環総論					山内豊明	
	7	生命維持に関するフィジカルアセスメント：循環器系 心不全のアセスメント					山内豊明	
	8	生命維持に関するフィジカルアセスメント：循環器系 心音・心雑音					山内豊明	
	9	生命維持に関するフィジカルアセスメント：腎泌尿器系 尿生成、排尿に関するアセスメント					山内豊明	
	10	生命維持に関するフィジカルアセスメント：腹部・栄養 摂食・消化・排泄に関するアセスメント、腹部					山内豊明	

	11	生命維持に関するフィジカルアセスメント：意識レベル 意識レベルの把握、意識障害とその鑑別	山内豊明
	12	生活を支えるフィジカルアセスメント：高次脳機能 高次脳機能評価、失語のアセスメント	山内豊明
	13	生活を支えるフィジカルアセスメント：感覚器系 感覚系のアセスメント、視覚、聴覚	山内豊明
	14	生活を支えるフィジカルアセスメント：運動器系 運動機能の評価：運動機能の構築、ROM	山内豊明
	15	生活を支えるフィジカルアセスメント：運動器系 運動機能の評価：筋力・MMT	山内豊明
評価方法	授業の参加状況（50%）、レポート（50%）		
テキスト、 参考書	必須書籍：山内豊明(2011), フィジカルアセスメントガイドブック第2版, 医学書院. 参考書籍：山内豊明(2023), 緊急度を見抜く！バイタルサインからの臨床推論, 医学書院.		
履修上の 注意点	対面・集中講義形式で行う		

科目名	家族看護論	科目番号	3503	単位	1	時間	15	
教員名	柳原 清子	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		前/後学期		
科目概要	我が国の変容する現代家族を理解し、家族が抱える様々な課題から、包括的な家族支援のあり方を探求する。家族システム理論/家族発達理論をベースに、ナラティブ・アプローチや解決志向型の家族看護方法論を学修する。各論として、家族が関係する倫理調整や意思決定支援（ACP）、退院調整など臨床/在宅の今日的課題について討議し深める。							
ディプロマポリシー（DP）との関連	◎M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ◎C2 専門性を基盤として多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 家族看護における家族理論、概念、目的、アプローチ法を説明できる。 2. 事例分析を通して家族アセスメントと介入法を計画立案ができる。 3. それぞれの専門領域における家族看護の特徴と支援方法が考察できる。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	1. 家族看護の目的およびアプローチ法 1) 家族看護の歴史的発展 2) 家族発達論、家族システム論から見た家族の概念 3) 家族看護の目的およびアプローチ法					柳原清子	
	2	2. 家族看護理論・モデルにもとづく家族アセスメントと介入法(1) 家族システムの特徴と看護介入					柳原清子	
	3	家族看護理論・モデルにもとづく家族アセスメントと介入法(2) McCubbin 家族ストレス対処理論、家族発達理論を使って					柳原清子	
	4, 5, 6	家族看護理論・モデルに基づいた事例検討 自らの「家族対応困難事例」を「解決志向型家族看護モデル:「渡辺式」家族看護分析シート」を用いて分析する					柳原清子	
	7, 8	家族看護 各論 家族看護理論、概念を用いての ACP (SDM) の実際 まとめ (専門領域における家族看護の必要性について)					柳原清子	
評価方法	プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加 (40%)、プレゼンテーションレポート (60%) から総合的に判断する。							

テキスト、参考書	テキスト；指定なし 参考文献；適宜提示する
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は、家族看護の観点から「患者・家族と医療者間」「家族成員間」でコンフリクト（軋轢）が発生している事例を1例準備してください。 ・7～8コマはそれまでの学修をふまえて、それぞれの専門領域における家族看護の必要性についてレポートをもとに全体討議を行います。

科目名	精神科治療学特論	科目番号	3510	単位	2	時間	30	
教員名	東 修、向山隆志	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	精神科臨床で行われる各種の治療技法のうち、生物学的な技法としての薬物療法や身体療法の効果や有害作用の評価方法、身体疾患治療薬と精神症状との関連、および薬物管理と生活調整について学修する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 精神科薬物療法の理論的な根拠とその実際を学修する。 2. 薬物療法を受ける対象の薬物管理と看護における生活調整を学修する。 3. 精神科における身体療法を学修する。 4. リエゾン精神看護における薬物療法の実際を学修する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-2	精神科薬物療法① (統合失調症) ・統合失調症の生物学的基盤と薬物療法の理論的な根拠、薬物療法の実際を学び、看護師として薬物療法を受ける対象の生活調整について学修する。 [事前課題] 事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (講義・学生－教員間での討議)					向山隆志	
	3	精神科薬物療法② (抑うつ症群・双極症群) ・抑うつ症群・双極症群の生物学的基盤と薬物療法の理論的な根拠、薬物療法の実際を学び、看護師として薬物療法を受ける対象の生活調整について学修する。 [事前課題] 事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (講義・学生－教員間での討議)					向山隆志	
	4	精神科薬物療法③ (神経認知障害群) ・神経認知障害群の生物学的基盤と薬物療法の理論的な根拠、薬物療法の実際を学び、看護師として薬物療法を受ける対象の生活調整について学修する。 [事前課題] 事前に提示された関連文献等を調べてまとめておく。 (講義・学生－教員間での討議)					向山隆志	

	5	<p>身体疾患治療薬と精神症状の関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体疾患治療と精神症状の関連および向精神薬と身体疾患治療薬の相互作用を学び、看護師として薬物療法を受ける対象の生活調整について学修する。 <p>〔事前課題〕 授業前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (講義・学生－教員間での討議)</p>	向山隆志
	6-7	<p>精神科に使用される薬物と薬物療法の基本的考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・向精神薬の種類と基本的な薬理作用を学修する。また、精神科薬物療法が患者の身体に与える影響について学修する。 <p>〔事前課題〕 ・向精神薬の種類と薬理作用（薬力と薬物動態）について、関連文献で探索し、プレゼンテーションの準備をする。また、薬物療法における疾病中心モデル、薬物作用モデルについて、事前に提示された関連文献を調べてまとめておく。 (プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修 (外部講師)
	8-9	<p>薬物療法と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科薬物療法とその効果、副作用について学び、看護師として必要な薬物療法のモニタリング、看護援助について学修する。 <p>〔事前課題〕 事前に提示された関連文献で探索し、薬物の効果、副作用、生活への影響について、プレゼンテーションの準備をする。 (プレゼンテーション・学生－教員間での討議)</p>	東 修 (外部講師)
	10-11	<p>リエゾン精神看護における薬物療法の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合病院におけるリエゾン精神看護専門看護師の活動と事例を用いた薬物療法の実際を学び、看護師としての援助を検討する。 <p>〔事前課題〕 リエゾン精神看護専門看護師の役割や実践について、関連文献を探索し、まとめておく。また、リエゾン領域における薬物療法、特にせん妄の状態像と使用される薬剤について調べておく。 (講義・学生－教員間での討議)</p>	東 修

	12-13	<p>精神科における身体療法（歴史的な身体療法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科における身体療法の歴史的変遷から、精神科治療としての身体療法のあり方、対象がおかれてきた処遇について検討する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>歴史的な身体療法：マラリア、発熱療法、インスリンショック療法、ロボトミーの中から、2つの療法を選択し、関連文献を調べて、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
	14-15	<p>精神科における身体療法（神経調節療法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科で実施されている各種の身体療法について、その適応や留意点、援助の方法について学修する。 <p>〔事前課題〕</p> <p>神経調節療法：m-ECT、r TMS、VNSの中から、一つの療法を選択し、関連文献を探索し、その治療法の根拠と適応、留意点や援助方法をプレゼンテーションでできるよう、準備する。</p> <p>（プレゼンテーション・学生－教員間での討議）</p>	東 修
評価方法	プレゼンテーション（50%）、ゼミの参加度（20%）、レポート（30%）		
テキスト、参考書	<p>テキスト 参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本総合病院精神医学会治療指針 1：せん妄の臨床指針第 2 版、星和書房、2015. 2) 日本総合病院精神医学会治療指針 5：向精神薬・身体疾患治療薬の相互作用に関する指針、星和書房、2011. 3) J・モンクリフ著、石原孝二・松本葉子・村上純一・高木俊介・岡田愛：精神科の薬について知っておいてほしいこと、日本評論社、2022. <p>その他、授業の際に別途提示する。</p>		
履修上の注意点	<p>講義形式や動画教材を用いた演習形式、ゼミ形式で進めます。</p> <p>一部を集中講義形式で行います。</p> <p>精神看護専門看護師コースのための専門的な内容となっています。それ以外のコースの方が受講を希望する場合は、事前にご相談ください。</p>		

科目名	看護心理学	科目番号	3511	単位	2	時間	30	
教員名	松本 淳子	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	看護・保健活動においては人との関わりが日常であり、ヒトの行動や心的活動を追究する学問である心理学は、看護・保健活動と深く関わるものと考えられる。本科目では、社会心理学の領域を取り扱い、チームワークについて学ぶ。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M3 研究プロセスの遂行に必要な能力							
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームワーク及び精神的健康について学び、社会心理学、健康心理学に関する基礎的知識を修得する。 ・ 文献を丁寧に読む習慣、調べる習慣を身につける。 ・ 臨床場面で起こる事柄を、学んだ知見をもとに考察する。 							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	オリエンテーション					松本	
	2～13	「チームワークの心理学—持続可能性の高い集団づくりをめざして—」 1. チームワークを心理学的に研究することの意味 2. チームワークを可視化する—測定への挑戦— 3. チームワーク発達論—チームワークが生まれるメカニズム— 4. チームワークの効果性—チーム・プロセスへの影響— 5. 優れたチームワークを育むには 6. チームワークの社会心理学的研究のこれから					松本	
	14, 15	看護師のキャリア発達と精神的健康 (well-being)					澤田 (時間講師)	
評価方法	発表及びディスカッションへの参加							
テキスト、参考書	テキスト： 山口裕幸(2024). セレクション社会心理学 24 新版 チームワークの心理学—持続可能性の高い集団づくりをめざして— サイエンス社							
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪読が主になりますので、受講を希望する場合は、事前にご連絡下さい。 ・ 授業日程は履修者の方々との相談により、決定します。土日祝や夜間、集中講義形式の開講、遠隔会議システム (Zoom, その他) の利用も可能です。時間割の日時とは異なることがありますので、ご注意下さい。 							

科目名	質的研究方法論	科目番号	3505	単位	1	時間	15
教員名	伊藤祐紀子	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	インタビューや観察、および得られたデータの分析を行うための基礎知識、概念、理論を学び、主要な調査方法と分析方法をデータと文献によって学ぶ。						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ○C3 倫理的課題への高い感受性を持ち、調整する能力 ◎C4 看護実践の課題探究に取り組む能力						
目標	各種の質的研究方法について学び、調査、分析、結果の記述までを含む一連の研究プロセスを具体例を通して修得する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	質的研究の学問背景、質的研究へのアプローチ				伊藤祐紀子	
	2	質的研究方法の理論と方法① (現象学的研究、グラウンデッド・セオリーの研究、エスノグラフィック研究、歴史研究)				伊藤祐紀子 田中広美	
	3	質的研究方法の理論と方法② (現象学的研究、クラウンデッド・セオリーの研究、エスノグラフィック研究、歴史研究)				伊藤祐紀子 田中広美	
	4	演習：質的研究方法の具体例①				伊藤祐紀子 田中広美	
	5	演習：質的研究方法の具体例②				伊藤祐紀子 田中広美	
	6	質的研究におけるフィールドワークの方法論				座馬耕一郎	
	7	質的研究におけるフィールドワークの具体例1				座馬耕一郎	
	8	質的研究におけるフィールドワークの具体例2				座馬耕一郎	
評価方法	レポート(30%)、発表(50%)、平常点(20%)を総合評価						

<p>テキスト、 参考書</p>	<p>テキスト：必要に応じてプリントを配付する。 参考書： (1) 箕浦康子（1999）：フィールドワークの技法と実際 (2) Graneheim UH & Lundman B（2004）：Qualitative Content Analysis in Nursing Research, Nurse Education Today, 24: 105-112. (3) 寺嶋秀明・篠原徹（2002）：エスノサイエンス，京大出版会 (4) 綾部恒雄編（1994）：文化人類学の名著 50，平凡社。 (5) ホロウェイ・ウィーラー著/野口美和子監訳（2006）：ナースのための質的看護研究入門（第2版），医学書院。 (6) ウヴェ・フリック著/小田博志，山本則子，春日常他訳（2011）：新版質的研究入門〈人間の科学〉のための方法論，春秋社。</p>
<p>履修上の 注意点</p>	<p>講義はオンライン参加可能だが、演習は対面での参加を推奨する。</p>

科目名	環境疫学特講	科目番号	3304	単位	1	時間	15
教員名	秋山 剛	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	様々な環境要因が感染症の伝播に影響を与えている。また近年は生態系の変化や地球環境問題と、新興・再興感染症といった健康問題との関係が注目を集めている。本特講では、特に環境と熱帯感染症の関わりについて、最新の疫学の動向に注目し、参加者で近年の動向や文献検討をゼミ形式にて行う。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ○M5 学術的な場において研究成果を公表する能力 ◎C2 多職種と協働し、調整する能力 ○C4 看護実践の課題探求に取り組む能力						
目 標	1. 熱帯感染症の伝播と環境との関わりについての基本的知識を得る。 2. 疫学に関する基本的知識を得る。 3. 科学論文をクリティークする。						
授業計画・内容	回	授業計画・内容					
	1	総論					
	2	感染症の疫学					論文抄読
	3	熱帯感染症の疫学 マラリア					論文抄読
	4	マラリアと環境、感染伝播 ①					論文抄読
	5	熱帯感染症の疫学 住血吸虫症					論文抄読
	6	Neglected Tropical Diseases と環境					論文抄読
	7	地球環境問題と疾病					論文抄読
	8	まとめ					
評価方法	プレゼンテーション内容 50% ゼミの参加度 50%						
テキスト、参考書	授業中に必要に応じ指示する。						
履修上の注意点							

科目名	言語文化特講 I	科目番号	3506	単位	2	時間	30	
教員名	戸鹿野友梨	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	看護に関する英語文献の読解を通して、英語論文を読むために必要な文法・語彙に関する知識を身につける。また、個人の研究テーマに合わせて、最新の英語論文を読解し理解を深めていく。							
ディプロマポリシー (DP) との関連*	◎M5 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力 ○M2 自らの専門性について学術的な視野をもって俯瞰する能力							
目標	1. 看護に関する英語論文の読解に必要な英語の文法・語彙に関する知識を身につける。 2. 看護に関する英語論文の読解能力を高める。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	オリエンテーション					戸鹿野	
	2	5文型、英語文献の読解					戸鹿野	
	3	不定詞、英語文献の読解					戸鹿野	
	4	不定詞、英語文献の読解					戸鹿野	
	5	分詞、英語文献の読解					戸鹿野	
	6	関係詞、英語文献の読解					戸鹿野	
	7	英文読解の発表					戸鹿野	
	8	英文読解の発表					戸鹿野	
	9	英文読解の発表					戸鹿野	
	10	英文読解の発表					戸鹿野	
	11	英文読解の発表					戸鹿野	
	12	英文読解の発表					戸鹿野	
	13	英文読解の発表					戸鹿野	
	14	英文読解の発表					戸鹿野	
15	まとめ					戸鹿野		
評価方法	レポート：50% プレゼンテーション：50%							
テキスト、参考書	随時、文献を紹介する。							
履修上の注意点								

科目名	健康支援と社会保障特講 I	科目番号	3307	単位	2	時間	30	
教員名	◎吉村 隆 渋谷 美香	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	少子高齢化に伴う社会保障費の増大や経済のグローバル化によって、わが国の保健医療福祉システム／政策が変革を迫られている。本科目では Health Care Policy の理論と実践に関する基礎知識とわが国および先進諸国(米国、英国、カナダ等)の社会保障システム／政策の現状と課題及び展望、看護制度・政策の現状と課題、政策立案過程への参画について学修する。							
ディプロマポリシー (DP) との関連*	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C2 多職種と協働し、調整する能力 ○C4 看護実践の課題探求に取り組む能力							
目 標	1. Health Care Policy の理論と実践に関する基礎知識を理解する。 2. わが国の経済と財政及び社会保障の動向を理解する。 3. わが国の保健医療福祉の動向を理解する。 4. わが国の医療保険と介護保険の現状と課題を理解する。 5. 先進諸国における保健医療福祉の動向を理解する。 6. わが国の看護政策の現状と課題及び政策立案過程への参画について理解する。 7. 今後の展望等について探求する。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	1. Health Care Policy の理論と実践に関する基礎知識(講義) 1) Health Care Policy の基礎知識・諸理論					吉村 隆	
	2	2) Health Care Policy の諸理論					吉村 隆	
	3	3) Health Care Policy の今日的課題					吉村 隆	
	4	4) 事例から見る Health Care Policy					吉村 隆	
	5	2. わが国の経済と財政及び社会保障の動向(講義) (1) わが国の経済と財政の動向					吉村 隆	
	6	(2) わが国の社会保障の動向					吉村 隆	
	7	3. わが国の保健医療福祉の動向(ゼミ) (1) わが国の保健医療					吉村 隆	
	8	(2) わが国の福祉の動向					吉村 隆	
	9	4. わが国の医療保険と介護保険の現状と課題(ゼミ) (1) わが国の医療保険の現状と課題					吉村 隆	
10	5. わが国の看護政策の現状と課題					渋谷 美香		

	11	6. 看護制度・政策立案過程への参画	渋谷 美香
	12	7. 先進諸国における保健医療福祉の動向(ゼミ) 米国、英国、カナダ	吉村 隆
	13	8. 看護の果たす役割(ゼミ)	吉村 隆
	14-15	7. 今後の展望(ゼミ)、まとめ	吉村 隆
評価方法	プレゼンテーション 50%、講義/ゼミ参加度 50%		
テキスト、参考書	随時文献・図書を紹介する。		
履修上の注意点	ゼミでは事前に課題を課すので、そのことについて発表してもらおう。加えて、講義/ゼミでは積極的に発言することが求められる。		

科目名	量的研究方法論	科目番号	3507	単位	1	時間	15
教員名	秋山 剛 渡辺みどり	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	本講義では、統計解析ソフト SPSS を用いてデータ入力・解析を行いながら、統計的な分析方法を学修する。さらに、多変量解析について、その理論、研究の問いとの関係、得られた結果の見方、応用法等について学修するとともに、看護学研究論文のクリティークを通して活用方法の実際を学ぶ。						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	◎M3 研究プロセスの遂行に必要な能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C4 看護実践の課題探求に取り組む能力 ○C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力						
目 標	1.量的研究における SPSS を用いた解析方法を理解する。 2.多変量解析の理論的基礎と応用について理解する。 3.看護学研究における多変量解析の実際を理解する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	SPSS の使用法 基本 記述統計他				秋山 剛	
	2	多変量解析の基礎				秋山 剛	
	3	重回帰分析・多項ロジスティック回帰分析の基礎と応用				秋山 剛	
	4	主成分分析と因子分析の基礎と応用				征矢野あや子	
	5	共分散構造分析の基礎と応用				征矢野あや子	
	6	多変量解析を用いた看護学研究論文のクリティーク①				渡辺みどり	
	7	多変量解析を用いた看護学研究論文のクリティーク②				渡辺みどり	
8	多変量解析を用いた看護学研究論文のクリティーク③				渡辺みどり		
評価方法	授業への参加状況（出席、発言等）40%，課題提出 60%						
テキスト、参考書	参考図書：中山和弘・看護学のための多変量解析入門・医学書院 参考文献：その都度紹介する。						
履修上の注意点	授業の前半に講義、後半は討議を行うので、学習内容についての予習を行い、準備して臨む。						

科目名	語法特殊講義	科目番号	3314	単位	2	時間	30
教員名	戸鹿野友梨 滝沢秀男	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	英語文献読解に不可欠な語法・文法について講義する。英文理解に必要な文法事項を優先順位に従って整理し、受講生が英文法の骨格を修得することを目標とする。受講生は、「なぜ」という疑問を大切にし、それぞれの文法事項の本質をつかむことが期待される。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M5 学術的な場において研究成果を公表する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C5 学術的な場において研究成果を公表する能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力						
目標	授業で扱う文法基礎必須例文を修得し、英文法の骨格を自分のものとする。 (基礎英文が身についているかどうかをテスト形式で確認する。) 精読するために、文法の力がいかに大切であるかを深く理解する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	看護英語文献の語法に関する総論				滝沢秀男	
	2-8	優先順位に従った文法事項1~20				滝沢秀男	
	9-12	文法事項21~29 併行して、文法に沿った精読の演習				滝沢秀男	
	13	必須例文を修得できたかをテスト形式で確認				滝沢秀男	
	14-15	文法に沿った精読の演習、まとめ				滝沢秀男	
評価方法	課題達成状況 50 % 出席と平常点 50%						
テキスト、参考書	テキスト：講義用に作成したプリント教材等 参考書：授業内で必要に応じて言及する。						
履修上の注意点	本講座は基礎を扱うが、通常の基礎の扱い方ではなく、文法の論理と発想の根元にまで言及する。「なぜ」という疑問を大切にし、主体的に授業に参加することが大切である。						

科目名	看護海外研修	科目番号	3315	単位	1	時間	15	
教員名	渡辺 みどり	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	<p>本学と学術交流を行っている University of San Francisco(USF)、Samuel Merritt University(SMU)等を訪問し、そこで行われている授業や演習などに参加し、教育方針や教育戦略などについて理解を深めることをねらいとする。また、各自の関心や研究テーマについてディスカッションする機会を持ち、視野を広げ、積極的に課題を追究する態度を養う。</p>							
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎M5 学術的な場において研究成果を公表する能力 ○M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力</p>							
目標	<p>1. 自己の課題について日本の特徴や文化を踏まえ USF, UCSF の教員、学生が理解しやすいように纏め、プレゼンテーションができる 2. 米国の看護について実際を知り、公正・批判的に考えられる力を養う。 3. 米国の看護の実際を知り、日本の看護について洞察を深めることができる。 4. 見聞したことを自分の学びとして纏め、他者に伝える伝達能力、表現力を高める機会とすることができる。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	オリエンテーション					渡辺みどり	
	2	看護海外研修における自己の課題の追究 課題プレゼンテーションの翻訳とネイティブチェック					渡辺みどり	
	3	看護海外研修における自己の課題の追究 課題プレゼンテーションの翻訳とネイティブチェック					渡辺みどり	
	4	現地での学習 グループディスカッション					渡辺みどり	
	5	現地での学習					渡辺みどり	
	6	現地での学習					渡辺みどり	
	7	現地での学習					渡辺みどり	
	8	まとめと研修報告会におけるプレゼンテーション					渡辺みどり	
評価方法	<p>各自の課題をプレゼンするための準備 20% 現地での課題の追究、ディスカッション参加度 50%、課題の発表とレポート 30%</p>							
テキスト・参考書	<p>テキスト：随時文献・図書を紹介する 参考書：</p>							
履修上の注意点	<p>履修時期は2月～3月の連続する5日間を予定する。現地での研修のほかに研修する米国の大学で課題についてディスカッションするための準備のゼミがある。最終的には英語のネイティブチェックを受け、準備を整える。現地の授業日程の基本的な流れは、午前・午後は授業参加、その後ディスカッションとする。ただし、研修施設の都合などで変更することがある。</p>							

科目名	看護臨床薬理学	科目番号	3508	単位	2	時間	30
教員名	◎坂田憲昭・中畑千夏 子・江頭有夏・細田江美	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	薬物治療を行うにあたり、対象者の生活調整、回復力の促進および服薬管理能力の向上を図るために、代表的な疾患の成因や発生機序を病態生理学的な側面から理解し、緊急応急措置や症状調整、慢性疾患管理のために臨床の場で頻用される薬物についての薬理学的基礎知識を学ぶ。更に、治療薬の適切な選択や使用法、およびそれらの副作用についても考えていく。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ◎C2 専門性を基盤にして多職種と協働し、調整する能力						
目標	1. 臨床薬理に必要な薬物動態学的及び薬力学的な基礎知識を説明できる。 2. 代表的な疾患に対して用いられる治療薬の作用、副作用および適用を説明できる。 3. 対象者の生活調整、回復力の促進および服薬管理能力の向上を図るために、緊急応急措置、症状調整等、効果的な薬物治療を達成するための薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、症状管理、服薬の管理及び支援に必要となる薬剤の適正な使用を説明できる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	臨床薬理学の基礎：薬物-受容体相互作用 薬剤使用の判断と投与後の患者モニタリング、症状管理、服薬の管理及び支援に必要となる薬理学の基礎を学ぶ。				坂田憲昭	
	2	臨床薬理学の基礎：薬物動態・薬物代謝 薬剤使用の判断と投与後の患者モニタリング、症状管理、服薬の管理及び支援に必要となる薬理学の基礎を学ぶ。				坂田憲昭	
	3	臨床薬理学の基礎：薬物の適正使用と管理 薬剤使用の判断と投与後の患者モニタリング、症状管理、服薬の管理及び支援に必要となる薬理学の基礎を学ぶ。				坂田憲昭	
	4	神経情報伝達物質の薬理学 交感神経作用薬治療薬の作用と副作用を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。				坂田憲昭	
	5	神経情報伝達物質の薬理学 交感神経作用薬の作用と副作用を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。				坂田憲昭	
6	中枢神経系に関わる薬理学：催眠薬・抗不安薬・抗精神病薬 中枢神経疾患治療薬の作用と副作用を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。				坂田憲昭		

	7	<u>中枢神経系に関わる薬理学：抗うつ薬・パーキンソン病治療薬・抗てんかん薬</u> 中枢神経疾患治療薬の作用と副作用を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。	坂田憲昭
	8	<u>心血管系に関する薬理学</u> 高血圧症治療薬の作用と副作用を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。	坂田憲昭
	9	<u>心血管系に関する薬理学</u> 高血圧症治療薬の作用と副作用を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。	坂田憲昭
	10	<u>心血管系に関する薬理学</u> 心不全治療薬・虚血性心疾患治療薬の作用と副作用を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。	坂田憲昭
	11	<u>抗菌療法に関する薬理学：抗菌薬総論</u> 抗菌薬使用の判断と投与後の患者モニタリング、症状管理、服薬の管理及び支援にかかる観点から考察する。	坂田憲昭
	12	<u>抗菌療法に関する薬理学：抗菌薬総論・抗菌薬各論</u> 抗菌薬使用の判断と投与後の患者モニタリング、症状管理、服薬の管理及び支援にかかる観点から考察する。	坂田憲昭 ・中畑千夏子
	13	<u>抗菌療法に関する薬理学：抗菌薬各論</u> 各種抗菌薬の特性を理解し、薬剤使用の判断と投与に伴う患者のモニタリング、症状管理や服薬の管理・支援にかかる観点から考察する。	坂田憲昭
	14	<u>臨床看護判断</u> ：疾患を有する人の看護における症状マネジメントと安全な服薬管理および対象者の生活調整、回復力の促進を含むケア方法について、事例を用いて検討する。	江頭有夏 ・細田江美
	15	<u>臨床看護判断</u> ：高齢者の看護における症状マネジメントと安全な服薬管理および対象者の生活調整、回復力の促進を含むケア方法について、事例を用いて検討する。	細田江美 ・江頭有夏
評価方法	講義への参加 (60%)・レポート (40%)		
テキスト、参考書	テキスト：随時文献・図書を紹介する 参考書：「ハーバード大学テキスト 病態生理に基づく臨床薬理学」メディカル・サイエンス・インターナショナル社		
履修上の注意点			

博士前期課程

科目名	臨床病態学	科目番号	3509	単位	2	時間	30
教員名	◎坂田憲昭・三浦大志 上條明生・那須淳子	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	医療・看護の現場でよく遭遇する主要病態を細胞、組織、遺伝子レベルから学修する。さらに循環異常、炎症、腫瘍など項目別に深く理解し、エビデンスのある看護実践の基盤を築く。						
ディプロマポリシー (DP) との関連*	○M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 専門性を基盤にして多職種と協働し、調整する能力						
目標	病気の成り立ちと回復の促進について、病態生理学的実験手法や症例検討などを取り入れながら、より深く理解・探求する。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	病態生理学的変化を解釈し、それを臨床看護判断に必要なとなる知識と技術につなげるために、疾患の病因・病態に関する臨床的な基礎的知識を理解する。 生命を維持するため、我々の身体は生体機能を一定の範囲内に調整するための動的平衡システムを備えている。これにより身体の恒常性（ホメオスタシス）は保たれ、我々の健康は維持される。この單元では、この恒常性について体液及び電解質の維持・調節機構を例に概説し、その失調によって生じる浮腫や電解質代謝異常の病態生理を学ぶ。				坂田憲昭	
	2	循環器障害 ① 局所循環障害（うっ血、虚血、充血）と全身循環障害（ショック、心不全、DIC）の病態に関する総論的概説				三浦大志	
	3	循環障害 ② 虚血性疾患（動脈硬化、心筋梗塞）などの病態について学ぶ				三浦大志	
	4	循環障害 ③ 循環障害の臨床病態と臨床看護判断についてのグループワーク				三浦大志 上條明生 那須淳子	

	5	代謝障害 代謝性疾患（糖尿病性合併症）などの病態について学ぶ	三浦大志
	6	炎症 ① 炎症の発症機序を概説後、急慢性炎の特徴について理解する	上條明生
	7	炎症 ② 各論的に肺炎、肝炎などの主要臓器の炎症について学ぶ	上條明生
	8	炎症 ③ 炎症の臨床病態と臨床看護判断についてのグループワークを行う	上條明生 三浦大志 那須淳子
	9	腫瘍 ① 腫瘍の発症機序を概説後、良悪性腫瘍の特徴について理解する	中嶋智之 (三浦大志)
	10	腫瘍 ② 各論的に消化器がん（胃がん、大腸がん、膵がん、肝がん）、呼吸器がん（肺癌）などの腫瘍について学ぶ	中嶋智之 (三浦大志)
	11	腫瘍 ③ 腫瘍の臨床病態と臨床看護判断についてのグループワーク	中嶋智之 那須淳子 (三浦大志) (上條明生)
	12	創傷治癒 ① 褥瘡を中心にその予防と治療を理解するため、難治性創傷の原因、発症機序などについて学ぶ	上條明生
	13	創傷治癒 ② 褥瘡の臨床病態と臨床看護判断についてのグループワーク	上條明生 三浦大志 那須淳子
	14	先天異常 ① 遺伝子異常と先天性疾患を理解するため、染色体と遺伝子異常の基本を概説する	三浦大志
	15	先天異常 ② 生活習慣病などの多因子遺伝病について理解を深める	三浦大志
評価方法	レポート（100%）		
テキスト、参考書	テキスト：随時文献・図書を紹介する 参 考 書：随時指定		

博士前期課程

履修上の注意点	外部講師や受講者の状況に応じて授業の日程や内容を微調整することがある
---------	------------------------------------

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

科目名	コンサルテーション論	科目番号	3273	単位	2	時間	30
教員名	◎大石 ふみ子 東 修	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	高度実践看護師に必要なコンサルテーションの理論・概念、タイプとモデル、展開方法を学ぶ。また、具体的な事例、高度実践看護師の実践経験を通して、臨床現場の様々な局面での諸問題に対するコンサルテーションの展開方法や援助方法：アセスメント方法・コミュニケーション技法、問題へのアプローチ方法を学ぶ。コンサルテーションを受けて成長する必要性と、コンサルテーションが活用される組織文化を築き上げる方法について考察する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連*	◎M1 専門分野に関する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C2 専門性を基盤として多職種と協働し、調整する能力						
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンサルテーションの目的と、理論に基づく基本的な考え方について理解できる。 2. コンサルテーションのタイプとモデルを理解できる。 3. コンサルタントとコンサルティそれぞれの役割、必要な能力（知識・技術・態度）について理解できる。 4. コンサルテーションのプロセス（実践から評価まで）を理解できる。 5. 事例分析を通じて、コンサルテーションの知識・技術・態度を高度実践看護師としての実践に活用する方法について考察する。 						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1	コンサルテーションの基本概念が形成されてきた経緯と、高度実践看護師が行うコンサルテーションの目的、定義と意義について学ぶ。				大石ふみ子	
	2	コンサルテーションの理論およびタイプとモデル				大石ふみ子	
	3	コンサルタントとコンサルティの役割、関係性について				大石ふみ子	
	4	コンサルテーションの展開方法①：コンサルテーションにおける具体的介入方法とプロセスについて学ぶ。				東 修	
	5	コンサルテーションの展開方法②：コンサルテーションに必要な知識・技術・態度について学ぶ。				東 修	
	6	CNS のコンサルテーション活動の具体的展開例の検討 ① 精神看護における事例検討（学生による文献等からの事例紹介と討議）				東 修 高村有加	
	7	CNS のコンサルテーション活動の具体的展開の検討② 精神看護における事例検討（学生による文献等からの事例紹介と討議）				東 修 高村有加	

	8	CNS のコンサルテーション活動の具体的展開の検討③ がん看護における事例検討（学生による文献等からの事例紹介と討議）	大石ふみ子
	9	CNS のコンサルテーション活動の具体的展開の検討④ がん看護における事例検討（学生による文献等からの事例紹介と討議）	大石ふみ子
	10	専門看護師によるコンサルテーション① 事例を通じたコンサルティの専門機能の向上を学ぶ	加賀田真寿美
	11	専門看護師によるコンサルテーション② 事例を通じたコンサルタントの教育的役割・組織への介入の実際と要点を学ぶ	加賀田真寿美
	12	コンサルテーションの事例分析と展開方法①	大石ふみ子
	13	コンサルテーションの事例分析と展開方法② 患者中心のコンサルテーションの実際	穂高幸枝
	14	コンサルテーションの事例分析と展開方法③ コンサルティ中心のコンサルテーションの実際	穂高幸枝
	15	看護実践におけるコンサルテーションの現状と課題	大石ふみ子
評価方法	出席状況、ゼミ参加度 40%、レポート／プレゼンテーション 60%		
テキスト、 参考書	<p>参考書</p> <p>川野雅資：コンサルテーションを学ぶ 改訂版，第 2 版，株式会社クオリティケア，2017</p> <p>Ann B Hamric 他 中村美鈴、江川幸二監訳；高度実践看護総合的アプローチ、第 2 版，2020 年 11 月 20 日，p226-249</p> <p>E.H シャイン 稲葉元吉他訳：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと 白桃書房、2017 年（初版第 15 刷）</p> <p>宇佐美しおり,野末聖香：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法,精神看護出版,2009, p 2-33</p>		
履修上の 注意点			

科目名	看護管理学	科目番号	3262	単位	2	時間	30
教員名	◎渋谷美香 井本英津子	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	所属する組織において安全で質の高い看護を実践するには、その職位に関わらず看護管理の知識は重要である。看護管理に関する基礎概念および理論、看護サービスを安全かつ効果的に提供するための組織運営や管理手法、多職種との連携と協働および調整について学び、看護サービスの質向上に向け、看護管理者や高度実践看護師の果たす役割と機能について探求する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連※	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学術的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 専門性を基盤にして多職種と協働し、調整する能力						
目標	1. 組織論や人的資源管理論の観点から、看護管理プロセスを理解できる。 2. 看護サービスの質向上に向けた看護管理者や高度実践看護師の果たす役割と機能について提案できる。 3. 多職種との連携と協働および調整における高度実践看護師および看護管理者の役割と機能について、理解できる。 4. 医療安全管理の現状と課題について理解できる。 5. 医療・看護の質評価の方法、質改善の手法について理解できる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
授業計画・内容	1	講義・討論：看護管理とは (看護管理の定義、看護マネジメントのレベルとプロセス)				渋谷美香	
	2	講義・討論：専門職としての看護職 (専門職としての自律と責務、高度実践看護師・看護管理者としての役割と機能)				渋谷美香	
	3	講義・討論：看護政策・看護制度 (政策実現プロセス、看護活動や看護管理の根拠となる法律、看護職の量の確保と質向上のための施策)				渋谷美香	
	4	講義・討論：ヘルスケアシステムの現状と課題 (人口動態と質的变化、わが国の医療保険制度の特徴と課題、看護に関わる医療・介護制度)				渋谷美香	
	5	講義・討論：看護サービスの提供と組織 (組織構造、組織文化、組織運営、組織開発と変革、チーム機能、リーダーシップとフォロワーシップ)				渋谷美香	

	6	講義・討論：多職種との連携と協働および調整 (市民・多職種との協働、インタープロフェッショナルワーク (IPW)、IPW を推進するための方策)	渋谷美香
	7	講義・演習：組織診断の手法 (組織分析、組織診断、SWOT 分析、マッキンゼー 7 S、統合的コンティンジェンシーモデル、ロジックモデル)	渋谷美香
	8	講義・討論：看護職キャリア開発 (看護職としてのキャリア、キャリア発達、生涯学習)	井本英津子
	9	講義・討議：看護職の人材育成 (スペシャリストとジェネラリスト、人材育成、動機づけ理論)	井本英津子
	10	講義・討論：安全な労働環境と労務管理 (ワークライフバランス、労務管理、労働安全衛生、ストレスマネジメント)	井本英津子
	11	講義・討論：患者安全とリスク管理 (患者安全に関する動向、リスク管理の基本プロセス、事故分析、SHELL モデル、4M-4E マトリクス表、特性要因図・背後要因図、RCA)	井本英津子
	12	講義・討論：安全文化を醸成するための方策 (安全文化、医療安全トレーニング)	井本英津子
	13	講義・討論：看護サービスの質評価と質改善のための方策 (医療の質評価、質改善への取り組み)	井本英津子
	14	課題プレゼンテーションと討論：組織診断① (各自が選択した分析手法を用いた組織診断について 20 分のプレゼンテーションと 10 分のディスカッションを行う)	渋谷美香
	15	課題プレゼンテーションと討論：組織診断② (各自が選択した分析手法を用いた組織診断について 20 分のプレゼンテーションと 10 分のディスカッションを行う)	渋谷美香
評価方法	講義および討論への参加度 (50%)、課題レポート (50%)、課題レポート「看護サービスの質向上に向けた看護管理者や専門看護師の果たす役割と機能」		
テキスト、参考書	毎回、講義資料を配布する。参考文献はその都度、提示する。		

履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、講義（一部演習）と討論、課題プレゼンテーションと討論で構成します。初回に本科目の進め方とプレゼンテーションの課題設定と方法について説明します。 ・討論の際には、各自が所属する組織活動や看護管理実践を客観的に振り返り、問題点に偏ることなくどうあると良いのかについて、自身の意見を述べることを期待します。
---------	---

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

科目名	看護教育・援助論	科目番号	3261	単位	2	時間	30
教員名	◎渋谷美香 井本英津子 田中広美	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	看護教育の特徴、教育内容と方法について学び、看護職者のキャリア発達に関連した継続教育について理解を深め、質の高い看護実践が提供できる人材育成のための教育・指導方法を探求する。また、社会の変化と看護教育制度の変遷を概観し、看護基礎教育および継続教育に関する諸課題について考察する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連※	◎M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ○M2 学術的な視野をもって俯瞰する能力 ◎C1 専門分野に関連する理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 専門性を基盤にして多職種と協働し、調整する能力						
目標	1. 看護実践能力の向上につながる教育方法、その根拠となる理論やスキルを理解し、実践することができる。 2. 看護の専門性を高め、役割を拡大するための専門職教育のあり方について提案することができる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
	1 2	自らの学びを設計するインストラクショナルデザイン 看護の質を高めるための教育的働きかけと環境づくり (ディスカッションに基づく課題抽出)				渋谷美香	
	3 4	看護教育の目的と対象者の特徴 (看護職の組織社会化、経験学習、キャリア開発) 看護教育と学習理論 (X-Y理論、二要因理論、動機づけ理論等)				田中広美	
	5 6	わが国の看護教育制度の変遷 (准看護師制度、看護基礎教育カリキュラム改正等) 看護教育に関する政策動向と制度 (新人看護研修制度、特定行為の研修制度等) 看護職における生涯学習 (キャリア開発、リカレント教育、生涯学習支援)				渋谷美香	
	7 8	授業・研修のデザイン (教育目標の設定、指導計画の策定、授業・研修の教育評価)				井本英津子	

	9 10 11 12	模擬授業・模擬研修の企画（グループか個別ワーク）	井本英津子 田中広美
	13 14	模擬授業・模擬研修のプレゼンテーション （20分プレゼンテーション、10分質疑応答）	井本英津子 田中広美 渋谷美香
	15	模擬授業・模擬研修の振り返りおよび 効果的な教育的関わりに関するディスカッション	井本英津子 田中広美 渋谷美香
評価方法	プレゼンテーション（60%）、ディスカッション（40%）		
テキスト、参考書	<p>■必須図書</p> <p>鈴木克明、美馬のゆり：学習設計マニュアル～「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン．北大路書房．2018.</p> <p>■毎回、講義資料を配布する。参考文献はその都度、提示する。</p>		
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション資料（パワーポイント）は、教員が指定した期日までにメールで提出する。 ・プレゼンテーション以外の授業は講義形式で行うが、テーマごとにディスカッションを取り入れる。 ・各自の看護実践や教育的かかわりを客観的に振り返り、考えを明確にした上でディスカッションに臨むことを期待する。 		

科目名	女性と子どもの健康問題と看護	科目番号	3241	単位	2	時間	30	
教員名	竹内幸江	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		後学期		
科目概要	現代社会において女性と子どもに起こっているさまざまな健康問題やケアニーズについて、その実態の把握方法と、従来の母子看護の考え方を超えた新たな枠組みによる支援等に関する看護方法、研究方法について学ぶ。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎M2 学際的な視野をもって俯瞰する能力 ○M1 看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力 ◎C1 理論的知識を基盤とした高度な看護実践能力 ○C2 多職種と協働し、調整する能力							
目標	1. 子どもの健康問題の現状と課題について学生、教員相互の討論を通して対応を学ぶ 2. 不妊女性及び望まない妊娠における課題と支援に関する最新の知見を学ぶ 3. 現代社会における女性と子どもの多様な健康問題に関する新たな枠組みを理解し、看護の視点から考察できる							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	総論/各自の学習課題の確認					竹内幸江	
	2-3	わが国における子どもの虐待の現状と課題					竹内幸江	
	4-5	歴史的変遷を踏まえ、子育てにかかわる現代女性の諸問題について討議し支援のあり方を考察する。					時間講師	
	6-7	意図しない妊娠に起因する母子の諸問題について討議し支援のあり方を考察する。					時間講師	
	8-9	小児専門病院における医療・看護の現状と課題に関する講義と討議					竹内幸江 時間講師	
	10-11	現代社会における子どもと家族の健康問題の実態把握と課題解決に向けた看護方法に関する講義と討議					竹内幸江	
	12-13	現代社会の子どもの健康問題（貧困、自殺等も含める）とその対応、子どもの権利・子どもの自立/自律を基本にした日常生活/社会生活への支援、子どもの意向を尊重した家族内/外の支援等に関する討議					竹内幸江	
	14-15	女性と子どもに起こっている健康問題やケアニーズを明確にし、看護の立場から有効なアプローチ方法（研究課題）や新たな枠組みの提案を試みる					時間講師	
評価方法	授業への参加状況（発表内容、討論への参加度、発言内容）80%、レポート20%							
テキスト、参考書	テキスト・参考書：随時、文献・図書・資料を紹介する							
履修上の注意点	小児看護 CNS コースの方を対象とする。それ以外の方が受講を希望する場合は、必ず事前にご相談ください。（令和7年度は時間講師の都合で開講しない）							

博士前期課程

科目名	国際看護論	科目番号	3202	単位	1	時間	15	
教員名	上野 里美	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	<p>国際看護に関連する研究論文、具体的な実践や事例などを元に、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた人々の暮らしと保健医療の課題について理解し、在日外国人の現状やグローバルレベルの健康課題を踏まえた上で、SDGs 達成に果たすべき看護の役割と期待、可能性を学ぶ。また、諸外国の看護の在り方を学び、それぞれの国の歴史や文化と看護の形成の知見を深める。</p> <p>授業のねらい：国際看護の視点から導かれる知見をそれぞれの看護に適用する可能性を探る。</p> <p>主要テーマ：国際協力、多文化共生看護、異文化看護</p>							
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎M2 自らの専門性について学際的な視野をもって俯瞰する能力</p> <p>○M1 専門分野に関連する理論的知識を活用して看護の質向上に関わる研究課題を設定する能力</p>							
目標	<p>1. 国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた人々の暮らしと国際保健医療における課題を、国際看護の視点に基づき説明できる。</p> <p>2. 異文化の中で看護の形成に影響を与える要因を探り、国際看護の視点から導かれた知見をそれぞれの看護に適用する可能性について説明できる。</p> <p>3. 現代社会における在留外国人を取り巻く課題が理解でき、その対策を自らの考えとして説明できる。</p>							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1	講師および受講者の紹介 国際看護論（講義）：国際看護の定義と役割						
	2	講義：世界の健康問題と SDGs、多文化共生と看護						
	3	国際看護協力に必要な知識・技術と看護分野の国際協力の実際 ①						
	4	国際看護協力に必要な知識・技術と看護分野の国際協力の実際 ②						
	5	講義：諸外国の看護師の業務と役割 ① タイ・シンガポール 他						
	6	課題発表・意見交換：諸外国の看護師の業務と役割 ②						
	7	課題発表・意見交換：諸外国の看護師の業務と役割 ③						
	8	意見交換・全体のまとめ：国際看護の視点から得られた知見と自身の看護について						

博士前期課程

評価方法	プレゼンテーションの内容および意見交換による課題の達成状況 60%、授業への参加度（出欠席含む） 40%
テキスト、参考書	テキスト：特に用いませんが、課題に関する文献や参考書は適宜提示します。他に各自で必要と考える資料は、各自で準備をして下さい。相談に応じます。
履修上の注意点	初回の授業で時間割の確認および課題の配分を検討しますので、必ず出席して下さい。

Ⅱ

博士後期課程

授業科目一覽

博士後期課程授業科目一覽

授 業 科 目			科目 番号	単位数	時 間 数				
					1年		計		
					前学期	後学期			
必 修 科 目			看護学教育特講	AA01	1		15	15	
			看護学特別研究	AA02	6	通	180	180	
領域別分野専門科目 (6単位)	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30	
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4		120	120	
		看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30	
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4		120	120	
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30	
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4		120	120	
		小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30	
			小児看護学演習Ⅱ	AF02	4		120	120	
	成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30		
		成人看護学演習Ⅱ	AB02	4		120	120		
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30	
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4		120	120	
		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB07	2	30		30	
			精神看護学演習Ⅱ	AB06	4		120	120	
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30	
			地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4		120	120	
		里山・遠隔看護学分野	里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30	
			里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4		120	120	
	共通選択科目 (4単位以上)			ケアの哲学	BA01	2	30		30
				健康心理学特講	BA17	2		30	30
人類学的研究方法論				BA12	2	30		30	
感染生物学特論				BA13	2		30	30	
言語文化特講Ⅱ				BA05	2	30		30	
健康科学特講				BA06	2		30	30	
健康支援と社会保障特講Ⅱ				BA14	2	30		30	
国際看護援助論				BA10	2		30	30	
生命科学特論				BA08	2	30		30	
病理病態学特論				BA15	2	30		30	
現象学的研究方法論				BA16	2	30		30	

必修科目

科目名	看護学教育特講	科目番号	AA01	単位	1	時間	15
担当教員名	渡辺みどり 安田貴恵子	科目種別	必修	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	看護人材の育成に資する教育能力の向上に有用な知識・理論を用いて、社会の変化・医療提供体制の変化に対応した看護学教育のあり方を考察する。その考察を踏まえて、看護学基礎教育または継続教育において、自らの専門領域の専門性を踏まえた教育内容、方法を検討する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎D4 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力 ○D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力						
目標	1. 看護実践能力の向上につながる教育方法、その根拠となる理論やスキルを理解し、その活用方法を説明することができる。 2. 看護実践能力の向上につながる教育内容を検討し、効果的な方法を立案することができる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					
	1～2	学習と認知 認知システムの階層 学習力を支える高次認知機能：メタ認知					
	3～4	教育プログラムの構造と教育評価 教育目標と教育評価の関係 評価のあり方と教育評価の方法原理					
	5～6	専攻する看護専門領域における、社会的ニーズと看護学基礎教育、継続教育の課題の検討					
	7～8	専攻する看護専門領域における、社会的ニーズと看護学基礎教育、継続教育の課題に応じた教育内容・方法の検討					
評価方法	第1回～第4回分50%、第5回～第8回50%とし、それぞれのうち内訳は、ディスカッション(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)とする。						
テキスト、参考書	参考書：三宮真智子、メタ認知で<学ぶ力>を高める、認知心理学が解き明かす効果的学習法 北大路書房、2018.						
履修上の注意点	第1回から第4回は、時間講師による授業を行う。 第5回から第8回は、履修学生が専攻する分野の教員が担当する。						

科目名	看護学特別研究	科目番号	AA02	単位	6	時間	180
担当教員名	関係教員	科目種別	必修	開講年次		第1～3学年	
				開講学期		通年	
科目概要	<p>博士論文の作成は、主指導教員と副指導教員による複数指導体制の指導のもとで行う。学生は選択した専門分野における研究に対し、文献レビュー、研究の前提となる理論あるいは枠組みの基盤を明確にした上で、研究課題の設定から論文作成を行う。また、看護学特別研究では、研究倫理に基づき学際性を備えた高度な看護学研究の遂行能力を修得する。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力</p>						
目標	<p>1. 独立して研究できる能力を修得する。 2. 看護への貢献を期待できる成果を得る。 3. 創造的、独創的な研究をする。</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1 ～ 90	<p>1. 専攻する領域において、興味・関心のあるテーマに関する研究文献をデータベースを用いて検索する。 2. 検索した研究論文等のクリティックを行い、客観的に考察する。 3. 研究テーマに関する文献レビューをまとめる。 4. 文献検討をもとに、研究目的・方法を検討し、研究計画書を作成する。 5. 研究計画書を提出し、発表会で研究計画の審査を受ける。 6. 研究計画書の審査と研究倫理審査を受け、研究の実施に向けた準備を整える。 7. 研究計画書に基づきデータ収集を行い、分析結果を考察する。 8. 博士論文の作成を行う。</p>					
評価方法	<p>研究計画書の立案から博士論文の作成までの全過程などを総合的に評価する。この単位の認定にあたっては、博士論文の審査結果は問わない。</p>						

基礎看護学分野

科目名	基礎看護学特論Ⅲ	科目番号	AI01	単位	2	時間	30
教員名	伊藤 祐紀子 上野 里美 田中 広美	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	基礎看護または国際看護・災害看護の現状を多角的に分析し、課題を明らかにする。課題解決に向けて活用可能な理論、概念、概念モデルについて学び、その適用と限界を分析的に検討する。今後開発が必要な理論や概念、概念モデルについて検討する。						
ディプロマポリシー（DP）との関連*	○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力						
目 標	1. 国内外の文献をレビューより、基礎看護または国際看護・災害看護の現状を多角的に分析し、動向と課題を明らかにすることができる。 2. 基礎看護または国際看護・災害看護に関連する理論、概念、概念モデルを理解し、その適用と限界について分析することができる。 3. 今後開発が必要な理論や概念、概念モデルについて検討することができる。						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1～5	国内外の文献をレビューより、基礎看護または国際看護・災害看護の現状を多角的に分析し、動向と課題を捉える。					
	6～10	基礎看護または国際看護・災害看護に関連する理論、概念、概念モデルについて多角的に分析し、その適用と限界について検討する。 基礎看護：人間、健康、ウェルネス、環境、生活、ケア・ケアリング、人間関係論、援助関係論、疾病・病気・病い、ストレス・コーピング理論、自己効力理論、セルフケア理論、QOL、レジリエンス、看護技術、看護過程など 国際・災害看護：国際協力、健康格差、異文化理論、民族看護学、サンライズモデル、文化的ケア理論、パーネル理論、PCM 手法、多文化共生、災害支援、災害サイクル、災害基本法、災害救助法、災害関連死、1次・2次トリアージなど					
	10～15	これまでの検討を踏まえて、今後開発が必要な理論や概念、概念モデルについて発案したり構想を考えることができる。					
評価方法	プレゼンテーション 50%、ディスカッション 50%						

科目名	基礎看護学演習Ⅱ	科目番号	A102	単位	4	時間	120
教員名	伊藤祐紀子 上野里美 田中広美	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	基礎看護学、または国際看護学・災害看護学に関する国内外の文献をレビューし、それぞれの学域の研究の動向と課題を探究する。各自の研究課題に対する文献レビューを通じて、博士論文としての独自性を明確にする。さらに研究課題の主要な概念について検討し、研究デザイン、方法論を選択し、博士論文研究計画書を作成する。						
ディプロマポリシー（DP）との関連*	◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D2 国内外で学術的な交流をする能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学、または国際看護学・災害看護学に関する国内外の文献をレビューし、それぞれの学域の研究の動向と課題を明確にすることができる 2. 各自の研究課題について国内外の文献レビューを通じて、博士論文としての独自性を検討することができる。 3. 研究課題に関連する主要な概念について検討し、説明することができる。 4. 研究課題に適した研究デザイン、方法論を選択することができる。 5. 博士論文研究計画書を作成することができる。 						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学、または国際看護学・災害看護学に関する国内外の文献に関して系統的に検討し、批判的な検討を行なう。 2. 文献検討よりそれぞれの学域の研究の動向と課題を整理する。 3. 自らの研究課題に関する文献レビューから、博士論文研究としての独自性を明確にする。 4. 研究課題に関連する主要な概念について検討する。 5. 自らの研究課題を明確にするための研究デザイン、方法論を選択し、その方法論に精通する。 6. 自らの研究課題を研究計画書の概要を作成して、研究倫理申請書を作成して承認を得る。 7. 研究課題に関連する論文（副論文）を作成する。論文の投稿から掲載までの過程を体験する。 						
評価方法	レポート 50%、プレゼンテーション 30%、ディスカッション 20%						

看護管理学分野

科目名	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	科目番号	AJ01	単位	2	時間	30
教員名	渋谷美香	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	看護管理、看護基礎教育および看護職の生涯学習の現状を分析の上、課題を明らかにする。その課題解決を視野に入れ、看護管理・看護教育に関連する諸理論や概念を概観し、主要な理論や概念の分析を行う。さらに、看護管理・看護教育領域における研究の動向や課題を検討し、その方向性を探求する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	◎D-DP1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D-DP2 国内外で学術的な交流をする能力						
目標	1. 国内外の文献レビューにより、看護管理、看護基礎教育および看護職の生涯学習の現状を分析し、動向と課題を明らかにすることができる。 2. 看護管理および看護教育に関する諸理論や概念を分析することができる。 3. 看護管理・看護教育領域における研究の動向や課題を考察し、今後のあり方について提言できる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容				担当教員	
授業計画・内容	1～5	国内外の文献レビューにより、看護管理、看護基礎教育および看護職の生涯学習の現状を分析し、動向と課題を明らかにする。				渋谷美香	
	6～10	看護管理および看護教育に関連する諸理論や概念について、その適用と限界について分析する。				渋谷美香	
	11～15	看護管理・看護教育に関連する研究動向や課題を明確化し、今後のあり方について提言できる。				渋谷美香	
評価方法	プレゼンテーション (50%)、ディスカッション (50%)						

※「ディプロマポリシー (DP) との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

科目名	看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	科目番号	AJ02	単位	4	時間	120
教員名	渋谷美香	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	看護管理・看護教育に関する国内外の文献をレビューし、看護管理・看護教育に関する研究動向と課題を探求する。各自の研究課題について、研究のグランドデザインを明確にする。						
ディプロマポリシー(DP)との関連※	◎D-DP4 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力 ◎D-DP1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力						
目標	1. 看護管理・看護教育に関する研究動向と課題を明確にすることができる。 2. 各自の研究課題について、博士論文としての独自性を検討し、研究課題に応じた研究デザインを組み立てることができる。 3. 博士論文研究計画書を作成することができる。						
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員
授業計画・内容	1～10	看護管理・看護教育に関する研究論文のクリティーク					渋谷美香
	11～20	看護管理・看護教育に関する研究動向と課題					渋谷美香
	21～40	看護管理・看護教育に関する研究課題のグランドデザインの構築 ① 研究目的の明確化 (研究の新規性・独創性、研究の意義を確認) ② 研究計画の立案 (現実可能性・研究の限界・知見の一般化について検討) ③ 調査設計と分析方法の確認および研究の発展性についての議論					渋谷美香
	41～60	博士論文研究計画書の作成、倫理審査申請書の作成					渋谷美香
評価方法	レポート50%、プレゼンテーション30%、ディスカッション20%						

※「ディプロマポリシー(DP)との関連」欄

Mは「論文コース」、Cは「専門看護師コース」のDPを示す。

母性・助産看護学分野

科目名	母性看護学特論Ⅲ	科目番号	AC01	単位	2	時間	30	
教員名	古川 亮子	科目種別	専門	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	女性の健康と健康支援に関連する理論について検討すると共に、母性看護学・助産学の発展の歴史について学ぶ。また、母性看護学・助産学の特性と役割を踏まえ、生涯を通じた女性の健康支援の充実を図れるよう研究と実践をめぐる状況への理解を深め、研究の中核となる技法について学ぶ。							
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D2 国内外で学術的交流をする能力 ○D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力							
目標	1. 女性の健康と健康支援に関する理論について説明できる。 2. 母性看護学・助産学の発展に伴った歴史について説明できる。 3. 母性看護学・助産学領域の研究について説明できる。 4. 母性看護学・助産学領域の国内外の研究論文をクリティークできる。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-4	女性の健康と健康支援に関する看護理論について概観すると共に、自らの関心領域の課題について理論による説明を試みる。					古川	
	5-6	国内外の母性看護学・助産学の発展の歴史について理解を深める。						
	7-13	母性看護学・助産学領域の研究について検討する。 ・助産学の研究と実践をめぐる状況 ・研究の中核となる技法について						
	14-15	自ら学んだことをまとめ、報告する。学生のプレゼンテーションを踏まえた討議により進める。						
評価方法	ゼミの発言(30%)や提出された報告書・プレゼンテーション(70%)から総合的に評価する。							
テキスト、参考書	随時提示する。							
履修上の注意点	開講日は履修生と相談し調整する。							

科目名	母性看護学演習Ⅱ	科目番号	AC02	単位	4	時間	120
教員名	古川 亮子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護学・助産学領域における自己の研究課題に即した研究方法について、先行文献のレビューをもとに分析し、研究計画書を作成する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ◎D2 国内外で学術的交流をする能力						
目標	1. 自己の研究疑問を明確にし、研究課題に対する文献検索とクリティークができる。 2. 自己の研究問題を明確化し研究目的明らかにし目的に即した研究方法を定めることができる。 3. 研究計画を作成し、一連の過程を理論的、倫理的に遂行できる。						
授業計画・内容	授業計画・内容					担当教員	
	1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護学・助産学領域の関連する文献について検討する。 2. 研究課題の検討と明確化を行う。 3. 必要に応じ、研究課題に対する予備調査の計画を立案し実施する。 4. 予備調査のデータ分析を行い評価する。 5. 研究計画書を作成する。 これらのプロセスを踏んで演習を進める。 必要に応じて、研究フィールドの許可を得るための文書依頼をする。また、研究計画に対する倫理審査を受ける。					古川	
評価方法	ゼミにおける発言(30%)や提出された研究計画書・結果評価報告書(70%)から総合的に評価する。						
テキスト、参考書	随時提示する。						
履修上の注意点	開講日は履修生と相談し調整する。						

小児看護学分野

科目名	小児看護学特論Ⅲ	科目番号	AF01	単位	2	時間	30
担当教員名	竹内幸江	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	現代社会の中で生活する子どもと家族の健康に関連する様々な概念、理論、実践モデル等を広く学際的な視野から検討するとともに、学生個々の臨床・教育・研究活動の経験および看護観に基づき、健康問題を持つ子どもと家族にみられる看護現象や課題について深く理解する。これらを基に、子どもと家族の生活や健康問題に関与する看護援助方法、研究方法について探究する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと家族の健康及び健康問題に関する研究について、日本および世界の動向を学際的な視野から検討することができる。 2. 自身の臨床経験や教育研究活動のふりかえり、および看護観から取り組む研究課題を検討することができる。 3. 関心領域における子どもや家族の生活や健康問題に関与する看護援助方法および研究方法を探究することができる。 						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>1～5回 文献検討を行い、現代社会の中で生活する子どもと家族の健康に関連する様々な概念、理論、実践モデルを学際的な視野から検討する。(ゼミ)</p> <p>6～10回 関心領域の看護研究のクリティークをおこない、文献で取り上げられている主要な概念、理論、実践モデルについて理解を深める。また、研究方法、研究成果に関して批判的に考察し、新たな看護援助方法・研究方法を探究する。(ゼミ)</p> <p>11～15回 自らの臨床経験、教育・研究活動を詳細に記述し、これまでの文献検討等を踏まえて関心領域の看護の課題、研究課題を検討する。(ゼミ)</p>						
	ゼミでの発言・参加態度(30%)やプレゼンテーション・レポート(70%)から評価する。						
評価方法	ゼミでの発言・参加態度(30%)やプレゼンテーション・レポート(70%)から評価する。						

科目名	小児看護学演習Ⅱ	科目番号	AF02	単位	4	時間	120
担当教員名	竹内幸江	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	<p>小児看護にかかわる実践の場の見学、および経験した事例へのかかわりを通して、看護援助および多職種との協働について実践的に学ぶ。その実践を通じた学びや、国内外の文献検討により関心領域の看護のニーズを明確にし、研究課題を明確化する。さらに研究課題の主要な概念の分析を行うとともに、研究目的に適した研究方法論について探究し、博士論文研究計画に繋げていく。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力</p>						
目標	<p>1. 関心領域の看護の実践現場の見学および事例検討を行い、実践的な学びに基づき、研究課題を明確にできる。 2. 研究課題に関連する主要な概念の分析を行うことができる。 3. 研究課題にふさわしい研究方法論を明確にすることができる。</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>1. 関心領域の臨床現場の看護実践を見学し、実践内容や子どもや家族の反応、看護の成果について考察する。(見学実習・ゼミ) 2. 事例へのかかわりを通して、看護援助方法や多職種の協働について実践的に学ぶ。(見学実習・ゼミ) 3. 国内外の文献検討を行い、研究方法および使用されている概念、および関心領域の看護ニーズを明確にする。(ゼミ) 4. 研究課題に関連する主要な概念分析を行い、プレゼンテーションを行う。(ゼミ) 5. 研究課題に相応しい研究方法を選定し、その理由や方法を詳細に記述する。(ゼミ)</p> <p>以上の検討を基に、研究計画書の作成を行う。</p>						
評価方法	ゼミでの発言・参加態度(30%)やプレゼンテーション・レポート(70%)から評価する。						

成人看護学分野

科目名	成人看護学特論Ⅲ	科目番号	AB01	単位	2	時間	30
担当教員名	柳原清子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>成人期の人々の健康に関する重要な理論や概念、モデルについて学び、その適用と限界などの分析を行う。さらに、成人看護学領域の看護実践で生じている課題を多角的に分析し、その課題を解決するための新たな概念や理論、モデルの開発の必要性について討議する。この概念や理論、モデルの検討を重ねて構築を試みる中で、理論化する能力を養う。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力</p>						
目標	<p>1. 成人期の人々の健康に関連する概念や理論、モデルを詳細に説明できる。 2. 成人看護学領域の文献レビューを通して、研究の動向と課題が説明できる。 3. 成人看護学領域の国内外の研究論文をクリティークできる。 4. 文献レビュー、文献クリティークを通して、成人看護学領域の看護実践で生じている課題を明らかにし、新たな理論や概念、モデルの開発の必要性について説明できる。</p>						
授業計画・内容	<p>1回 文献レビューの基本、システマティックレビュー、スコーピングレビュー、ナラティブレビューについて理解する。 2～3回 成人期の人々の健康に関連する理論や概念、モデルを国内外文献を通して幅広く検索し、概観する。 4～8回 成人期の人々/家族(急性期疾患、慢性病、難病、障がい、がん)の看護理論や概念の内、関心のあるものを2つ選び、和文献・英文献レビューおよびクリティークし、プレゼンテーションを行う。 10～14回 成人看護研究の動向と課題についてプレゼンテーションを行う。 (1) 日本における研究論文を選択しプレゼンテーションする。 (2) 海外における研究論文を選択しプレゼンテーションする。 成人看護学領域の看護実践で生じている課題を多角的に分析し、文献レビューおよびクリティークの結果と照らし合わせて、関心分野で必要となる看護研究課題を明らかにする。 15回 上記の看護研究課題について、いくつかの文献からの概念統合(システマティックレビュー)を行い、新たな概念や理論、モデル開発の洞察を得る。</p>						
評価方法	<p>出席および授業への参加態度・積極性(30%) レポートおよびプレゼンテーション(70%)</p>						

科目名	成人看護学演習Ⅱ	科目番号	AB02	単位	4	時間	120
担当教員名	柳原清子	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	成人看護学領域の看護実践で生じている課題の中から、関心のあるテーマを抽出し、さらに国内外の文献レビューを進めながら、博士論文の研究テーマを絞り込む。研究テーマに関連する主要概念の分析、研究方法の選定等のプロセスを経て、博士論文の研究計画書を仕上げる。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献検討を通して、研究テーマを絞り込むことができる。 2. 研究テーマに関係する概念の「概念分析」をすることができる 3. 研究テーマについて、研究の意義と独自性、主要概念、成人看護学への貢献を説明できる。 4. 研究テーマを明らかにするために相応しい、かつ実現可能性の高い研究方法を選定することができる。 5. 研究テーマに関して、研究の一連の研究過程の中で特に配慮すべき倫理的諸問題を検討できる。(倫理申請を行う。) 6. 独立して研究計画書を作成できる 						
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の文献レビューを通して、博士論文の研究テーマを明確にする。さらに、研究テーマについて、研究の意義と独自性、成人看護学への貢献を検討し、プレゼンテーションを行う。 2. 研究テーマに関連する主要な概念を抽出し、<u>概念分析</u>を行う。テーマとの整合性を検討し、その内容をプレゼンテーションする。 3. 研究テーマを明らかにするために相応しい<u>研究方法</u>を検討するために、国内外の研究論文をナラティブレビュー並びにスコوپingleレビューして、研究方法を選定する。その研究方法の実施/実現可能性および妥当性を討議する。：サブストラクション 4. 研究テーマに関して、研究の一連の研究過程の中で特に配慮すべき倫理的諸問題を討議する。 5. 以上の検討を基盤に、博士論文の研究計画書を作成する。 						
評価方法 学習の進め方	<p>* 授業への参加態度、研究計画書作成までのプロセス・完成度で総合的に評価する。</p> <p>* 毎回ゼミで進行状況や作業成果を報告し、ディスカッションを重ねながら検討を進めていく。事前のレジュメ(ハンドアウト)を準備し、事後は速やかに研究計画書に還元すること。</p>						

老年看護学分野

科目名	老年看護特論Ⅳ	科目番号	AB03	単位	2	時間	30
担当教員名	渡辺みどり	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>高齢者とその家族、それを取り巻く集団の健康・生活課題の解決とQOL向上に必要な実践的看護モデルの開発・構築に必要な概念や理論、研究手法を学ぶ。高齢者、その家族を支援する看護方法の探求に必要な諸事象を分析的に扱い、それに関連した理論を論述する。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D2 国内外で学術的な交流をする能力</p>						
目標	<p>1. 高齢者とその家族、それを取り巻く健康・生活課題の解決、QOL向上に必要な概念や理論を理解する。 2. 高齢者とその家族、それを取り巻く健康・生活課題の解決、QOL向上に必要な実践的看護モデルの開発・構築に必要な研究手法を理解する。 3. 高齢者、その家族を支援する看護方法の探求に必要な諸事象を分析的に洞察する。</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1～3回	高齢者とその家族を取り巻く健康・生活課題の解決に向けた概念と理論について海外文献を用いて検討する。					
	4～6回	高齢者とその家族のQOL向上のための看護モデルについて海外文献を用いて検討する。					
	7～10回	高齢者、その家族を支援する看護方法の探求 高齢者、その家族を支援する看護方法の探求に必要な諸事象を国内外の文献に基づき、分析的に洞察する。					
	11～15回	海外文献を参考に、日本において高齢者とその家族、それを取り巻く健康・生活課題の解決、QOL向上に必要な実践的看護モデルの開発・構築に必要な課題と必要となる研究方法を検討する。					
評価方法	授業への参加態度、レポートにより評価する						

科目名	老年看護演習Ⅱ	科目番号	AB04	単位	4	時間	120
担当教員名	渡辺みどり	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	<p>高齢者とその家族の個別的な健康生活課題の解決と QOL 向上のための看護方法を探求する。さらに、高齢者とそのケア提供者など、集団における相互作用および看護の機能向上に資する支援方法を導く。諸理論、国内外文献、実践的手法を活用し、実践的援助モデルの開発を目指す。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D2 国内外で学術的な交流をする能力</p>						
目標	<p>1. 高齢者とその家族の個別的な健康生活課題解決と QOL 向上に必要な看護方法を探究する。 2. 高齢者個人とそれを取り巻く家族および集団の相互作用について看護視点から分析的に考察する。 3. 高齢者とその家族およびそれを取り巻く集団への看護方法、実践的看護モデルについて国内外の諸理論、文献を用いて考察する。</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1～5回	高齢者とその家族の個別的な健康生活課題の解決と QOL 向上のための看護方法について国内外の文献を用いて検討する。					
	6～10回	高齢者とそのケア提供者の相互作用とその機能向上に関する国内外の研究動向を文献検討により概観する。また、それに関わる今日的な看護研究課題を討議により明らかにする。					
	11～24回	高齢者とその家族およびそれを取り巻く集団への看護方法に関する国内外の研究動向を文献検討により概観する。また、それに関わる今日的な看護研究課題について討議する。					
	25～44回	高齢者とその家族およびそれを取り巻く集団を対象とした実践的看護モデルの構築に必要な研究課題を達成しうる研究方法について考察する。					
	45～60回	高齢者とその家族およびそれを取り巻く集団を対象とした看護介入方法および実践的看護モデルに関する研究について、老年看護学における学際的意義と適用可能性、および実現可能性について検討する。					
評価方法	レポート、授業への参加態度						

地域・在宅看護学分野

科目名	地域・在宅看護学特論Ⅲ	科目番号	AG01	単位	2	時間	30
教員名	安田貴恵子 柄澤 邦江	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>あらゆる健康レベルにある人々の生活条件に即した看護援助の方法について、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 行動科学的アプローチに基づき対象者の認識に働きかける方法、 2) 対象者を含む家族を1つの援助単位としてとらえ、家族のセルフケア能力の向上をめざした援助方法、 3) ケア資源の有効な活用のための方法等について、文献を用いて検討する。 <p>対象者のニーズに対応させてケアサービスを組織化し、管理・調整する看護の方法として、ケアチームづくり、保健医療福祉サービスの事業化などの展開方法を分析し、活動の構造を論述する。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎【D-DP-1】看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力</p> <p>○【D-DP-3】学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力</p>						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動科学的アプローチの理論に基づいて、個別援助の事象を分析することができる。 2. 家族システム理論、家族アセスメント理論を活用して家族支援の事象を分析することができる。 3. 地域ケアシステムの構築に貢献する看護職の役割・機能を活動事例の中から読み取り、論述することができる。 						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>1～10回. 学生の研究テーマに関する国内・海外文献ならびに地域看護活動実践報告を用いたプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p> <p>11～15回. 研究テーマで扱う事象の性質を踏まえて、本科目の目標に挙げた分析視点と方法を掘り下げ、研究方法を論述する。</p> <p><留意点></p> <p>文献検討では、看護学領域にとどまらず、関連する他の学問領域の研究動向や知見を参考とする。</p> <p>参考図書は随時紹介する。</p>						
評価方法	プレゼンテーション 50%、レポート 50%						

科目名	地域・在宅看護学演習Ⅲ	科目番号	AG02	単位	4	時間	120
教員名	安田 貴恵子 柄澤 邦江	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	地域・在宅看護学特論Ⅲで探究したテーマに関して、関連する理論、概念について文献検討を行い、看護学研究における位置づけと課題を考察する。また、テーマに即した看護活動事例を分析して、ヘルスケアシステムのサブシステムとして機能するための看護実践上の課題を検討する。これらを通して、地域看護の特徴を踏まえた研究方法を論述する。						
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 探究するテーマについて看護学研究および関連する学問領域の研究の知見を検討し、地域看護学の課題を論述することができる。 2. 1で明らかにした課題を探究するための「問い」を立て、その「問い」に基づいた調査枠組み、データ収集方法、期待できる成果等の研究計画を論述することができる。 3. 独立して論文を作成できる能力を修得する。 						
ディプロマポリシー(DP)との関連	<p>◎【D-DP-1】看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力</p> <p>○【D-DP-2】国内外で学術的な交流をする能力</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 探究するテーマに関する系統的な文献検討を行い、これまでに明らかにされた知見を明らかにし課題を検討する。 2. 探究するテーマについて、看護実践の場に出向いてフィールドワークを行い、テーマと地域看護実践上の課題との関連を明らかにする。 3. 1で取り組んだ文献検討、2で取り組んだフィールドワークに基づく検討の両方を踏まえて、研究の枠組みを検討し、研究方法を論述する。 4. 地域看護学上の意義、地域看護実践の向上に寄与する意義について、期待できる成果を論述する。 						
評価方法	レポート 60%、プレゼンテーション 40%						

里山・遠隔看護学分野

科目名	里山・遠隔看護学特論Ⅳ	科目番号	AH01	単位	2	時間	30
教員名	吉村 隆	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>里山(へき地、島しょ等)における健康資源の発見と開発のための視座と方法論の確立を探究する。それらをもとに、里山の活用の新たな可能性と再生の具体策について検討し、同時に、遠隔看護(遠隔ケア)の現状と課題についても検討を行う。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連※	<p>○D2 国内外で学術的な交流をする能力 ◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力</p>						
目 標	<p>1. 里山の自然、歴史、文化、経済、社会等に内在する健康諸資源の発見と開発の視座と方法論について探究する。 2. 里山の諸資源と里山コミュニティの再生、社会関係資本(Social Capital)の関係性について探究する。 3. 遠隔看護(遠隔ケア)による里山コミュニティの再生について探究する。</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>1. 長野県内外の里山・里海について、文献的に比較検討して、それぞれのコミュニティの特長を整理する。 2. 里山の自然、歴史、文化、経済、社会等が人々の暮らしや健康とどのように関係しているか検討する。 3. 里山の人々の暮らし・営みはどのような環境条件があれば持続可能性が高まるか検討する。 4. 里山の人々の健康支援をするための方策として、ケアにICT(情報通信技術)を取り入れる有用性と課題を検討し、里山における活用方法について探究する。</p>						
評価方法等	出席度とプレゼン力・発言力等を総合評価する。						

科目名	里山・遠隔看護学演習Ⅱ	科目番号	AH02	単位	4	時間	120
教員名	吉村 隆	科目種別	専門	開講年次		第1学年	
				開講学期		前/後学期	
科目概要	<p>里山(へき地、島しょ)および都市(特に築40年以上の団地)部における人々の知識や認識を通して自然と健康の関係性についてフィールドワーク等を通して里山看護学の理論・概念枠組みの構築、地域特性に応じた里山看護モデルの開発を探究する。加えて、遠隔看護(遠隔ケア)のモデルの開発と必要性について検討する。</p>						
ディプロマポリシー(DP)との関連※	<p>◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D2 国内外で学術的な交流をする能力</p>						
目 標	<p>1. 里山および都市における人々の暮らしにおける自然と健康の関係性についてフィールドワーク等を通して、地域特性に応じた里山看護モデルの開発を探究する。 2. 本学が開発・普及に努めている最先端地域包括ケアICTネットワークシステム(サラス)の視察を通して、現状と課題について理解を深める。</p>						
授業計画 ・内容	授業計画・内容						
	<p>1. 長野県内外の里山・里海および都市(特に築40年以上の団地)部の人々の暮らしにおける自然と健康の関係性についてフィールドワーク等を実施して、地域特性に応じた里山看護モデルの開発を探究する。 2. 途上国における里山(辺境の地)の自然、歴史、文化、経済、社会等が人々の暮らしや健康とどのように関係しているか文献等を通して検討する。 3. 里山の人々の暮らし・営みはどのような環境条件があれば持続可能性が高まるか、フィールドワーク等を踏まえて検討する。 4. 里山の人々の健康支援をするための方策として、ケアにICT(情報通信技術)を取り入れる有用性と課題を検討し、里山における活用方法について探究する。</p>						
評価方法等	出席度とプレゼン力・発言力等を総合評価する。						

共 通 選 択 科 目

科目名	ケアの哲学	科目番号	BA01	単位	2	時間	30
担当教員名	屋良朝彦	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>医療技術が高度化するとともに看護技術も高度化・専門化してきた。そのなかで、看護が抽象化しマニュアル化しつつある状況はないであろうか。そのような状況に対して、現象学的看護論や身体論的看護論において看護師や患者の「生きられた体験」を捉え直そうという機運が高まっている。本科目では現象学的看護論や身体論的看護論のテキストを読み、看護師が看護実践を通して蓄えられた「生きられた知恵」について学んでいく。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	<p>◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力</p>						
目標	<p>1. フッサール、ハイデガー、メルロ＝ポンティ、ベナーなどの現象学の基礎理論を学ぶ。 2. 現在、なぜ現象学的・身体論的看護論が注目されるようになってきたのかを理解する。 3. 現象学的・身体論的看護論のテキストを通して、看護師が看護実践を通して蓄えられた「生きられた知恵」について学んでいく。</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1～5回	<p>・フッサール、ハイデガー、メルロ＝ポンティ、ベナーなどの現象学の基礎理論を学び、現象学とは何かを理解する。</p>					
	6～10回	<p>・現在、なぜ現象学的・身体論的看護論が必要となってきたのかを、テキストを読んで理解する。</p>					
	11～15回	<p>・看護師の身体経験を分析した看護論のテキストを読み、看護師が看護実践を通して蓄えられた「生きられた知恵」について学んでいく。</p> <p>テキストはベナー／ルーベル『現象学的人間論と看護』（医学書院、2006年。4600円＋税）を予定しているが、受講者の要望があれば、ハイデガー『存在と時間』、フッサール『デカルト的省察』など、現象学の古典を部分的に読む。</p>					

博士後期課程

評価方法	授業への参加態度と毎回の小レポート。
------	--------------------

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Dは「博士後期課程」のDPを示す。

科目名	健康心理学特講	科目番号	BA17	単位	2	時間	30
担当教員名	松本 淳子	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	主として健康心理学, 臨床心理学に関する領域について, テキストを読みながら心理学の基礎的知識を修得し, 看護・保健場面における応用について考える. さらに, 心理学的研究方法についても理解を深め, 一人の研究者として看護研究を広く展開できるよう知識・技術を蓄積する.						
ディプロマポリシー (DP) との関連	◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力						
目標	1. 医療場面に関連する心理学の基礎的知識を修得し, その応用を考える. 2. 心理学的研究方法を理解する. 3. 文献を丁寧に読む習慣を身につける.						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>以下の文献を読み, 感情と抑制, 健康の関係について検討することを予定しているが, 希望により心理学の研究に関する他の文献, 内容を取り扱うことも可能である.</p> <p>Vingerhoets, A., Nyklicek, I., & Denollet, J. (Eds.) (2010). Emotion regulation: Conceptual and clinical issues. Springer, New York.</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2～ Conceptual and neurobiological issues</p> <p>13 Clinical perspectives and interventions</p> <p>14～ 看護職者の well-being (時間講師)</p> <p>15</p>						
評価方法	発表及びディスカッション						

科目名	人類学的研究方法論	科目番号	BA12	単位	2	時間	30
教員名	座馬 耕一郎	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前期	
科目概要	人類学の多岐にわたる学説について、その基本的な考え方と多様な視点を学ぶとともに、具体的な研究例を分析することで、フィールドワークをはじめとする方法論を修得する。また人類学的研究方法を看護学に応用するために考慮すべき点について考察する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力						
目標	1. 人類学の学説について基本的な考え方と多様な視点を学ぶ。 2. 具体的な研究例を分析し方法論を修得する。 3. 人類学的研究方法の看護学への応用について考える能力を養う。						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1	オリエンテーション：人類学の扱う領域について紹介し、各自の関心との関連について議論する。					
	2～4	自然人類学の学説と研究方法：自然人類学に関連する具体的な研究例について分析をおこなう。					
	5～7	文化人類学の学説と研究方法：文化人類学に関連する具体的な研究例について分析をおこなう。					
	8～10	フィールドワークの方法論：人類学のさまざまな分野におけるフィールドワークの方法を紹介する。					
	11～14	看護学における人類学的研究方法の応用について：人類学的研究方法の看護学への応用について議論する。また各自の関心に合わせた人類学的研究方法の応用についてプレゼンテーションを行う。					
15	まとめ						
評価方法	参加度(発言等)70%、プレゼンテーション 30%						

科 目 名	感染生物学特論	科目番号	BA13	単位	2	時間	30
担当教員名	坂田憲昭	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	<p>感染に関連する微生物とその宿主について、分子細胞生物学的な側面から包括的に理解する。つまり、感染の成立に際して病原体と生体との相互作用を生物の総体における総括的な現象としてとらえ、これらの知識を感染成立機序の理解につなげていく。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D2 国内外で学術的な交流をする能力</p>						
目 標	<p>1. 病原微生物を細胞生物学的な視点から理解する 2. ヒトの感染防御機構について理解する 3. 感染現象の成立に関わる機構を理解する</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>1. 病原微生物の分子細胞生物学</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 細菌及びウイルスの構造とその増殖機構 <p>2. 感染宿主の防御機構</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然免疫と獲得免疫 <p>3. 病原微生物の感染機構</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病原因子の発現制御と宿主細胞との相互作用 <p>4. 感染学・免疫学における研究手法</p> <p>5. 課題とプレゼンテーション</p>						
評価方法	レポート (50%)・プレゼンテーション (50%)						

科目名	言語文化特講Ⅱ	科目番号	BA05	単位	2	時間	30
担当教員名	戸鹿野友梨	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	<p>看護に関する英語文献の読解を通して、英語論文を読み書きするために必要な文法・語彙に関する知識を身につける。また、個人の研究テーマに合わせて、最新の英語論文を読解し理解を深めていく。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連	<p>◎D2 国内外で学術的な交流をする能力 ○D3 学術的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力</p>						
目標	<p>1. 看護に関する英語論文の読解・執筆に必要な英語の文法・語彙に関する知識を身につける。 2. 看護に関する英語文献の読解能力を高める。</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>1回：オリエンテーション 2回：5文型、英語文献の読解 3回：不定詞、英語文献の読解 4回：不定詞、英語文献の読解 5回：分詞、英語文献の読解 6回：関係詞、英語文献の読解 7回：英文読解の発表 8回：英文読解の発表 9回：英文読解の発表 10回：英文読解の発表 11回：英文読解の発表 12回：英文読解の発表 13回：英文読解の発表 14回：英文読解の発表 15回：まとめ</p>						
評価方法	<p>レポート：50% プレゼンテーション：50%</p>						

科目名	健康科学特講	科目番号	BA06	単位	2	時間	30
担当教員名	秋山 剛	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	健康の概念は時代により変化する。参加者は最新の世界における疫学研究成果について報告するとともに、そこに用いられている疫学手法と実際についてクリティークする。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力 ○D2 国内外で学術的な交流をする能力						
目標	1. 現在の疫学研究成果を発表し出席者で共有、討議する。 2. 最新の国際的な研究論文を、疫学的視点からクリティークし、その研究の長所と短所について学術的に論じることができる。						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1 総論						
	2 感染症の疫学						
	3 論文抄読 感染症の疫学 ① 環境要因と感染症						
	4 論文抄読 感染症の疫学 ② 節足動物媒介感染症						
	5 論文抄読 感染症の疫学 ③ 寄生虫感染症						
	6 論文抄読 感染症の疫学 ④ 宿主要因と感染症						
	7 論文抄読 感染症の疫学 ⑤ 対策の動向と今日的課題						
	8 論文抄読 非感染症の疫学① 生活習慣病と疫学						
	9 論文抄読 非感染症の疫学② Social Determinants of Health						
	10 論文抄読 非感染症の疫学③ Social Determinants of Health						
	11 論文抄読 非感染症の疫学④ 行動科学						
	12 論文抄読 非感染症の疫学⑤ 行動科学						
	13 論文抄読 非感染症の疫学⑥ 行動科学						
	14 論文抄読 非感染症の疫学⑦ 社会的弱者						
15 まとめ							
評価方法	プレゼンテーション内容：50% ゼミの参加度 50%						

科目名	健康支援と社会保障特講Ⅱ	科目番号	BA14	単位	2	時間	30
担当教員名	吉村 隆	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	政治・経済・文化等の急激なグローバル化によって、わが国の社会保障制度及び保健医療福祉介護システム／政策の変革が急務となっている。その現状と課題を明らかにするとともに、住民／地域のニーズにあった保健医療福祉介護システムの構築における看護の役割と機能について展望し探究する。						
ディプロマポリシー(DP)との関連	○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ◎D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力						
目標	1. わが国の保健医療福祉介護システム/政策の現状と課題及び看護の役割と機能について理解を深める。 2. 先進諸外国の保健医療福祉介護システム/政策の現状と課題及び看護の役割と機能について理解を深める。						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1 急激なグローバル化によってわが国の政治社会経済の構造と機能が、社会保障制度及び保健医療福祉介護システムにどのように影響を与えたか、そして今後どのように進展するか理解を深める。 2 わが国及び他の先進諸外国の社会保障制度の成り立ち、現状と課題について比較検討しながら理解を深める。 3 わが国の社会保障制度を、医療、年金、福祉、介護に分けて、それぞれの現状と課題について、先進諸外国と比較検討しながら理解を深める。 4 地域包括ケアシステムの構築が進展している現状を踏まえ、地域差や新たな課題について理解を深め、包括的な対応策を検討する。						
評価方法	出席度とプレゼン力・発言力等を総合評価する。						

科目名	国際看護援助論	科目番号	BA10	単位	2	時間	30
教員名	上野里美	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		後学期	
科目概要	世界の動きの中での我が国の国際看護学の歴史を理解でき、今後の課題を探求する。また、多文化共生看護や国際協力における看護の実践をもとに、国際看護の実践方略と課題に関連する理論を用いて論述する。さらに、それらの実践方略を臨地実践・教育・研究・行政などの各領域に適用し、グローバル化社会での看護の役割を指導的に発揮するための基盤となる力を修得する。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における国際看護学の発展について、グローバルな視点で説明ができ、今後の課題を述べる事ができる。 2. 国内外で求められる多文化共生看護や国際協力における看護に関連する重要な理論や概念、モデルについて説明でき、具体的な適用例をあげることができる。 3. 国際看護に関連する理論や概念を臨地実践・教育・研究・行政などの各領域に具体的に適用し、その動向と課題を説明できる。 						
授業計画 ・内容	授業計画・内容						
	1	オリエンテーション					
	2-3	国際看護に関する理論と概念①②					
	4-5	国際看護学領域の研究の動向①②					
	6-10	国際看護学領域の研究論文のクリティーク①②③④⑤					
	11-12	国際看護学領域の研究課題①②					
	13-14	国際看護の対象となる人々の健康生活支援を探求する研究方法①②					
	15	まとめ・国際看護の各領域の動向と課題を踏まえた各自の研究テーマへの適用					
評価方法	授業の準備・参加状況 40%、課題発表 40%、レポート 20%で総合的に評価します。						

科目名	生命科学特論	科目番号	BA08	単位	2	時間	30	
担当教員名	太田克矢	科目種別	選択	開講年次		第1学年		
				開講学期		前学期		
科目概要	生命科学の基本や応用を理解することは、看護系の研究者としての視野を確実に広める。そこで、学部・修士レベルの知識を講義により概説後、実際の研究でも使われる生命科学的な実験を試行し、実証的な学修形態により、理解を深める。							
ディプロマポリシー (DP) との関連	○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ◎D2 国内外で学術的な交流をする能力							
目標	博士（看護学）にふさわしい基礎科学的な知識の修得と、生命科学への理解力を身につける。							
授業計画・内容	回数	授業計画・内容					担当教員	
	1-2	・分子を実感すると世界観が変わる ・科学的な思考について ・万物を構成する原子の姿					太田	
	3	タンパク質の基礎と不思議					太田	
	4-6	演習：(唾液アミラーゼの抽出と測定)					太田	
	7	タンパク質の性質					太田	
	8-10	演習（唾液アミラーゼの pH 依存性・熱変性）					太田	
	11	核酸 (DNA と RNA)					太田	
	12	遺伝子の発現と病的変異（鎌状赤血球症を中心に）					太田	
	13-14	演習：(DNA の抽出)					太田	
評価方法	出席・講義等への参加度(60%)・毎回の口頭試問(40%)							
テキスト、参考書	テキスト：随時文献・図書を紹介する。 参考書：適宜プリントを配布する（他の参考書は基本的に不要）。							
履修上の注意点	基礎から講義を始めるので、専門知識は不要である。講義・演習（実験）予定日は履修者と相談の上で決める（夏季休業中などの集中実施も可能）。受講希望者は、開始前に担当教員に連絡を行うこと。講義・演習中に疑問を持った場合は積極的に教員に質問する態度が重要となる。							

科目名	病理病態学特論	科目番号	BA15	単位	2	時間	30
担当教員名	三浦 大志	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前期	
科目概要	<p>実際の臨床症例などから消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患などの基本病態を把握し、看護のケアに必要な病理学的視点を深く理解・探求する。</p>						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	<p>○D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ◎D2 国内外で学術的な交流をする能力</p>						
目標	<p>1. 各主要疾患の基本病態を理解できる 2. 習得知識を活用して病理・病態と看護ケアを結びつけられる</p>						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	<p>消化器疾患 ① 担当：三浦 大志</p> <p>1 消化器の基本病態を理解し、ピロリ菌感染標本を観察し病態に対する理解を深める</p> <p>消化器疾患 ② 担当：三浦 大志</p> <p>2 慢性胃炎と胃癌の標本を観察し病態に対する理解を深める</p> <p>消化器疾患 ③ 担当：三浦 大志</p> <p>3 急性肝炎、慢性肝炎の症例を用いて肝不全の病態に対する理解を深める</p> <p>消化器疾患 ④ 担当：三浦 大志</p> <p>4 肝硬変、肝癌の症例の症例を用いて肝不全の病態に対する理解を深める</p> <p>循環器疾患 ① 担当：三浦 大志</p> <p>5 虚血と梗塞の基本病態に対する理解を深める</p> <p>循環器疾患 ② 担当：三浦 大志</p> <p>6 動脈粥状硬化症の症例を用いて病態に対する理解を深める</p> <p>循環器疾患 ③ 担当：三浦 大志</p> <p>7 虚血性心疾患と心不全の病態に対する理解を深める</p>						

	8	循環器疾患 ④ 担当：三浦 大志 狭心症と心筋梗塞の症例を用いて病態に対する理解を深める
	9	呼吸器疾患 ① 担当：三浦 大志 呼吸不全の病態に対する理解を深める
	10	呼吸器疾患 ② 担当：三浦 大志 細菌性肺炎、誤嚥性肺炎の症例を用いて病態に対する理解を深める
	11	呼吸器疾患 ③ 担当：三浦 大志 慢性気管支炎の症例を用いて閉塞性肺疾患の病態に対する理解を深める
	12	呼吸器疾患 ④ 担当：三浦 大志 肺気腫の症例を用いて閉塞性肺疾患の病態に対する理解を深める
	13	内分泌疾患 ① 担当：三浦 大志 内分泌系の基本病態に対する理解を深める
	14	内分泌疾患 ② 担当：三浦 大志 糖尿病の膵臓を観察し病態に対する理解を深める
	15	難治性創傷（褥瘡）担当：上條 明生 難治性皮膚創傷動物モデルを観察し褥瘡の基本病態に対する理解を深める
評価方法	レポート（100%）	

※「ディプロマポリシー（DP）との関連」欄

Dは「博士後期課程」のDPを示す。

科目名	現象学的研究方法論	科目番号	BA16	単位	2	時間	30
担当教員名	屋良朝彦	科目種別	選択	開講年次		第1学年	
				開講学期		前学期	
科目概要	近年、看護学研究においても現象学的方法論が注目されている。というのも、現象学は患者の具体的な苦しみや悩みをその根底から解き明かすのに相応しい方法論だからである。本講義では従来難解とされている現象学を、フッサール、ハイデガー、メルロ＝ポンティ、ベナーや日本人研究者らを通して学び、最終的には実践的な現象学的看護学方法論を学修する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連※	◎D1 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力 ○D3 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力						
目標	1. フッサール、ハイデガー、メルロ＝ポンティなどの現象学の基礎理論を学修する。 2. ベナーや西村ユミ、村上靖彦等の現象学的看護研究方法を、グランデッド・セオリーなどとの他の質的研究と比較考察をしながら学修する。 3. 実践的な看護研究方法を学修する。						
授業計画・内容	授業計画・内容						
	1回～4回	・フッサール、ハイデガー、メルロ＝ポンティなどの現象学の基礎理論を学び、現象学とは何かを理解する。					
	5～8回	・ベナーや西村ユミ、村上靖彦などの現象学的看護研究方法を学び、看護研究における現象学的方法の意義を理解する。					
	11～15回	・現象学的看護研究方法を具体的に学ぶ。 テキストは松葉祥一／西村ユミ編『現象学的看護研究 理論と分析の実際』(医学書院、2014年、3200円(税抜き)を中心に用い、適宜ほかのテキストを参照する。					
評価方法	授業への参加態度と毎回の小レポート。						

※「ディプロマポリシー (DP) との関連」欄

Dは「博士後期課程」のDPを示す。



長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694

電話 0265-81-5100

FAX 0265-81-1256

E-mail kangodai-jimu@pref.nagano.lg.jp

URL <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>